

ISSN 2424-0869

日中翻訳文化教育研究

No.7

The Academic Journal
Of
SETACS
2022



日中翻訳文化教育協会
Tokyo
Beijing-Dalian-Jinhua

日中翻訳文化教育研究 The Academic Journal Of SETACS

No.7 2022

SETACS 日中翻訳文化教育協会

定価 [本体 2,500 円+税]

目 次

日中翻訳における「意味」	宮 偉	3
从“乌鸦喝水”看中日语人称主语存在的差异	侯仁锋	14
从霍尔的“编码 / 解码”理论看《生死疲劳》日译本的翻译策略 ..	邓凌志	24
ディクテーションを取り入れた翻訳訓練の試み — 日本語学科三年生を対象に —	楊潔冰	34
目的论視閥下《你好，李焕英》片名日译策略研究	李欣欣	43
閻連科小説における譫妄的叙述の翻訳 — 会話文で使われるダッシュ記号を中心に —	魏琬婧	57
中国の小学校低学年の語文学科教育における 絵本教材受容の特徴及びその原因 ——「看图說話」「看图作文」授業法の変遷に注目して —— ..	劉 娟	68
論文執筆者一覧		82
『日中翻訳文化教育研究』論文執筆要領		82
協会彙報		83
一般社団法人日中翻訳文化教育協会会員規約		84
2022 年度役員		84

INDEX

About the sense in Japanese-Chinese translation	GONG Wei	3
Differences in Subjects between Chinese and Japanese Language through Text Analysis of "The Crow Drinking Water"	HOU Renfeng	14
The Japanese Translation of Life and Death Are Wearing Me Out : A Case Study under "Encoding/Decoding" Theory	DENG Lingzhi	24
An Empiraical Study of Dictation Method in Translation Training : Taking Third-year Japanese Majors as Research Subjects	YANG Jiebing	34
A study on the Japanese translation strategy of the title of 《你好, 李焕英》 from the perspective of Skopos Theory	LI Xinxin	43
A Study on Japanese Translation of Delirium Narrative in Novels by Yan Lianke Focusing on the Translation of Em Dash Symbol in Conversational Text	WEI Wanjing	57
Reasons of picture books used in language education in early stage of Chinese Primary school (Grade 1, Grade 2) : Focus on the pedagogical transition of “picture talking and writing”	LIU Juan	68

日中翻訳における「意味」

宮 偉
城西国際大学

1 はじめに

翻訳は、辞書さえあれば誰にでもできるという認識が一般的である。また、世間一般だけでなく、学問的にも軽視される傾向がある。科研費の小区分に、「翻訳学」という項目さえないのはその証拠であろう。そして、その認識の根底には、言語や意味に対する誤解があると考えられる。つまり、言語はものやことに対する命名集だけでしかなく、その命名の意味もまた確定的客観的であるため、翻訳は起点言語を目的言語に置き換えるだけの作業であるという、誤った認識が働いている。

一方、翻訳を専門とする翻訳者は、たとえ機械翻訳を補助手段として活用しても翻訳は難しいと感じながらも、起点テキストを前にし、原文の情報をどこからどう抽出しまたどう取捨選択して目標テキストに反映させるかを、ほとんど何も考えずに機械的に翻訳を始める人は多かろう。

以上のような問題は、いずれも翻訳とは何か、また、翻訳は何を対象とするかに帰することができる。翻訳は A 言語から B 言語への、いわゆる言語記号の置き換えを手段とする行為だと思われる。そして、言語記号をも含む記号自体は、意味伝達を目的とし、意味のキャリアーである。その意味では、翻訳は意味の伝達でしかないこととなる。

翻訳は意味に対する伝達であるということは、すでに翻訳学者の共通理解となっている。しかし、意味の意味については、必ずしも共通理解に達していない。無論、意味の意味を究明することは多大な困難を伴い、不可能に近いと思われる。本稿では、少しでも意味の輪郭を明らかにし、また、翻訳においての意味に対する意識を少しでも高めようとし、日中翻訳を例に、意味の種類や発生単位について簡単に論じてみることにする。日中翻訳の実践や成果物の評価にある程度の示唆を与えることを期待する。

2 先行研究及び本稿の位置付け

意味は、世界観・価値観・人生観等人間の根本的問題にも関わる概念であり、これまで哲学者・論理学者・心理学者・言語学者・翻訳学者等により、さまざまな検討がなされている。本稿では、翻訳の立場からの意味に対する主要な先行研究を整理してみる。

許 (2009:63-89) は、「何を翻訳するか」という一章を設け翻訳における意味について論じており、「意味こそ翻訳活動において極力伝達しようとするものであり、翻訳の核心と根本である」⁽¹⁾と主張している。また、特に「差異こそ意味をなす。言語体系

から意味を確定する。意味と価値の区別」等の、ソシュールの言語論や意味論を紹介し、一対一対応の翻訳の非科学性や翻訳におけるコンテキスト重視の必要性を指摘している。

意味の分類については、同書では特に聖書の翻訳で有名なアメリカの言語学者・翻訳学者のナイダの意味論が紹介されている。ナイダは、前期では意味を「文法的意味・所記の意味・内包的意味」に分け、後期では意味には「修辭の意味・文法的意味・語彙の意味」があると見ており、そして、それらの意味にはそれぞれ「所記の意味」と「連想の意味」という二つのレベルに分けることができると考え、また、言語における意味の発生単位は語彙・文法・修辭にあると述べられている。同書では他に、Herbert Paul Grice や Roland Barthes、Jacques Derrida などの意味論や、C.W.Morris、Georges Mounin、Roger T.Bell、解釈学派による意味の分類も紹介され、意味は客観的・唯一的・確定的な存在ではないことと結論づけられ、意味の再生は交流の中でしか実現できないと主張されている。

中野（2012:23-27）では、リーチ（Geoffrey Neil Leech）の意味論が紹介されている。リーチでは、意味をまず「概念的意味」と「非概念的意味」に大別する。「概念的意味」は、「辞書の意味」とも呼ばれ、事物や出来事をカテゴリーとしてとらえ、それ自身をそれ以外のものから区別するために抽出された共通的・本質的要素の集合からなるとし、「非概念的意味」は、文脈や場面、あるいはそれとの連想により、概念的意味に付け加えられる意味であると指摘されている。また、「非概念的意味」をさらに細かく、内包的意味・社会的意味・情緒的意味・投影された意味・連語的意味・主題的意味と分け、例を挙げ論じられている。

中村（2002:3-50）では、日本語における意味について、非常に示唆に富む有意義な検討がなされている。同書では、まず言葉の意味を大きく「中心の意味」と「周辺の意味」に分けて取り扱い、特に「周辺の意味」について細かく論じられている。「周辺の意味」は「語感」、つまり、「ことばの微妙なニュアンスに対する感覚」であり、具体的には「文体的意味・感情的意味・文化的意味」があるとされる。言葉をまた、「表現する人の影」とし、「性別の語感」、「年齢の語感」、「職業の影」、「思想傾向」、「知識や教養」、「その人間の性格」などの、言葉の社会言語学的意味を論じている。そして、言葉自体にも目をむけ、「ことばの使い手の何らかのあり方に関する語感とは別に、それぞれの言葉が指し示してきた対象自体からはねかえってくる語感もある」と指摘されている。

意味については他にも示唆に富む研究が数多くなされている。しかし、翻訳実践特に日中翻訳の立場から見ると、まだ漠然としているところがあることは否めない事実でもある。

本稿は、意味に対する理論的検討をせず、日中翻訳の実践に即し、翻訳者が直面している起点テキストにおける意味の発生単位と意味の種類を、ある程度提示し、また、意味伝達の諸問題にも触れることにする。

3 日中翻訳における「意味」

翻訳は、許（2009:13）でも指摘されている通り、「言葉の置き換えを手段とし、また、意味の再生を根本的目的とする異文化コミュニケーションである」。意味の伝達が根本的目的とされる翻訳においては、翻訳者はまず考えるべきことは、意味の発生単位と意味の具体的な種類となる。

3.1 意味の発生単位

ソシユールは、言葉を「ラング」と「パロール」に分けて取り扱う。ラングは、記号のつくり方や結び付け方、あるいは個々の記号の意味領域などをめぐる規則（いわゆる文法や語彙）が制度化されたものを指すのに対して、パロールはこのラングという枠組みのなかで具体的に発せられた個々の言葉であるという。翻訳における何よりも大切な言葉の意味も、ラング上の意味とパロール上の意味の両方から求めるべきであろう。

起点テキストを前にし、言葉の意味をテキストのどこから求めるかは、翻訳者としてまず知っておくべきであろう。つまり、意味の発生単位である。言葉の単位は、文法的に小さいものの順に、「単語・文節・文・段落・文章」があるというように論じられる。単語は言葉として一番小さな単位とされ、文節は意味をこわさずに文を区切ったものであり、文はまとまった一つの意味をなす句点で終わるもので、そして、文章はいくつもの文が集まっているものであるが、段落は文章をいくつかのまとまりに分けたものとされる。

翻訳は、起点テキストの意味を目標テキストに伝達する行為であるため、起点テキストの意味に対する把握は、上述した言葉の単位から求めねばならないだろう。ただし、言葉の単位はそのまま意味の発生する単位にはならないこともある。意味には、言語内意味以外に言語外意味がある上、意味の発生は諸要素間の相互作用によるものだからである。そして言語内意味にも、先に挙げた「単語・文節・文・段落・文章」というレベル以外に、音韻レベルにおける音韻的意味があると思われる。（翻訳における音韻的意味については、後述に譲る）

また、注意すべきは、意味は各単位の意味の単純な足し算によるものではないことである。

中村（2002:23-32）では、川端康成作「伊豆の踊子」の次の一段、

はしけはひどく揺れた。踊り子はやはり唇をきつと閉じたまま一方を見つめていた。私が縄梯子に捉まろうとして振り返った時、さよならを言おうとしたが、それも止して、もういっぺんただうなずいてみせた。

を例にし、意味の複層的発生について説明している。「さよならを言おうとした」人や「もういっぺんただうなずいてみせた」人は、その所在文だけを文法的に分析するなら、「私」

にもとれるが、文章全体から見ると、また、「川端康成は三人称小説でも内部視点の叙述になる箇所が多い」という作者の作風などから総合的に判断すると、「踊り子」になるという。

上例からも分かるように、言葉の意味を理解するにあたり、単純に言葉の各単位だけに意味を求めてはならない。意味自体は、開かれた立体的な構造体であり、動的に変化しているため、意味の発生は、各単位内部の諸要素、また各単位間の諸要素の相互作用によるものである。

3.2 日中翻訳における意味の分類

意味の意味については、いくつか辞書にある解釈をまず見てみよう。

㊦記号・表現によって表され理解される内容またはメッセージ。

㊦物事が他との連関において持つ価値や重要さ。

『広辞苑』(第7版)

㊦[言語行為を成り立たせる上で不可欠なものとしての]音声と結びつけて、話し手が聞き手に伝えようとする内容。

㊦その時その文脈において、その言葉が具体的に指し示す内容。

㊦その人が何かをした時の動機・意図。

㊦意義㊦⁽²⁾。

㊦[今まで述べてきた]趣旨。

『新明解国語辞典』(第7版)

意味については、辞書においての解釈でさえも、大きな違いが見られる。このように、意味の意味は、人類の根本に関わる問題でもあるため、何世紀にわたって様々に議論されてきたが、統一した見解はない。また、意味に対する正解は永遠にないとも思われる。しかし、意味の再生を根本的目的とする翻訳の全過程は、意味との付き合いであるため、意味の輪郭をなるべくはっきりさせたい。

本稿では、翻訳における意味を、まず中村(2002)に倣い、「中心的意味」と「周辺の意味」に大別し、そして「中心的意味」には、単語レベルにおける「辞書の意味」と、文レベルにおける「文法の意味」があり、「周辺の意味」には、それぞれ「音韻の意味」・「語用論的(文脈的)意味」・「文体的意味」・「感情的意味」・「文化的意味」があると見る。それぞれの意味について徹底的に論じることが、紙幅の関係で不可能であるため、本稿では、それぞれの意味を概観した上、個別例だけを挙げ説明することにする。

3.2.1 中心的意味 — 辞書の意味

辞書の意味は、辞書によって解釈される単語や語句の意味のことを指し、概念的意味や命題の意味とも呼ばれている。具体的あるいは抽象的な事物や、その事物の特徴、

状態、行為などを表す概念であり、理解や伝達の基礎と根拠をなしていると考えられる。翻訳者が一番頼りにしているのはまずこの辞書的意味であろう。しかし、翻訳は辞書を引けばできるような機械的作業ではない。ソシュールによるシニフィアンとシニフィエの関係に関する指摘から分かるように、言語という記号表現の変換は記号内容の変化をもたらす。また、言語間翻訳は、人類共通の経験や認識があってはじめて可能となるが、人類共通の経験や認識は絶対的なものではないため、翻訳は決して一对一の置き換えではない。

「私は学生です」の中国語翻訳は、「我是学生」に訳して問題ないと信じる人が多いだろう。「私」は中国語の「我」に当たり、日本語の「学生」と中国語の「学生」は意味的に一緒であると、日中辞典や授業ではそのように教えられているからである。しかし、日本語の一人称には、男女別がある上、たとえ男性用の一人称であっても、「私（わたくし）、私（わたし）、僕、俺、自分、うち、わし、…」など数多くあり、場合や場面、使用者の意図により使い分けられている。「私」は必ずしも中国語の「我」と一致しない。また、「学生」については、日中共に「学校で教育を受けている人」という辞書的意味を有している一方、日本語では、「特に、大学生。◇ふつう、中学・高校生は「生徒」、小学生は「児童」として区別する」（『明鏡国語辞典』第3版）と、細かく分けて取り扱う。「学生」に対する分節は、日本語と中国語では、一致していないことが分かる。そうすると、「私は学生です」は「我是学生」に当たるかが、疑わしいことになる。

このように、言語間における単語の意味的關係は、たとえ基本的な辞書的意味にも、一对一の対応関係になく、一对多・多対一・一对部分・部分対一・一对〇・〇対一等々、多種多様な様相を呈している。辞書的意味は言葉の基本的な意味ではあっても、翻訳時には辞書的意味をそのまま機械的に置き換えることは避けるべきである。

3.2.2 中心的意味 — 文法的意味

どの言語も、その言語独特な文法という切り取り方で世界を捉えて表現している。文法的意味は、文という言葉の単位で生じる意味を指している。

日中文法の違いは、日中対照言語学の立場から様々に論じられているが、本稿は、日中翻訳実践の立場から、翻訳者は特に注意すべき日本語文法の特質性を、「辞的表現」だけを例に、簡単に説明する。

言語過程説を提唱し現代日本の言語理論を完成させた時枝誠記は、伝統的な国語学に基づき、陳述の有無によって文の構成要素を「詞」と「辞」に分け、客観的事実を「詞」により、そして主体的認定を「辞」によって表現すると捉えている（時枝 1950）。日本語においては、客観的事実を表す「詞」は無論大切であるが、「辞」は物事に対する肯定・否定や物事間の関係、話者の心情などを表すため、なくてはならない重要な役割を果たしている。「I love you」を「月が綺麗ですね」と訳した夏目漱石の話は有名であるが、「月が綺麗ですね」なら「I love you」と無関係になる。日本語には、和語以外に、漢語や外来語が氾濫すると言われるほど大量に使用されているにもかかわらず、日本

語が日本語のままでいられるのは、辞のおかげでもあるだろう。下村（1964:24）でも、『てにをは』は日本語の特色であることは本居宣長が既に強調したところである。のみならず『てにをは』によって日本語の表現はかなり正確な論理性を持つ」と指摘されている。日本語の意味は辞的表現によって決まると言っても過言ではない。日中翻訳では、辞的表現に秘められている日本人の心を読み取ることが大事である。

文は、翻訳における根幹的な言語単位である。日中翻訳では、そういう日中両言語間の異なる文法体制を、理解しておくことが何より大事である。

3.2.3 周辺の意味 — 音韻の意味

音韻によって引き起こされる意味は、特に詩歌など文学作品や広告などによく見られる。音韻も、意味の構築に大きく貢献している。しかし、翻訳においては、音韻の意味に対する理解と再現が、非常に困難なところでもあろう。

明治時代の俳人正岡子規の有名な俳句「柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺」を例に見る。「柿食えば」にある「ka・ki・ku」の子音をカ行音順で重ねるという作者の遊び心や、「柿(kaki)」「食え(kue)」「鐘(kane)」にある「k」音による柿の感触や鐘の秋空に響く音、そして「鳴るなり」にある「na」の繰り返しは、いずれも意味として前面に出ている。柿の味、鐘の音そして秋のひんやりした空気など秋の訪れが実感されるこの名句には、語の音韻も意味の構築に貢献していることが明らかである。しかし、この音韻の意味をいかにして中国語に訳すかが問題である。『人民中国』（2019年5月5日ネット版）では、「中国人にとって俳句は難解か」を題にし、正岡のこの名句に対する、日本文学研究者の李芒氏の名訳「方啖一顆柿，鐘聲悠婉法隆寺」（今し方柿を食べると、法隆寺の鐘が遠くまで鳴り響いた）が紹介されている。当記事は、「中国の読者がこれを読んで、まず疑問に思うのは、なぜ柿（晩秋の季語）を食べたら法隆寺の鐘が鳴ったのか、リンゴではいけないのか」と、中日間の文化的違いを問題視している。しかし、翻訳の立場から見ると、それ以外にも、原句にある音韻の意味は訳文に反映されていないこと、また、反映させられないことも、実に残念なことでもあろう。

言語により、音韻の表現や美意識が異なるため、それを外国語に完璧に訳出することが大変な困難を伴うことが予想される。それでも、意味に対する理解は、できるだけ徹底的にされたい。

3.2.4 周辺の意味 — 語用論的（文脈的）意味

言語学では、言語表現と言語使用者や文脈の関係から意味を扱う言語理論が語用論である。このような言語表現と言語使用者や文脈の関係から読み取る意味を、本稿では語用論の意味あるいは文脈の意味と称する。『新明解国語辞典』（第7版）の㊦の解釈とも一致している。言葉の意味は、辞書に書かれた通りの意味以外に、こうした語用論の意味に対する読み取りが、日常的に求められている。

日本語は、特に文脈に大きく依存する言語として注目されている。「うなぎ文」とさ

え言われている「僕はうなぎだ」は、文脈により、「僕は鰻丼を食べる」、「僕は鰻が好きだ」、あるいは他の意味にも取れる。「ばか」は、『明鏡国語辞典』(第3版)によると、「頭のはたらきがにぶいこと。また、その人。愚か(もの)。あほう」という意味がある一方、「身内などでは親しんでも使うが、公的な場では最大の罵倒語となる」。罵倒語になるか、それとも親しみを込めている語になるかが、文脈を抜きにしては理解できない。「今日は暑いですね」という発話は、天気が暑いという額面通りの意味以外に、場合により、「窓を開けてください」、「クーラーをつけてください」、あるいは「冷たい飲み物が飲みたい」という意味にも取れる。発話者の正確な意図を読み取るには、場面や発話参加者の関係性などからの判断が必要になる。

語用論的意味に対する読み取りは、起点テキストに対する理解の構築において、非常に大切であろう。しかし、翻訳の伝達という段階においては、翻訳者が理解できた語用論的意味、言葉の裏の意味を、どのように目標テキストに反映させるかが、問題である。モナ・バイカー&ガブリエラ・サルダーニャ (2013:71-77) では、「SL では文脈や状況から明らかであるために暗示的に留められていたものを、TL で明示的に表す文体上の翻訳技法」として、ヴィネイとダルベルネが導入した「明示化」が紹介されている。また、明示化の種類については、「義務的明示化」、「任意的明示化」、「語用論的明示化」と「翻訳に内在する明示化」の4種類に分けて取り扱われる。「僕はうなぎだ」のように、「二言語間の統語論的・意味論的な構造上の相違」により、明示化しないと訳文の読者に理解してもらえない情報に対しては、明示化する義務がある。しかし、「今日は暑いですね」のような発話は、そのまま目標言語に訳しても、受容者の理解に支障のない情報は、翻訳者は特に前面に出て明示化しないほうが良いと思われる。翻訳者の役割が問われる問題でもあろう。

3.2.5 周辺の意味 — 文体的意味

文体は、「文章のスタイル」(『広辞苑』第7版)とも呼ばれ、広義と狭義の意味で捉えられている。泉子・K・メイナード (2004:98) では、スタイルの研究分野について、次のように指摘されている。

従来の特定の作家の作風を研究するという分野でも取り扱われてきた。個人のスタイル、または同一の書き手が異なったジャンルで使ったり使わなかったりするスタイルの混用などの研究も将来の課題である。加えて、言語のバリエーションという観点からのスタイルの混用の研究も興味深い。共通語と方言の混用、年代差のある言語の選択と混用、性差を表現する言語のステレオタイプを利用したスタイル混用などについても、研究を広げていく必要があるだろう。

本稿では、泉子・K・メイナード (2004) で取り上げられている広義的意味上の文体を取り、特に日本語の文体 (スタイル) の混用を問題にする。

スタイルの混用による表現効果の喚起も、どの言語にもある現象だと思われる。しかし、泉子・K・メイナード(2004)の取り上げた性差表現や「ダ体とデス・マス体」、「デアル体とダ体」のシフトや混用は日本独特な言語現象である。それ以外に、本稿では「表記による文体」をも、日本語文章の文体上の特色と見ることにする。紙幅の関係で、本稿では、表記による文体だけを取り上げて分析する。

日本語は、和語・漢語・外来語・混種語という語種と、漢字・平仮名・片仮名・ローマ字等による表記体系があり、世界に類を見ない漢字仮名交じり文をなしている。表記の混用は、混乱のように見えるが、日本語では修辞のように使われ、それぞれ異なるイメージの喚起を図り、表現上の特別な効果を狙うことに利用されている。漢字は教養があり格調が高いというイメージを読み手に与える反面、堅苦しい・古臭い等の印象も与える。平仮名は、最初は女性が使う文字であり、親しみやすい・馴染みやすい感じがある一方、多用しすぎると幼稚なイメージが免れない。片仮名は、漢文経典を読み下す時に経典の余白に入れられたヲコト点が始まりで、第二次世界大戦まで漢字と片仮名の組み合わせで使われていたが、今は外来語や強調のための表記として利用され、ファッション的なイメージがある一方、俗っぽいという印象もある。ローマ字は、OL・NHKのような略語以外に、英語の表記をそのまま利用する場合もあり、真新しい・西洋的というイメージが喚起される。日本語の表記に秘められたこのようなイメージは、修辞のように活用され、連想的意味を醸し出す役割を果たしている。ダニエル・ロングほか(2001:30)でも紹介されているように、博物館の名称の表記は漢字が多用されるのに対して、遊園地やテーマパークの名称は平仮名と片仮名が多く見られ、ライブハウスはカタカナとローマ字が幅を利かせるというように、日本語ではそれぞれの施設のイメージに似合う表記が行われる。また、暗黙の表記ルールに故意に違反してイメージ作りの例も日本語に数多くある。「パンわーど」や「西武園ゆうえんち」のように、片仮名や漢字を使うはずの場合も平仮名を使うことにより、身近な・親しみやすいというイメージを狙う例は数多くある。無論、その反対もある。

しかし、漢字だけの中国語では、日本語表記のイメージまで訳出するのは至難の業であらう。ただし、翻訳は同レベル間の意味伝達に限らないため、目標テキストでは、文や文章などのレベルにおける要素を動員すると、類似の効果を作り出すことは不可能でもないと思われる。

3.2.6 周辺の意味 — 感情的意味

言葉は、使用者の思想・感情・意志等を伝達するための記号体系でもある。言語によるコミュニケーションでは、ものやことに対する話者の感情は、自然に言葉に現れる。このような、言葉に現れる話者の感情を表す意味が、感情的意味である。日本語には例えば、同じく「目的を達成するための行動の内容を表す語」として、「仕方・方法・手段・手口・やり口」等があるが、「手口・やり口」は「犯罪・悪事などよくないことに対して用いられることが多い」(『使い方の分かる類語例解辞典』)。第二次世界大戦

で日本が負けて戦争が終わったという事実に対して、「敗戦」と「終戦」という言い方がある。中村（2010:825）によると、『終戦』という語が現実の認識をうやむやにし、ふれたくない事実の別の側面に焦点を当ててうまくおさめた絶妙のしのごであったのに対して、『敗戦』は）現実を率直に見据える自覚を映す表現」である。

語彙レベルだけに見られる現象ではない。文や文章にも言語使用者の感情がそのまま反映されていると考えていい。日本語の敬語の使用はその一例である。敬語は、人に敬意を表す機能がある一方、人との距離作りや皮肉などにも利用されている。現代日本語では、妻が夫に向かって発する「実家に帰らせていただきます」は、夫に対する妻の敬意よりも、離婚寸前の夫婦関係を彷彿とさせるだろう。

言葉に見え隠れする感情を、翻訳者として敏感に汲み取り、うまく目的テキストに反映させる責務がある。

3.2.7 周辺の意味 — 文化的意味

言葉は、文化の一部であり、文化のキャリアーでもあるため、文化をなくして言葉は語れない。言葉には、その言葉使用者の感情だけでなく、その言葉の生まれた所の歴史的・文化的情報も秘められている。

江戸東京博物館の解説パネルには、明治時代初期の文明開化や西洋文化の和風化に対する説明に、「牛鍋くわねばひらけぬ奴」という言葉があり、そして、その中国語対訳は「不吃牛肉鍋，不算开化人（牛肉鍋を食べない人は文明開化していないやつだ）」になっている。言語的には全く問題のない翻訳である。しかし、この中国語翻訳は、日本文化の分からない中国人読者には伝わらないだろう。というのは、起点テキストには、奈良時代から1200年の間肉食を穢れたものと見るため、肉（特に牛肉）を食べない、という日本文化の情報が含まれているからである。言葉の文化的意味は、翻訳時に何かの手段で訳文に補足しないと、失われてしまうことになる。

文化的意味は、語彙や句レベルにだけでなく、文にも文章にも現れる。芳賀（2004:200-203）では、アメリカの映画「モロッコ」のセリフ「I changed my mind」の日本語字幕訳が「気がかわった」だったことを、「これが自然な日本語だ」と評価し、そして、その理由を、日本の「人間が突出せず自然の中にひそむ凹型文化」に求める。鈴木（1977:50）でも、「日本文化の鼻に対する極度の偏向」として、「日本の小説で、始めて主人公が登場してくる時、もし作者がその人の顔を詳しく描写するならば必ず、目や口や眉とともに、鼻がどうだということが出てくる。ところが、英語の小説を読んでいるうちに、顔が克明に描かれている場合でも、どうしたことか鼻への言及が少ないことを発見した」ということを挙げている。文化の違いは文章の構成にも影響する一例でもあろう。

文化は、直接的あるいは間接的に情報の形成に関わっている。意味の伝達を目的とする翻訳は、文化を抜きにして、意味に対する解読も伝達も無理であろう。

4 意味の伝達

以上、意味の発生単位と意味の種類を網羅的に述べてきた。以下は、意味の伝達について簡単に述べる。

筆者は、起点テキストの全ての意味を漏れなく理解することは不可能であるだけでなく、理解できた全ての意味を目標テキストに漏れなく伝達することは不可能であり、不必要でもある、と主張したい。

意味は、客観的な存在ではない。起点テキストを前にし、誰が読んでも同じような意味を獲得することはあり得ない。アンソニー・ピム（Anthony Pym）（2020:171）では、現代の「読解の理論」を紹介し、テキストの意味は、「読者がテキストに持ち込むものから能動的に想像される、という読者スキーマとテキストスキーマの相互作用」であると指摘されている。「千人の読者に千人のハムレットがある」と言われるが、テキストの意味に対する解読は、読者とテキストの相互作用によってはじめて創出される。翻訳者は、起点テキストの読者としてその意味を解読するため、得られた意味は翻訳者なりの意味でしかないことになる。起点テキストに対する完全な意味の獲得は、不可能と言っていいだろう。

起点テキストの全ての意味を理解することは不可能である。その上、理解できた意味を全て目標テキストに訳出することは、不可能であるだけでなく、不必要でもある。前文では、正岡子規の俳句「柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺」の音韻的意味を分析し、そして『人民中国』の中国語翻訳に対する論評を紹介している。秋の季語として日本人は柿をあげるのに対して、中国人はりんごを秋の代表的な食べ物とする。また、同じ柿でも、日本では硬い柿を食べるのに対して、中国では柔らかい完熟した柿を食べる。その意味では、たとえ原句に潜んでいる音韻的意味が分かっても、それを訳出することが至難な技であるだけでなく、文化的差異を克服することはまた困難極まりないことである。ただし、翻訳者として、起点テキストから得た情報を、漏れなく全て目標テキストに伝達することも、不必要でもある。翻訳者は常に、形か内容か、同質化か異質化か、そして具体的な意味を伝達する時にも、前述した多くの種類の意味から何を優先して訳文に反映させるか、等の選択に迫られている。選択肢はたくさんあっても、目標テキストでは一つに決着するしかない。翻訳の目的、起点テキストと目標テキスト間の言語的・文化的差異、読者のスキーマや目的等の諸要素に対する総合的判断を、翻訳時の取捨選択の基準にすべきだろう。

5 終わりに

以上、日中翻訳における意味について、特に翻訳実践の立場からごく簡単に論じてきた。しかし、日中翻訳の意味は上述したものよりはるかに複雑であり、意味に対する検討は尽きることはないと思われる。

翻訳は、筆者の理解では、「理解」と「表出」という二段階、そして「音韻・単語・文節・文・段落・文章」という言語の諸レベルにわたる、意味の等価的伝達を理想とする異

文化コミュニケーション行為である。意味の伝達を根本的目的とする翻訳は、その全過程において、多種多様で立体的で開かれた構造をしている意味との付き合いである。翻訳行為においては、起点テキストの意味を多方面からできる限りの理解を図り、そして、訳出時に翻訳の目的等を踏まえての取捨選択の勇気や叡智が求められるだろう。翻訳における意味に対する詳細な追究は、これからの課題とする。

注：

- (1) 本稿での、中国語引用文に対する翻訳は、全て筆者によるものである。
- (2) 「意義⊖」は、『新明解国語辞典』（第7版）では、「そのものでなければ果す（担う）ことのできないという意味での、存在理由」である。

参考文献

- [1] アンソニー・ピム著・武田珂代子訳 (2020) 『翻訳理論の探究』 みすず書房
- [2] 遠藤織枝ほか (2002) 『使い方の分かる類語例解辞典』 小学館
- [3] 北原保雄 (2020) 『明鏡国語辞典』（第3版）大修館書店
- [4] 许钧 (2009) 『《翻译概论》』 外语教学与研究出版社
- [5] 下村寅太郎 (1964) 「言語と思维」『科学基礎論研究』
- [6] 新村出編 (2018) 『広辞苑』 第7版岩波書店
- [7] 人民中国 http://www.peoplechina.com.cn/zlk/whqt/201905/t20190505_800166846.html (参照日 2021年11月25日)
- [8] 鈴木孝夫 (1977) 『ことばと文化』 岩波新書
- [9] 泉子・K・メイナード (2004) 『談話言語学』 くろしお出版
- [10] ダニエル・ロングほか (2001) 『応用社会言語学を学ぶ人のために』 世界思想社
- [11] 時枝誠記 (1950) 『日本文法口語編』 岩波書店
- [12] 中野弘三 (2012) 『意味論』 朝倉書店
- [13] 中村明 (2010) 『日本語語感の辞典』 岩波書店
- [14] 中村明 (2002) 『日本語のコツ』 中公新書
- [15] 芳賀綏 (2004) 『日本人らしさの精神構造』 大修館書店
- [16] モナ・バイカー&ガブリエラ・サルダーニャ編, 藤濤文子監修 (2013) 『翻訳研究のキーワード』 研究社
- [17] 山田忠雄ほか『新明解国語辞典』（第七版）三省堂

从“乌鸦喝水”看中日语言人称主语存在的差异

侯仁锋

县立广岛大学

1 引言

前些时日，一位大学同学在微信大学同学群中发上来“乌鸦喝水”⁽¹⁾的小学课文，并提及这篇课文给她留下了深刻的印象等等。课文如下：(为了确保真实，使用照相原版。)

wū yā hē shuǐ
19 乌鸦喝水

yì zhī wū yā kǒu
一只乌鸦口

kě le dào chù zhǎo shuǐ hē
渴了，到处找水喝。

wū yā kàn jiàn yí gè píng
乌鸦看见一个瓶

zi píng zi lì yǒu shuǐ
子，瓶子里有水。

kě shì píng zi lì shuǐ bù duō píng kǒu yòu xiǎo wū
可是，瓶子里水不多，瓶口又小，乌

yā hē bù zháo shuǐ zěn me bàn ne
鸦喝不着水。怎么办呢？

wū yā kàn jiàn páng biān yǒu xǔ duō xiǎo shí
乌鸦看见旁边有许多小石

zi xiǎng chū bàn fǎ lái le
子，想出办法来了。

wū yā bǎ xiǎo shí
乌鸦把小石

zi yí gè yí gè de fàng
子一个一个地放

jìn píng zi lì píng zi lì
进瓶子里。瓶子里

de shuǐ jiàn jiàn shēng gāo wū
的水渐渐升高，乌

yā jiù hē zháo shuǐ le
鸦就喝着水了。



我当然也学过这篇课文。这次重新过目，除了感怀岁月如梭之外，由于个人经历了学习日文、教授中日文等，对这篇文章产生如下看法。

2 汉语的多主语性

第一点，选“乌鸦喝水”作为小学课文的目的何在？

思来想去，如果说这篇文章作为课文有教育意义，可能就在于告诉小朋友，遇到困难要像乌鸦一样，动脑子想办法解决。

第二点，从教育学的观点看，可以说教学效率不佳。

这篇课文共 97 字，“乌鸦”出现了 6 次，12 字，“瓶子”（“瓶”1 次）也出现了 6 次，11 字，两者共 23 字，仅这两个词，占到了课文总量的 23.7%，约四分之一。汉语以字为本位，在小学学这篇课文的时期，也许正是识字教学阶段，可见，选择这样的课文，不能带来有效的教学效率，而且“乌鸦”一词，既不是常用词也不是常用字，不能不说有点浪费了孩子的宝贵时间。

第三点，再一次看到了汉语句子的多人称主语性。

这是笔者最想指出的一点。这篇课文共 7 句话，如下文中下线所划出的那样，“乌鸦”作为主语出现了 6 次，几乎每一句话都有一个主语。如果我们不学外语，不和外语做比较，或许也意识不到汉语的这一特点。笔者试着译成了日语，在日语中就变成了只有两个“カラス”主语就可以了，参照下文。（下线为笔者所加）

需要说明的是，如本文的题目所示，本文主要想探讨中日语言的人称主语差异。课文“乌鸦喝水”的“乌鸦”虽并非人称，但作为行文造句的主语，其功能、用法是相同的。如果我们视为拟人写法，课文中的第一个“乌鸦”之后，其他“乌鸦”均可用“它⁽²⁾”（当然用“他”或“她”也未尝不可）代替，从语法到意思应该完全是一样的。笔者这里引用此文，是因为它太经典，首先主要想藉此能观察到汉语的多主语特点。

乌鸦喝水

一只乌鸦口渴了，到处找水喝。乌鸦看见一个瓶子，瓶子里有水。可是，瓶子里水不多，瓶口又小，乌鸦喝不着水，怎么办呢？

乌鸦看见旁边有许多小石子，想出办法来了。

乌鸦把小石子一个一个地放进瓶子里，瓶子里的水渐渐升高，乌鸦就喝着水了。

（日语译文）

水を飲むカラス

のどが渴いたカラスは、あちらこちらに水を探したら、瓶が見つかった。瓶に水があるが少ないし、瓶の口も小さいので飲めない。どうしよう。

カラスは瓶の周りに小石がたくさん散らばっていることに気づくと、アイデアが湧いてきた。

その小石を一つ、また一つと瓶に入れては、瓶の中の水が徐々に上がってきて、飲めるようになった。

（笔者自译）

这篇课文太具有代表性了，也许象征了我们中国人日常说话、写文章等都这样无意识地多立主语行文。

基于“行为主义语言观”⁽³⁾，概而言之，认为语言是一种行为，它是通过长期的刺激习惯形成的。因此，语言习得和学习确实有“习惯成自然”的部分。这在外语学习上，便是母语的表达习惯很容易负迁移到学习的目标语言。我们知道，日语原本就是一种多省略的语言，特别是多省略主语，而我们中国人学日语，说日语，由于耳濡目染地受上述母语结构习惯的影响，则几乎每句话都不离主语。

现举一例为证。

笔者曾任教过的日本县立广岛大学，和国内几所大学是友好学校，每年都接收日语专业的交换留学生（多是选派来的优秀学生）来留学，来后学校一般为他们举办个欢迎会，当然也有来自别的国家的留学生。会上，请他们做自我介绍，中国留学生几乎毫无例外，开口都是“わたしは”开始。例如：

わたしは王〇〇で、中国の西安〇〇大学から来ました。

わたしは中国の大連〇〇大学から来た趙〇〇です。

わたしは

这的确也不错，但不地道，不能不说是受了汉语行文造句习惯影响的结果。

而日语自我介绍的模式如下，是不需要出现“わたしは”的。



所以，上面的自我介绍，大凡可以如下说：

中国の西安〇〇大学から来た王〇〇と申します。

中国の大連〇〇大学からまいりました趙〇〇です。

对比语言学的任务之一就是发现语言间的差异，尽量减少母语的表达习惯对目标语的负迁移。

3 不要（省略）主语的类型和形式

关于语言是否需要主语及其主语是如何呈现在句子中的，有如下这样一个调查。
该调查对世界上 711 种语言的主语呈现情形进行了观察、分类、统计，结果如下：

- (1) 以动词的形式表示主语的人称，主语可以省略的语言，有 437 种；
- (2) 必须明示主语（堪称义务）的语言，有 82 种；
- (3) 把代词放在与主语不同的位置表示的语言，有 67 种；
- (4) 通常不明示主语的语言，有 61 种；
- (5) 用动词以外的词的形式表示主语的人称，主语可以省略的语言，有 32 种；
- (6) 上述混合型的语言，有 32 种。

（根据日文维基网页翻译，URL 见参考文献）

这里由于篇幅所限，就不一一列出具体是哪些语言了，只提及相关部门。

“（2）必须明示主语的语言”除了英语之外，还有印度尼西亚语、德语、法语、俄语等，并不是多数派。

有意思的是，汉语和日语同被分类在“（4）通常不明示主语的语言”中，这可能主要是指在口语中的使用情形，依靠语境，不言而喻，如汉语中，也多见主语“承前省或蒙后省”。但仅就汉语和日语而言，虽被分在同类，但笔者认为在程度上有很大差异，可以说是一种“小巫见大巫”的情形。因为日语明显地还具有分类“（1）”的特征，能“以动词的形式表示主语的人称，主语可以省略的语言”，如大量的敬语的存在、授受表达等等的使用，举例如下：

尊敬语

いらっしゃる、ご覧になる、召し上がる ……

自谦语

参る、拝見する、いただく ……

授受表达

読んであげる、書いてやる、話してくれる、聞いてもらう、教えていただく ……

愿望表达

見たい、聞きたい、行こう、読もう、見たがる、聞きたがる ……

被动表达

言われる、怒られる、注意される ……

感情形容词

楽しい、うれしい、悲しい、痛い ……

这些动词（形容词）中都包含了主语，如果再说（写）出来，就是画蛇添足了。这也可以看成是一种语言的“经济性”，做到了一举两得。

所以可以看出，主语的使用有各种各样的方法，“没有主语句子就不能成立”只是一部分语言的约定俗成。英语中需要主语，基本上并不是意义上的需要，只是结构形式上（統合論）的需要。在这点上，汉语有点类似英语，而日语堪称是一种典型的“没有主语也能成立”的语言，两者的差异请看下文的具体探讨。

4 汉语行文上多用人称（代词）主语

我们下面举日本电视剧《东京爱情故事》（東京ラブストーリー）的一段对话及其汉译为例，观察中日语言人称主语的存在形式及其与是否需要呈现。这段对话及其汉译如下：（文中下划线为笔者所加，以示主语。每段末尾括号中是这句段话的日汉各自主语的数量。）

リカ：そんなに私のことが好きなんだ。うん、知らなかったな。あ、そう。けどね、私の気持ちってものもあるし、そう簡単には両想いにはなんなよ。/原来你这样喜欢我啊。我怎么不知道呢。原来如此。可是，我也有我的想法，哪有那么简单地两相情愿呢？（日语 0，汉译 3）

完治：頑張る。/我会努力。（日语 0，汉译 1）

リカ：夜中に寂しい時、飛んできてくれる。/如果半夜我寂寞时，你会过来陪我吗？（日语 0，汉译 2）

完治：飛んでく。/我会过去陪你。（日语 0，汉译 1）

リカ：ヒマラヤの天辺から電話したら、迎えに来てくれる。/如果我在喜马拉雅山顶打电话，你会来接我吗？（日语 0，汉译 2）

完治：迎えに行く。/我会去接你。（日语 0，汉译 1）

リカ：あったかいおでん持ってきてくれる。/你会带热气腾腾的杂烩给我吗？（日语 0，汉译 1）

完治：屋台ごと持っていく。/我会把整个摊子都带过去。（日语 0，汉译 1）

リカ：ビートルズのコンサートを家で開きたいって言ったら/如果我说想在家里开披头士的演唱会呢？（日语 0，汉译 1）

完治：連れてくる。/我会请他们去。（日语 0，汉译 1）

リカ：ジョンはどうすんの。/那约翰蓝农怎么办呢？（日语 1，汉译 1）

完治：俺が代わりに歌う。/我替代他唱。（日语 1，汉译 1）

リカ：魔法を使って、この空に虹かけてって言ったら/如果我说要用魔术在天空中画个彩虹呢？（日语 0，汉译 1）

完治：それはできないかもしれないけど/那也许办不到。（日语 1，汉译 1，非人称不计）

リカ：じゃ、だめだ。/那不行。（日语 0，汉译 0）

完治：でも、魔法だったら使える。/但是，我能用魔术。（日语 0，汉译 1）

リカ：どんな/什么样的？（完治走到莉香跟前，轻轻地吻了莉香）好き？好き？/你爱我吗？爱吗？（日语 0，汉译 1）

完治：あ／爱你。（日语 0，汉译 0）

リカ：愛してるって言って／那你说“我爱你”。（日语 0，汉译 2）

完治：愛してる。／我爱你。（日语 0，汉译 1）

リカ：名前をつけて言って／连名字一起说。（日语 0，汉译 0）

完治：愛している、リカ。／我爱你，莉香。（日语 0，汉译 1）

リカ：愛してるよ、完治。／我爱你，完治。（日语 0，汉译 1）

日语原文人称主语与汉译人称主语的统计

	日语	汉语
人称主语	2	24

这是笔者很久以前收集的资料，译者不详，对于译文，笔者对照原文反复审视了，觉得翻译上乘，读来非常自然，没有牵强附会之感。笔者仅仅只做了一个字的修改，并非笔者为了自圆其说，自作汉译，而故意多翻译出几个主语。所以可以说上表的数据比较客观，可窥出中日文在句中主语的使用情形。

无独有偶，这个数据又从另一个侧面（外文汉译）证实了汉语行文的多主语性，与在“乌鸦喝水”中观察到的堪称异曲同工。翻译，也是一个很好的观察语言差异的途径。

5 日语文体上呈多样人称（代词）主语

笔者在《にっぽん語考現学》⁽⁴⁾一书中看到了这样一篇小故事，如下：（文中下线为笔者所加，以示主语。）

ライオンとクマとオオカミとキツネとサルとウサギとハツカネズミが一緒にピクニックに行って、同じ気持を言うが、それぞれ言い方が違うのだ。

まず、ライオンがクマに命令する。

「わが輩は昼寝をしようと思う。そちは、見張りをしておれ」

クマはオオカミに対して言う。

「おれはちょっと昼寝をする。貴様はよく見張っている」

オオカミはキツネに対して、

「わしはちょっと昼寝をしたい。おまえ、見張りをしてくれないかね」

キツネはサルに対して、

「あたしはちょっと昼寝をするよ。あんた、すまないが見張っていておくれ」

サルはウサギに対して、

「ぼくはちょっと昼寝をするからね。きみ、見張っていてね」

ウサギはハツカネズミに対して、

「わたし、ちょっと昼寝するわ。あなた、見張りをしてくださらない？」

最後のハツカネズミも眠くなったが、

「あたいには見張りを頼む相手がない」

と言って、ここでおしまいになる話しであるが、とにかくこういった言葉づかいの変異、言葉の違いというものは、日本語なればこそできる表現である、ということになる。

读后可知，这些主语不是语言结构需要而出现的，纯粹是出于表达内容的需要，为了表达身份而使用的。如果仅仅只是为了表示主语，那么大可都完全可换成“わたし”、“あなた”，但文章（谈话）就会骤然失色，索然无味。所以，我们不妨说，日语行文中也常出现人称主语，但这些主语与英语、汉语的不同，不是行文结构上所需要的，而多是表达上的文体需要。

笔者以前一直觉得，日语一方面行文、说话很少使用主语，而另一方面日语中又存在着大量的人称代词，而且我们也知道，一般而言，人称代词多用于表示主语。既然日语中说起话来不太用主语，那么又有这么多人称代词有什么用呢？一直耿耿于怀，不能释然。仅据大野晋在《日本語練習帳》⁽⁵⁾中所列举的，就有如下那么多。

第一人称

わたくし、わたし、わっち、あたし、あたい、おれ、おら、おいら、われ、こちら、こっち、ちとら、うち、それがし、手前、手前ども、自分、ぼく、我輩、予、拙者、小生、不肖

第二人称

あなた、あんた、こなた、おまえ、てまえ、そなた、そち、その方、なんじ、きみ、おぬし、おのれ、貴兄、貴女、貴君、貴下、貴殿、貴公、貴様

第三人称

かれ、かの女、あいつ、あれ、あの方、あちら、そいつ、やつ、そやつ、こいつ、こやつ、御仁（ごじん）

和其他语相比，日语的人称代词呈多的倾向，如有这样的论述：“ベトナム語には「私」を表す単語が12あり、中国には10以上、日本語に至っては100以上もあるという。”（石井敏等编著《異文化コミュニケーション・ハンドブック》P 55～56）

可知，日语的人称代词为数不少。那么，日语这么多的人称代词其特征是什么呢？从上面的那篇短文的一些用法，我们也可看出：日语的这么多的人称代词，除了在表示“わたし”、“あなた”、“かれ・かのじょ”这个指代概念之外，还都带有浓重的各自的文体色彩，或表示身份尊卑、或表示情感亲疏、或表示男女有别、或表示人格雅俗、或表示方言俚语等等。这些细腻而微妙的文体色彩，我们不妨视为是在指代概念之外的“附加值”。而在使用上，日语重视的正是这些“附加值”。指代概念相同，文体色彩各异，

这或许就是日语人称代词多的道理所在，也因此释然了笔者上文提到的前怀。日语文章或会话中使用的这种人称代词，从其特征上，并参照金水敏先生的有关“役割語”的论述，笔者这里姑且将其称为富于浓厚文体色彩的“角色主语”。

6 富于文体色彩的“角色主语”如何汉译

汉语的人称代词也比较发达，从词典、书籍及其网络上收集到的部分如下：

第一人称

我、咱、俺、阿拉、吾、小生 / 小女子、奴家、在下、老子 / 老娘、本少爷 / 本小姐、朕、寡人、孤 / 臣、本宫

第二人称

你、您、侬、尔、汝

第三人称

他 / 她、它、伊、其、人家

和日语相比，在数量上可能有些逊色，难以一一对译。但这不等于说汉语就不能翻译出（表达出）日语的这些角色主语的丰富表达了。笔者对上面短文做了如下翻译尝试，以抛砖引玉。（文中下划线为笔者所加，以示译法）

①我が輩は昼寝をしようと思う。そちは見張りをしておれ。

老子我要睡个午觉，你给我去那边放个哨！

②おれはちょっと昼寝をする。貴様はよく見張っている。

老子要午睡了，你给我去好好放个哨！

③わしはちょっと昼寝をしたい。おまえ、見張りをしてくれないかね。

俺要想迷个午觉，你，就给我放个哨啦！嗯？

④あたしちょっと昼寝をするよ。あんた、すまないが、見張っていてくれ。

我要迷会儿午觉了，对不住你了，就给我放个哨吧。

⑤ぼく、ちょっと昼寝をするからね。きみ、見張っていてね。

我呀，要睡会儿午觉了，我说你呀，就给我放个哨吧。

⑥わたし、ちょっと昼寝をするわ。あなた、見張りをしてくださらない？

呀-，人家想迷一会儿午觉，我说你呀，就给我放个哨好吗？

⑦あたいには見張りを頼む相手がない。

可有谁给俺放哨呢！

首先这几段对话都是上对下的场面，前几个句子多命令的口吻，后几个句子又略带

商议的语气。对这种情形，汉语的翻译（表达），除了选择相应的人称代词之外，更多的是如划线所示，采用“综合表达法”，或“语气表达法”。

一般而言，也如上面人称代词所示，日语对于一个事物或一个动作，会存在多种表达，如“来る”，就有“こい、来て、来なさい、来てください、おいで、おいでなさい、おいでください、いらっしゃい、いらっしゃって、いらっしゃってください”等等，这是日语的强项，一般会依据角色，并根据对象、场合、气氛等选择一个适当的表达。不言而喻，这些表达，还包含了各自的人称主语，在日语中只是心照不宣。

相对而言，汉语表示“来”这一动作，则选择项不多，大概只有“来、过来、过来一下”等，而汉语的强项在于“综合表达”和“语气表达”，如“综合表达”可以说“来来来、请过来一下、给我滚过来”等，而“语气表达”，就这个“来”字，既可以说得轻柔如春风，也可以说得重如雷霆，再附加上语气词，其意其情也会表达得淋漓尽致。汉语的这一特点，日本人也有发现，如日本女演员看了中国电影后，觉得中国女演员很会“嗲声嗲气”，和她们相比，有过之而无不及。这是语言的造化，这也是汉语的强项所在，汉语通过综合表达和丰富的语气，把角色表达得淋漓尽致。

综合表达或语气表达，则易听声知人，两者堪称“八仙过海各显其能”，没有好坏之分，只有用好就妙之道。

7 结束语

本文首先以“乌鸦喝水”为例，观察、分析了汉语的多主语特征，由于它是小学课本的一篇课文，非常具有象征意义，说明中国人行文造句是主语先行的一种语言结构模式，也佐证了难怪汉语母语日语学习者一口一个“わたしは”的负迁移根源。

其次，援引了《东京爱情故事》的一段对话，那么长的一大段对话，原文中只有2个人称主语，而汉译后，译文中竟出现多达24个。一少一多，原因何在？日语“少”的原因除了语境因素外，主要在于敬语、授受表达等等的发达与多用，其主语与其说省略，不如视为包含在其中，这样看能避免画蛇添足。汉语“多”是出于语言结构的需要。

再次，另一方面，日语中又人称代词种类繁多，使用复杂。我们通过举证《にっぽん語考現学》中的一个篇段，可看到这些主语的使用，并非语言内部结构需要，而主要出于角色（内容）表达上的文体色彩需要，功在表达指代概念之外，其特点表现为一种“附加值”，使表情传意更加细腻微妙，见词知人，这种用法，本文姑且称之为富于文体色彩的“角色主语”。在如何汉译上，本文浅尝了“综合翻译法”和“语气翻译法”，以抛砖以玉。

注：

- (1) 新版人教版一年级上册《语文》
- (2) 人称代词：它。P179。《国际中文教育 中文水平等级标准》电子版。中华人民共和国教育部 国家语言文字工作委员会发布 2021-03-24
- (3) 依据《语言论》中之观点。《语言论》（美）布龙菲尔德 商务印书馆 2019-02-01

- (4) 永野賢 《につぼん語考現学》 明治書院 1965
- (5) 大野晋 《日本語練習帳》 岩波書店 1999

参考文献

- [1] 聂仁发 《汉语主语和话题问题研究》 [M] 浙江大学 2013
- [2] 黄伯荣 廖序东主编 《现代汉语》 增订第 6 版 [M] 高等教育出版社 2017
- [3] 小川泰生 日汉翻译时的主语省略问题 [J] 《汉语学习》 1997
- [4] 石井敏等編 『異文化コミュニケーション・ハンドブック』 [M] 有斐閣 1997
- [5] 金水敏 『役割語研究の地平』 くろしお出版 [M] 2007
- [6] ウィキペディア <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%BB%E8%AA%9E>

从霍尔的“编码/解码”理论看《生死疲劳》日译本的翻译策略

邓凌志

山东大学、浙大宁波理工学院

斯图亚特·霍尔(Stuart Hall)是现代英国文化研究的领军人物。1973年,他在莱斯特大学做了题为《电视话语中的编码与解码》的学术报告,将普通产品的三个产生阶段,即生产/成品/消费,转换为大众传媒流通领域的编码/成品/解码三个步骤。霍尔提出,受众(读者)面对信息文本可能产生三种解码立场,一是主导性立场,即受众完全按照信息被编码的状态进行解码;二是协商式立场,即受众将自己的观点部分带入解码活动中;三是对抗式立场,即受众以一种与编码者意图相反的方式对文本进行解码(章辉,2012:125)。

有学者认为,翻译作为一种特殊的传媒手段,无疑也具备传媒行业所拥有的编码和解码特征,翻译过程基本符合霍尔的“编码/解码”这一生产和消费模式(庞学峰,2018:151)。这个用于信息传播领域的理论也能够较好地反映翻译活动的特点,我们可以从该理论视角来展现翻译活动中不同主体之间的关系与矛盾。

本文以莫言的小说《生死疲劳》日译本为对象,以“编码/解码”理论为依据考察莫言的作品在异国语言环境中呈现出何种状态,译者如何引导异国文化背景的读者按照希望的方向进行解码。

《生死疲劳》在国内并未被特别看重,但葛浩文(Howard Goldblatt)于2008年在美国出版了该书英译本后,在英语世界备受关注,获得不少国际大奖,甚至被认为是莫言问鼎诺贝尔文学奖的最重要作品之一。

而早在2003年,日本佛教大学教授吉田富夫也出版了该书的日译本。日本学界对于此书的评价同样很高,日本国际文化研究中心井波律子教授曾评价说该书“巧妙地描述了半个世纪以来中国的变迁,...因其立足于优秀古典作品,这部小说最终也成为充满情趣无与伦比的杰作”(宁明,2012:50)。

《生死疲劳》讲述了地主西门闹一家和农民蓝解放一家长达半个多世纪的故事。小说讲述了西门闹被枪毙后,转生为驴、牛、猪、狗、猴、大头婴儿,以“动物之眼”透视新中国成立后乡村社会中农民与土地关系的变迁。

葛浩文和吉田富夫都是功底深厚的汉学家,《生死疲劳》英译本和日译本在各自的受众市场也都获得了成功。面对不同的市场和读者需求,译者在翻译活动中怎样发挥其主体性作用,本文希望通过对《生死疲劳》日译本的分析找出具有一定意义的答案。

一、“编码/解码”理论在翻译学中的应用

霍尔以电视传媒节目为对象提出的“编码/解码”理论运用到翻译领域,主要表现在译者在翻译过程中如何解决好两方面的矛盾与冲突。

1) 传输负载与信道容量

将“编码/解码”相关理论运用到翻译领域,是将翻译活动视为一个对原作进行解码,并使用译入语符码进行二次编码,然后以语言媒介为传输信道将原作传递给受众(读者)的过程。如同传媒通信领域一样,译者在编码过程中必须考虑传输负载、信道容量、噪声和冗余等因素,使译文读者得到“与原文读者基本相同的感受”。

20世纪80年代,美国贝尔电话公司的研究人员 C.E. 香农(C.E.Shannon)创立了信息论,提出信息传输中编码、解码的精确性以及信息等量的原则。从信息论的角度看,信息传输过程中信道的传输能力是有限的。传输负载太高容易引起信道阻塞,传输不畅。在信道容量一定的条件下,信息量过大会出现传输过载(communication overload),在翻译中表现为译文超越了读者的解码能力,读者需要花费极长时间和相当大的精力才能弄懂文本意义。译文读者缺少原文读者所具有的文化背景知识,信道容量必然狭窄得多,译文读者解码能力也就相对较弱(廖七一,2000:263)。这样,译文信息过载与译文信道容量相对狭窄这两个事实自然形成一对尖锐矛盾,在翻译活动中译者需要注意维护传输负载与信道容量二者之间的整体平衡。

2) 文本“有限开放性”与读者主体性

解释学派翻译学者乔治·斯坦纳提出了翻译的四个步骤:信赖--侵入--吸收--补偿。其中“信赖”是翻译活动的前提条件,即译者着手进行翻译之前,就已相信原文有价值、有意思,因而确有东西可供人们了解交流。这说明译者将原文视为一种正面信息源,并力求将自己从原文中获得的信息忠实传达给译文读者,同时也说明了译者在进行翻译文本生产时是带有一定目的性的。霍尔则进一步提出文本“有限开放性”观点。他认为文本的开放性并不是无限的,作者总是试图控制读者,引导读者向自己所希望的方向解读文本(Cruz J, 1994:254~255)。

另一方面,霍尔的“编码/解码”理论还体现了对文本传播过程中读者主体性的思考。受众读者对于所接触到的文本拥有解码自主权,编码者一旦将编制好的文本传递出去,受众对该文本的解读便不再受编码者控制。这样,编码者控制读者解码方向的意图与读者解读文本时的自主性之间必然产生冲突。为了缓解这种冲突,译者在进行文学作品翻译(编码)时必然会关注受众读者的解码倾向,并在自己所编制的文本中迎合这种倾向。

二、中国文学作品日译本的读者特征

读者对文学译作进行解读时的“解码倾向”受很多因素影响,其中主要因素之一就是读者阅读动机。传播学理论中根据信息接受者主导动机的不同,将受众分为两类:主智受众和主情受众。前者主要是为满足认识上的需要,以获取信息、认识客观外界变化为目的。而后者主要动机则是满足情感上的需要,调节生活、消遣娱乐。他们最感兴趣的是刺激性强的新闻,追求即时的愉悦感。反映到外国文学翻译作品的接受上,不同国家的读者也会表现出不同的阅读动机。

1) “主情受众”读者解码特征

翻译家杨自俭先生曾说，读者群是一个非常复杂的群体，“影响他们的因素太多：国别、种族、性别、年龄、职业、水平、爱好、经历、追求等等”（2002：10）。由于影响读者群体的因素十分复杂，译者在翻译活动中一般是从宏观角度尝试把握译入语读者群体的整体解码倾向。莫言作品的英语译者葛浩文曾谈到：“所谓的知识分子小说他们不怎么喜欢。他们（读者）喜欢的有两三种吧，一种是 sex 多一点。第二种是 politics 多一点，他们很喜欢的，其他像很深刻地描写内心的作品，就比较难卖得动”（华慧，2009：B02）。“……（美国）评论家喜欢看悲苦的，但读者一般爱看的是幽默的、轻松的（文学作品）”（新京报，2013.10.15）。

可以看到，在葛浩文看来，西方读者对中国文学译作呈现出较强的“主情受众”特征，倾向于娱乐性质的阅读，属于浅层解码。这无疑对译者的翻译（编码）策略产生了很大影响。葛浩文倾向于按照他心目中的读者喜好对原作进行较大规模的删改，例如在对莫言小说《天堂蒜苔之歌》进行翻译时，他不仅大幅删除了某些章节的内容，还将原本悲剧性的结局改成了他认为更易为西方读者接受的结局。葛浩文的译作在出版市场获得成功，但翻译学界对这种“改写式翻译”一直存有较大争议。

2) “主智受众”读者解码特征

另一方面，日本的情况则全然不同。由于历史上中日两国长期的文化交流，日本民众在中国文学、历史方面具有较高的素养和接受能力。普通读者选择中国当代作品作为读物时，往往都带有一种渴望了解中国国情与现状的心态，以及与自身社会的比较与反思（光明日报，2019.05.22）。与之相应，日本的当代中国文学作品译介活动也大都蕴含着对目标读者进行思想引领和精神启迪等较高层次的意图，“日本的中国学家往往将现代中国文学的译介与日本社会现实联系起来，紧扣时代主题，希望能对日本社会有所借鉴和启发”（杨四平，2013：99）。

20 世纪 30 年代和 50 年代，日本学者影山三郎和鹿地亘分别翻译了《雷雨》和《暴风骤雨》两部作品，在日本获得很好的社会反响。影山在《雷雨》的“译者后记”中写道“译者想向阅读本书的读者表达如下心情，即该剧如能对我们进一步加深对中国人民的亲密感情多少起一点作用的话，那将十分荣幸。... 正如郭沫若先生在序言中说的那样，把过去‘悲剧性的社会’同‘解放了的中国’联系起来考虑，对生活在当今日本的我们来说，没有比这更有意义的了”（影山，1936）。

《暴风骤雨》的译者鹿地亘则在“译者序言”中说：“当今，我们都有这样一个概念：帝国主义的基础是肤浅而脆弱的。读了周立波的长篇小说《暴风骤雨》之后，我首先亲身感受到了这一点，并促使我耐心地把它介绍给日本”（鹿地，1951）。

可以看到，日本译者译介中国文学的目的绝不在于满足读者对异域文化浅尝辄止的猎奇心理，而是希望他们通过对现代中国文学作品的深度解码获取更高层次的思想内容和精神助力。这与读者群体所具有的借助文学作品了解现代中国、并对人生和社会进行反思的内在阅读动机相融合，使得日本读者群体表现出鲜明的“主智受众”接受特征，

而在翻译中译者们也大都根据读者的这种接受特征采取了忠实于原文的翻译策略。

三、“编码/解码”视角下的日译本翻译策略观察

《生死疲劳》日译本译者吉田富夫（Yoshida Tomio）先生是我国现当代文学研究界熟知的著名学者和专家。除了《生死疲劳》之外，他还翻译了《丰乳肥臀》、以及贾平凹《废都》等知名中国文学作品，在日本读者中“获得了新中国文学从未获得过的巨大而良好的反响”（李冬木，2006：27）。不仅使日本读者接近了中国和中国文学，也使中国和中国文学走向日本读者。

与葛浩文的英译本一样，《生死疲劳》日译本也得到了日本读者的高度认可。曾有日本读者在知名书评网站“Bookmeter”上留言：“《転生夢現》（即《生死疲劳》日文版）是足以媲美《百年孤独》的伟大作品”。

在《生死疲劳》日译本中，吉田富夫建立的编码策略中反映了他对于潜在受众读者解码倾向的思考。对于文学创作者来说，他们在创作活动中享有充分广阔的空间，而文学作品译者的解码与二次编码活动空间则受到很大限制，不可能如同原作者一样进行自由的创作发挥，译者需要在有限的操作空间内编码产生译文，并尽力使读者按照自己所希望的方向去解读文本意义，受众读者在一定程度上处于被动地位。在《生死疲劳》日译本中，吉田富夫对读者解码能力的关注和对文本意义的控制主要体现在几个方面。

1) 利用翻译冗余，拉伸信号长度

文化负载词是表示某一种文化所特有的事物和概念的词或词组。这类词不仅承载了丰富的文化内涵，且“只存在于某一种文化中，在另一种文化中是空白的”（李朝昀，2017：21）。《生死疲劳》中的文化负载词极其丰富，这部作品跨越了从解放后土地改革到现代改革开放数十年的时间维度，也展现了近代中国社会变化与文化冲击最为剧烈的一段时期中农村风貌。时代的激荡使得一批批词语不断在人们生活中更迭，留下鲜明的历史色彩。这些词汇短语承载着中国特有的丰厚历史积淀，也给翻译者带来巨大挑战例如：

例 1. 我姐姐，蓝宝凤，卫生员，赤脚医生。

译文：おれの姉さんは藍宝鳳、衛生員で裸足の医者（僅かな医療技術を身につけた素人医者。文革中に‘新生事物’としてもてはやされた）の。

例 2. 桌后的墙上，挂着一幅五子祝寿图。

译文：その後ろの壁には五子祝寿図（五人の子供が親の誕生日を祝っているめでたい絵）が掛かっていた。

例 3. 我双手被反绑在背后，姿势是“苏秦背剑”，只好用脑袋撞击窗棂

译文：両手は「蘇秦剣を背負う」式（蘇秦は張儀とともに戦国時代に活躍した遊説家。彼を描いた旧芝居では、片手を肩から、片手を腰から回して背中交差する

ように縛られるイメージが定着している）に後ろ手に縛られていたから、やむなく頭を窓格子に打ち付けて叫んだ。

对于中国读者而言，“赤脚医生”、“苏秦背剑”等符码能够很容易地通过他们的传输信道。而日译本中则对这些文化负载词采用“文内注释”的翻译方式，追加一些补偿信息。从“编码/解码”的角度解释，这是为了将信号拉长，使其扁平化，以便通过相对较窄的信道。通过统计发现，整部作品中共有 147 处文化负载词，译文文本中基本全部用这种“文内注释”的方式处理。

2) 增添外源信息，扩充信道容量

如前所述，日本读者对于现代中国文学作品的接受形式以“主智受众”为主，这使得他们具备深入解读译文文本及其相关社会文化背景的意愿和能力。译文读者普遍因背景知识不足而存在接受信道偏窄的问题，若在译文文本中加入更多背景信息，可拓宽读者的接受信道，使文本接受更为顺畅。吉田富夫或许正是意识到这一点，积极在译文文本中融入相关的社会文化信息，尽可能详尽地为译文读者重构出原文文本所赖以生存的文化背景。

在《生死疲劳》日译本中，译者借助对文化负载词的文内注释，延伸追加了部分文化背景。例如：

例4.工农兵大学生庞抗美是农学院畜牧专业的学生，她站在那里，比她的爹高半个头，比她的妈高一个头……。

译文：労・農・兵大学生（文革後期に再開された大学・高等教育機関では労働者・農民・兵士らが推薦入学を実施したが学力より出身やコネが優先されて弊害が多く、その影響は今に及んでいる）龐抗美は農学院牧畜専攻の学生で、突っ立つと父親より頭半分、母親より頭一つ高く……。

上述译例中，译者不仅对“工农兵大学生”这一概念进行了解释（斜体字部分），同时还融入了一些当时社会背景的延伸说明，力求丰富读者对当时中国社会情况的感受，加深读者对译文文本的理解。再看下例也是如此：

例5.放牛当然算不上重用，但金龙除了放牛，还兼任了记工员的工作。

译文：放牧係はむろん重用とは言えぬが、金竜のやつはほかに労働点数記録係（人民公社では農民の毎日の労働を十一点満点の労働点数として評価・記録し、一年の決算期にその合計を基準に収益分配がなされた。文盲の多かった農村では、記録係には当然それなりの“重み”があった）をも兼ねていてな。

此外，也有部分社会背景知识以独立形式嵌入译文文本中，使读者对中国现实情况

的理解得到拓展。例如：

例 6. 他送给我们几套换洗衣服，又拿出一个装有一千元钱的信袋。

译文：やつは換えの衣服と千元（この当時、一級大学教授の月給が 500 元）入った封筒を取り出した。

例 7. 那天，也是莫言那小子出生的日子。

译文：その日はまた、あの莫言のやつが生まれた日でもあった（作者莫言の実際の誕生日は 1955 年 2 月 17 日）。

例 8. 这就是神话传说中的共工头撞不周山令天柱折地维缺的原因。

译文：それがつまり神話でいうところの共工（蛇身人面の神話の神）が頭を不周山にぶっつけたため、天柱が折れ、地围が切れた（それ以来、中国の大地は東南に傾き、河はすべて東に流れるようになったという）元というわけだ。

译文括号内的注释并非对于“一千元钱”、“莫言的生日”等词语本身的意义进行说明，而是对整体的作品社会背景所进行的延伸解释。

“接受信道”这一信息传播领域概念反映在文学翻译中，即读者对于译文文本信息的接受能力。原著作品的文本环境与原语读者的文化背景是一致的，因此原语读者所拥有的接受信道容量较大，对于作品的接受能力较强。而对于译文读者而言，他们无法拥有原语读者的文化背景，在接受译作时的信道容量相对较小，接受能力普遍低于原文读者（如图 1）。



图 1. 原语读者与译语读者的“接受信道”比较（摘自《当代西方翻译理论探索》，2006：264）

为弥补这一短板，吉田富夫同样以“文内注释”的形式对原文所蕴含的文化环境进行还原，力求重构出原文文本所赖以生存的文化背景，加深读者对背景知识的了解，进而更深入理解文本意义，拓宽接受信道。

3) 增强传递效率，删减冗余信息

《生死疲劳》日译本名为《転生夢現》，出版于日本中央公论新社。编辑部在该书的书尾附注：“本书的原著中可能包含人物角色的身体、身份、职业等令人觉得不适当的内容，但鉴于作品的历史背景和文学价值，我方要求译者尽量不要改动原著内容”。可以看到，日本对中国文学作品的接受环境整体较为友好，相比葛浩文《生死疲劳》英译本而言，日译本中对于原著的删改省略并不多见，但仍然可以看到译者通过理性解读，自发地过滤掉原作中的冗余信息，使译作的可接受程度更高。

例 9. 冲撞了太岁，主着婴儿不利。

译文：太歳（木星、この方位は忌むべきものとされる）に突き当たると、赤ん坊によかねことが起きるぞ。

中国民间有不少发现“太岁”的记载。因此中国读者对原著中以透明胶状肉团方式存在的“太岁”形象并不陌生；此外，“太岁”是可能带来灾祸的神灵，原文中主人公将“太岁”铲碎后洒在地里作肥料等对“太岁”不敬的行为也暗示了此后其家道中落的征兆。这些都很容易进入中国读者的接受信道，但在日译本中则很难用“文内注释”的方式向读者解释清楚，对日本读者来说容易引起传输过载，妨碍读者对文本意义的理解。因此译者将“太岁”一词的信号进行简化处理，删减冗余信息，减轻读者负担。

例 10. 现在，她经常对着我絮絮叨叨讲她的心事，把我当成了一个可以盛放那些语言垃圾的塑料大桶。她不仅仅把我当成了倾诉对象，还把我当成了她的狗头军师。

译文：今ではしょっちゅうわしにくどくどと思いを打ち明け、わしのことをあたかもおのれのことばのゴミを入れるプラスチック桶のようにみなしているのだった。わしは彼女の愚痴の聞き役にとどまらず、参謀扱いされた。

此处主人公投胎为狗进行叙事，因此“狗头军师”一词含有双关的幽默语义。但日语语境下很难还原这种效果，因此译者果断放弃了对修辞效果的追求，将翻译简单化，仅保留核心词义。

阐释学翻译理论家乔治·斯坦纳认为，一篇作品一经翻译便会得到提高，因为翻译过程是条理化的、分析详尽的，这样译文自然会比原作更明晰细致，一般会高于原文。因此，译文编码是一个比原文产出更加理性、周密的过程，一些不尽合理的部分会被译者舍弃。例如：

例 11. 梳子与它粗糙的皮肤接触，发出腻人的响声，并有一些麸皮般的皮屑飞起来，在月光中浮游，宛如日本伊豆半岛地区秋天的雪虫。

译文：櫛が硬い皮膚に擦れて嫌な音をたて、飛び散ったふすまに似たふけが月光の中を浮遊していた。

根据《大辞林》、WIKIPEDIA 等资料的解说，“雪虫”（ゆきむし）一般在秋冬季节出现于日本列岛，个体大小约为 5mm 左右，体质轻盈，随风飞舞。小说原作者莫言用它来形容飞舞的皮屑，可谓贴切。但这种“雪虫”活动时群体数量往往十分庞大，和原文意境有冲突之处，因此吉田富夫在译文编码时自动舍弃了这一部分文字。

4) 提高信号可接受度，满足受众期待视野

译者对译文文本进行二次编码，其主观操控能力是有限的，只能在原作的框架之内进行较小的调整。但即便如此，译者也能在翻译过程中充分展现其主体性，选取目的语读者乐于接受的内容与表达方式。译者充分考虑到受众在接受信号过程中的偏好性，按照有利于唤起受众审美偏好的方向对译文文本的信号进行编码，满足读者的“期待视野”。“期待视野”是指读者在阅读文本之前对文本意义的一种潜在的期待（仇蓓玲，2003：8）。要使文本受读者的欢迎，使读者的审美经验和生活经验在潜移默化中丰富起来，文本至少应当在某方面带来比读者的认识和生活经验更丰富的东西。如前所述，译者翻译文学作品的过程实际上是译者在理解原作编码之后利用译入语的语符进行二次编码的过程。这个过程中不仅需要考虑读者的解码倾向，还需要考虑编码内容能否满足受众的审美期待。

中日两种语言和文化系统在很多方面都较为相近（朱芬，2018：115），体现在文学翻译上，表现为对谚语、俗语等惯用表现使用直译策略较多。这能在某种程度上唤起读者的新鲜感。考察《生死疲劳》日译本中对于谚语的翻译，可以看到这一点（如表 1）。

原文中的谚语	译文中的谚语
救人一命，胜造七级浮屠	一命を救うことは七階の塔を建てるに勝る（异化）
肥水不流外人田	肥えた田んぼは自分で耕す（归化）
开弓没有回头箭	中途半端は許されぬ（归化）
你是煮熟的螃蟹难横行了，你是瓮中之鳖难逃脱了	今度こそは茹で上がったカニで横行はさせぬし、瓶の中のスッポンで逃げられはせぬぞ（异化）
你们俩可以破罐子破摔	お前たちは破れかぶれでもよかろう（归化）
你真是石头蛋子腌咸菜，油盐不进	それこそ石の漬物で、油も塩もしみ込まぬ（异化）

打不瘸的狗腿，戳不瞎的牛眼	犬の足は叩いても折れず、牛の目はついても潰れぬ（异化）
一山不容二虎	一山は二虎を容れず（异化）
兔死狐悲，物伤其类	同類相憐れむ（异化）
猫改不了捕鼠，狗改不了吃屎	猫はネズミ捕りをやめられず、犬はクソ喰らいをやめられぬ（异化）

表1：《生死疲劳》中谚语、俗语翻译摘录

《生死疲劳》译文文本中译者对大部分谚语、俗语都用了直译（异化）的方式。由于日本社会文化环境与中国整体较为相似，类似于“茹で上がったカニ”、“瓶の中のスッポン”、“石の漬物”等等隐喻意象，为读者带来了新鲜的阅读感受，保持了适当的审美距离（aesthetic distance）；同时其符码的解码难度又相对较小，不会带来阅读障碍，使得译文文本更容易为受众读者所接受。

“编码/解码”理论最初主要用于新闻类文本的传播，主要展现因受众的意识形态的差异导致对所接受的文本出现不同的解码类型。编码要素中较少考虑符码自身对受众的吸引力。但是，在翻译领域的文本编码过程中译者需要考虑的要素却不仅只有这些，还需要考虑如何为读者带来新鲜视野，提高符码的可读性。

四、结语

“编码/解码”理论认为，在翻译过程中译者总是试图控制译文读者，使他们按照自己所希望的方式解读译文文本。为此，译者在“编码”（翻译）时，需要考虑译文读者作为传媒受众所呈现出的总体特点，这些特点体现了读者的解码倾向，也为文学作品的翻译确定了基调。在此基础上译者根据“传输信道”、“信号负载”等要素决定细节部分的翻译。总体思想是将文本内蕴含的信号准确而顺畅地传递给受众读者。

可以看到，吉田富夫根据日本读者在接受中国文学译作时表现出的“主智受众”特性，针对具体情况熟练地运用了拉长信号长度、拓宽信道口径、适当减低信号负载等方式，平衡“传输信道”与“信号负载”的关系，使译文文本能够顺利通过读者的“接受信道”，被读者接收并解码。尤其是译文中较多采用“文内注释”的方式对某些词意和文本宏观背景进行延伸解释，使文化负载词的意义得到明确，并增添了读者对中国社会背景知识的了解，客观上排除了读者向其它方向进行解码的可能性，限制译文读者的解码自由度。此外，文本中的谚语、俗语则多用直译的方式，唤起读者对文本的新鲜感，达到引导读者向自己所希望的方向解读文本的目的。

参考文献

- [1] 尼南贾纳. 为翻译定位 [A]. 见许宝强. 语言与翻译的政治 [C]. 北京：中央编译出版社，2001年版。
- [2] 廖七一. 《当代西方翻译理论探索》[M]，南京：译林出版社，2000.

- [3] 斯图亚特·霍尔. 编码、解码 [A]. 见《文化研究读本》[C]. 北京: 中国社会科学出版社, 2000.
- [4] 郭镇之. 传播学受众研究接受分析 [J]. 现代传播, 1994(3).
- [5] 石春让. 葛浩文译《生死疲劳》中谚语的文化建构与解构 [J]. 外国语文 (双月刊), 2019(1).
- [6] 匿名. 莫言接受诺奖组委会采访 推荐《生死疲劳》[N]. 北京: 京华时报, 2012-10-12.
- [7] 孫若聖. 日本における新時期文学翻訳の黎明期と黄金期 [J]. 通訳翻訳研究, 2016(6)
- [8] 邵璐. 翻译与转叙——《生死疲劳》葛浩文译本叙事性阐释 [J]. 山东外语教学, 2012(6).
- [9] 邵璐. 莫言英译者葛浩文翻译中的“忠实”与“伪忠实” [J]. 中国翻译, 2013(3).
- [10] 仇蓓玲. 读者期待视野与译者翻译策略 [J]. 北京第二外国语学院学报, 2003(6).
- [11] 冈·格里姆. 接受史: 基本原理 [A]. 见刘小枫. 接受美学译文集 [C]. 三联书店, 1989 年.
- [12] 汪宝荣. 葛浩文英译《红高粱》生产过程社会学分析 [J]. 北京第二外国语学院学报, 2014a(12).
- [13] 赵蕊. 翻译冗余成因探析 [J]. 牡丹江大学学报, 2014 年 (4 月).
- [14] 汪宝荣. 《兄弟》英译本在英语世界的评价与接受——基于全套英文书评的考察, 外国语文 (双月刊), 2015(8).
- [15] 保罗·康纳顿著, 纳日碧力戈译. 社会如何记忆 [M], 上海: 上海人民出版社, 2000.
- [16] 秦洪武. 论读者反应在翻译理论和翻译实践中的意义 [J]. 外国语, 1999(1).
- [17] 杨四平. 现代中国文学在日本的传播与接受 [J]. 井冈山大学学报 (社会科学版), 2013(3).
- [18] 章辉. 电视话语与阶级斗争: 斯图亚特·霍尔《编码/解码》的文本主题 [J]. 学习与探索, 2012(4).

ディクテーションを取り入れた翻訳訓練の試み — 日本語学科三年生を対象に —

楊潔冰
河南理工大学

1 はじめに

中国では、多くの大学は翻訳と通訳の授業を必修科目として開設している。一部の大学の日本語学科では、三年生の後期に翻訳の授業が行われ、四年生の前期に通訳の授業が行われることになっている。学生は一学期を通して翻訳の理論知識やテクニックを学び実践を行い、期末試験後には、約二か月にわたる長期休暇がやってくる。休暇中に日本語に関する学習をしなければ、日本語の聴解力や会話力が退化し、新学期から始まる通訳の授業で挫折感を味わう恐れがある。そこで、休暇中に学生に語学力を鍛えるようなタスクに参加するように働きかければ、日本語能力を保持することまたは高めることが期待でき、新学期から始まる通訳の理論学習と通訳訓練につながりやすいと考えられる。教師は教室の中だけでなく、教室外においても「ファシリテーター」や「学習管理者」として学習者の自律性を高める役割を担っている（梅田，2005）。また、外国語教育においてディクテーションは自律学習の方法としてしばしば取り上げられている（e.g., 杉浦・竹内・馬場，2002）。ディクテーションは聞いた音声を文字に書き起こす行為であり、聴解力を鍛えることができ、学生に単語や文法を復習させるための有益な方法だと想定する。よって、本研究は日本語学科の三年生を対象に、夏休みに教室外においても日本語の学習を促すために、ディクテーションを取り入れた翻訳訓練を実施し、その効果について検討する。

2 先行研究

ディクテーションは聴解力を鍛える方法、ひいては通訳の訓練方法として外国語の教育現場や日本語教師の研修現場で用いられている（e.g., 羅・李，2004；長坂，2010；大岩・赤塚，2019；張，2018）。また、ディクテーションは聴解力を測るためのテストとしても用いられている（e.g., 菅井，2014；米崎，2014）。さらに、ディクテーションは学習者の自律性を養い、自己効力感を高めるのに効果があるとも指摘されている（e.g., 新本，2020；杉浦・竹内・馬場，2002）。

大岩・赤塚（2019）は英語を専攻する大学一年生に英語の音声を聞かせ、文における単語の穴埋め課題としてディクテーションをさせた後、再度音声を流し、日本語で英文の意味を書かせた調査と、聴覚呈示された英文の意味を日本語で書かせた後、再度音声を流し、文中の空欄に当てはまる英単語をディクテーションさせる調査を行った。また、回答確認と修正の機会として、英文の音声を学習者にもう一度聞かせた。その結果、両調査ともディクテーションの成績は意味理解確認の成績よりも高かった。大岩・赤塚（2019）は、学習者がいわゆる「音転写指向型」となる傾向があり、つまり、

音声を一時的に記憶し産出することができたが、文全体の意味処理はできなかったと指摘している。また、3回目の聴解時には学習者があまり修正しなかったとも述べている。

新本（2020）は英語リメディアル教育が必要な大学生を対象に、ディクテーションを取り入れた聴解指導が学習者の聴解力と聴解自己効力感を高めるか否かについて調査を行った。なお、新本（2020）におけるディクテーションは大岩・赤塚（2019）と同様に、英文における単語の穴埋め課題を用いた形であった。英文の音声を2回流し、学習者にディクテーションをさせた後、答え合わせを行った。指導前後のテストの内容と出題順が同様であり、TOEIC 公式問題で聴解力を測り、6段階尺度で聴解自己効力感を学習者に自己評価をさせた。指導前後におけるテストの成績を比較した結果、聴解力の伸びはみられなかったが、聴解自己効力感は統計的に有意に高まることが明らかになった。

上述したように、従来の先行研究におけるディクテーションは文における単語の聞き取りと書き取りを指すものが多かったが、ディクテーションの有効性を確かめるためには、ボトムアップ処理とトップダウン処理が求められている文章を用いる必要があると考えられる。また、学習者における現時点の聴解力、または聴解材料の難易度や親近性によって、聞き取れない内容は何回聞いても聞き取れない可能性があると考えられる。よって、ディクテーションの後、聴解材料の原文に照らし合わせる必要があるだろう。さらに、外国語によるディクテーションの内容を母語に翻訳することを通して、統語的処理だけでなく、文章全体に対する意味理解がどこまでできたかを確認することができると考えられる。

以上をふまえ、本研究は中国人日本語学習者を対象に、日本語の文章を用い、聴解→ディクテーション→自らチェック→翻訳といった一連の流れで翻訳訓練を行うことにする。

3 本研究の目的

本研究は難易度が徐々に高くなる日本語の文章を用い、ディクテーションや翻訳を組み合わせることによって、学習者の聴解力と翻訳能力が高まるか否かについて実証的に検討する。また、訓練後、翻訳訓練の感想等に関する調査を行い、日本語学習への自律性が高まったか否かについても検討する。

4 方法

4.1 参加者

本研究の参加者は中国の某大学における日本語学科の三年生（男性9名、女性15名）であった。その中で、日本語能力試験 N1 の合格者は9名であり、N2 の合格者は6名であった。三年生の日本語能力にばらつきがあるが、新型コロナウイルスの影響で、

日本語能力試験を受ける機会が少なくなったことが合格率に影響する一因だと考えられる。普段の成績と期末試験の成績を基に判断すれば、全員の日本語能力は中級以上のレベルに達していると思えることができる。

4.2 手順と材料

翻訳訓練の実施日程は2021年7月13日～8月24日であった。7月13日と8月24日に訓練前後のテストをテンセントミーティングを通してオンラインで実施し、7月14日から8月22日までの間に毎週1回の翻訳訓練（計6回）を実施し、学生に実施した内容をクラウドクラスに提出するように求めた。翻訳訓練の具体的な内容を表1に示す。①日本語の文章を一回聞き、概略をつかむ。②文章を再度聞き、自分のペースで音声を止めながらディクテーションする。③文章を繰り返し聞き、ディクテーションした内容を自らチェックする。④ディクテーションした内容を中国語に翻訳する。

表1 翻訳訓練の内容

ステップ	ポイント	詳細
①	大筋をつかむ	文章全体を聞き、大筋をつかむ
②	ディクテーション	自分のペースで文章を聞きながら書く
③	チェック	文章を再度聞き、書いた内容を自己修正
④	翻訳	文章を中国語に翻訳

訓練用の材料は昔話『七つの星』、『一寸法師』、『雪娘』及びNHKニュースであった。『七つの星』と『一寸法師』の最初の部分は童歌であり、ディクテーションと翻訳をしなくてもよいと学生に教示した。他方、『標準 NHK 新聞轻松听：听力＋词汇双破解』より6つのニュースを抜粋し、そのうち、2つのニュースは話すスピードがやや遅めであった。一週目から三週目までは学生に聞き取りやすい昔話で翻訳訓練をさせ、四週目以降はニュースで翻訳訓練をさせた。なお、第四週と第五週では、学生を聴解力によって二組に分け、話すスピードが異なるニュースでタスクを遂行することになった。学生の聴解力は毎学期の聴解試験の成績を参考にし、二組に分けた。材料の難易度は日本語文章難易度判別システム（① <http://jreadability.net/> ② <http://kotoba.nuece.nagoya-u.ac.jp/sc/obi3/>）で確認した。第五週の原文の難易度は①のツールで明確な判別結果が出なかったため、②のツールで判別した。国語としての日本語のレベルは中学三年生から高校一年生程度であったため、外国語としての日本語の上級レベルに相当するものだと日本語母語話者（日本語教師）が判断を下した。材料の詳細及び毎週の翻訳訓練の達成者数を表2に示す。なお、練習材料の原文は締め切り後にクラウドクラスにアップロードし公開した。

表2 訓練材料の詳細と毎週の達成者数

訓練期間	文章	長さ	難易度	達成者数
第一週 締切：7/20	七つの星	4分9秒, 699字 (50秒の童歌を含む)	初級	24人
第二週 締切：7/25	一寸法師	5分22秒, 967字 (24秒の童歌を含む)	中級	24人
第三週 締切：8/1	雪娘	4分55秒, 995字	初級	23人
第四週 締切：8/8	A組：日本旅游瞄准中国1(日本語訳：日本の観光業が中国人観光客を誘致1)	1分, 268字 (話すスピードが遅め)	上級	22人
	B組：日本旅游瞄准中国2(日本語訳：日本の観光業が中国人観光客を誘致2)	1分25秒, 457字	上級	
第五週 締切：8/15	A組：就业冰河期来年依旧1 (日本語訳：就職氷河期は来年も続く1)	1分2秒, 264字 (話すスピードが遅め)	上級 (高1)	21人
	B組：就业冰河期来年依旧2 (日本語訳：就職氷河期は来年も続く2)	1分20秒, 424字	上級 (中3)	
第六週 締切：8/22	A組：高温下关注民生 (猛暑日と野菜の値段)	1分27秒, 440字	上級	22人
	B組：通向大学之路(大学入試)	1分21秒, 429字	上級	

訓練前後におけるテストの内容は、日本語の聴解問題と日中・中日聴解訳出問題であった。聴解問題は日本語の聴解力を測るために用い、《日语口译综合能力3级》より10問の選択問題を抜粋したものであり、訓練前後にそれぞれ5問を出題した。本研究における聴解訳出問題とは日本語（中国語）の文を聞いてから中国語（日本語）に翻訳することを指すもので、学習者に聴解段階における情報の処理・保持能力及び訳出段階における言語の表現力が求められる。便宜上、聴解訳出を聴訳とする。聴訳問題の原文は《日语口译实务3级》より教育や健康に関する中国語の文と日本語の文をそれぞれ5文抜粋し、音声で聴覚呈示をしたものである。中国語と日本語の各1文は練習材料として用い、各4文は本番テスト用として訓練前後にそれぞれ2文ずつを用いた。聴解問題と聴訳問題における原文の音声を5秒間隔で3回連続して流し、メモを取ってもいいと学生に教示した。聴解問題の音声を3回流した後、10秒の回答時間を設けた。他方、聴訳問題の音声を3回流した後、60秒の回答時間を設けた。聴解問題と聴訳問題の例は以下の通りである。なお、文字化した訓練前後のテストの内容と答えはテストの後にクラウドクラスにアップロードし公開した。

(1) 聴解問題の例

司会者はどの席に座りますか。

- A、黒板の前の席の隣に B、黒板の前の席
C、ドアのそば D、黒板の反対側

(2) 日中聴訳問題

原文（聴覚呈示）：子供の運動不足も深刻です。かつてのような公園の広場で走り回

っている子供が減りました。その一方で、スーパーのゲームソフト売り場には子供の姿があふれています。

参考訳文：儿童缺乏运动的问题也很严重。孩子们不再像过去那样在公园广场上玩耍了，而是聚集在超市的游戏软件柜台前。

（3）中日聴訳問題

原文（聴覚呈示）：不可否认，为数不少的学生且不说从课本上获取的知识没有掌握，就连日常生活中的一般常识也相当贫乏。总之是学生对于自身的学习缺乏热情。

参考訳文：多くの学生は、教科書などからの知識はもちろんのこと、日常生活における一般常識もかなり乏しいということは否定できない。とにかく学生自身の勉強に対する熱心さが足りない。

5 結果と考察

聴解問題は1問2点、計10点であった。日中・中日聴訳問題は1問5点、それぞれ計10点であった。テスト中にネット環境の不具合等のため全質問に答えられなかった学生及び訓練を受け続けていなかった学生の成績を分析対象から外し、最終的に19名の成績を分析対象とした。採点の基準は原文を正確に理解した上での訳文の正確さと自然さとした。訓練前後における各種テストの成績の平均点と標準偏差を表3と図1、図2、図3に示す。

表3 各テスト項目における訓練前後の成績の平均点と標準偏差

聴解の結果		日中聴訳の結果		中日聴訳の結果	
訓練前	訓練後	訓練前	訓練後	訓練前	訓練後
7.79 (1.70)	8.95 (1.19)	3.11 (2.20)	3.84 (2.80)	3.00 (1.30)	4.26 (1.77)

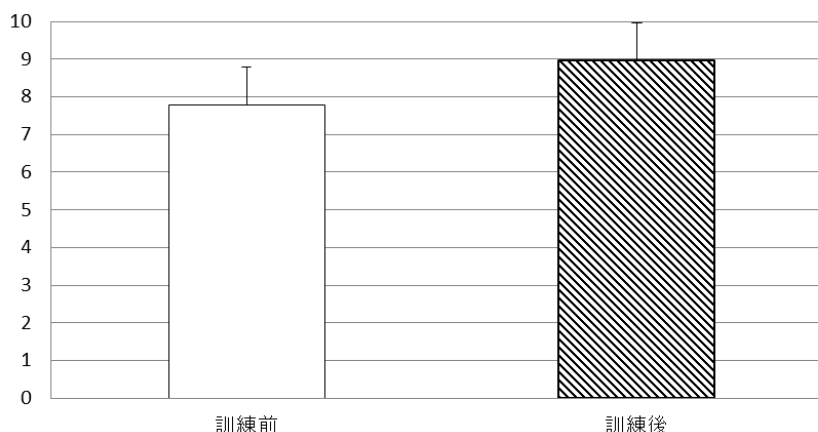


図1 訓練前後における聴解テストの結果

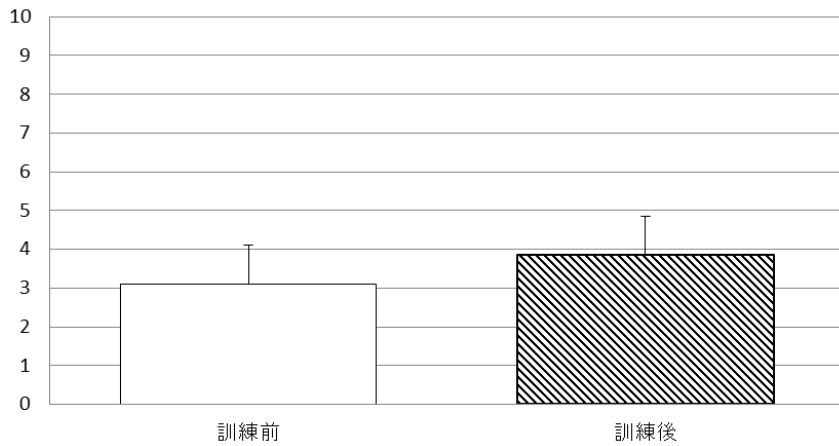


図2 訓練前後における日中聴訳テストの結果

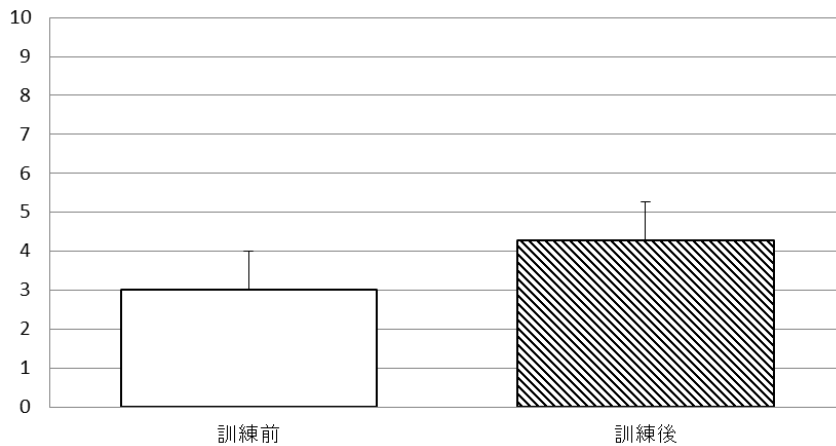


図3 訓練前後における中日聴訳テストの結果

訓練前後の成績に対して対応のある t 検定を行った結果、訓練後の聴解成績は訓練前の聴解成績よりも有意に高い傾向がみられた ($t(18) = 2.08, p < .10, r = .44$)。日中聴訳では訓練前後の成績に有意な差がみられなかった ($t(18) = 1.02, ns, r = .23$) が、中日聴訳では訓練後は訓練前よりも成績が有意に高かった ($t(18) = 3.52, p < .01, r = .64$)。

訓練後の聴解成績は訓練前の聴解成績よりも有意に高い傾向がみられ、また、中程度の効果量 ($r = .44$) が得られたことから、先行研究 (e.g., 米崎, 2014) と同じように、ディクテーションは聴解力を高めることが確認できたと言えよう。中日聴訳における訓練前後の成績に有意な差がみられたことから、ディクテーションや翻訳の組み合わせは日本語の産出能力を高めるのに役立ったと考えられる。6 週間の訓練で日本語の

文章を自己ペースでディクテーションした後、自ら修正を行うことを通して、単語と文法の基礎知識を固めることができ、日本語による訳文の正確さを高めることができたと考えられる。また、母語である中国語の聴解は認知負荷が低いため、原文の意味が正確に理解できたことも中日聴訳の成績が伸びた原因の一つと考えられる。

一方、日中聴訳における訓練前後の成績に有意な差がみられなかったのは、起点言語である日本語の文を聞きながら、意味内容が瞬時に正確に理解できていなかったためだと考えられる。テスト用の文は学生にとって親しみやすい題材のものであったが、上級レベルの文が多かった。一部の学習者の日本語能力はまだ上級に達していないため、聞き取れた単語だけしか書けず、日中聴訳の成績が低かった。

各学生の成績をみると、日中聴訳では訓練前の最高得点は8点であったのに対し、訓練後の最高得点は9点であった。中日聴訳では訓練前の最高得点は5点であったのに対し、訓練後の最高得点は7点であった。訓練前、日中・中日聴訳の成績が5点を超えた学生は僅か3名であったが、訓練後、それぞれ7名と9名に増えた。各学生におけるテストの成績を表4に示す。

表4 各学生におけるテストの成績

学生	聴解の成績		日中聴訳の成績		中日聴訳の成績	
	訓練前	訓練後	訓練前	訓練後	訓練前	訓練後
1 番	8	10	1	1	2	2
2 番	8	8	2	1	1	1
3 番	10	8	4	1	4	5
4 番	8	10	8	9	3	6
5 番	10	8	3	3	2	5
6 番	6	8	1	4	3	5
7 番	8	10	4	1	2	4
8 番	10	8	1	8	2	6
9 番	10	6	2	8	4	1
10 番	10	10	2	4	4	5
11 番	8	10	2	6	5	7
12 番	4	10	1	7	3	4
13 番	6	10	8	7	5	7
14 番	8	8	4	1	3	3
15 番	6	8	2	2	4	4
16 番	6	10	7	5	5	6
17 番	8	10	2	3	1	2
18 番	6	8	2	1	1	4
19 番	8	10	3	1	3	4

表4からみると、訓練前後における日中聴訳の成績を比較した結果、2番、3番、7番、13番、14番、16番、18番、19番の学習者は成績が下がったことが分かった。他方、訓練前後における中日聴訳の成績を比較した結果、9番の学習者のみ成績が下が

ったことが分かった。訓練後のテストが終わった後、訓練の感想や卒業後の進路に関しては「問巻星」によるオンライン調査を行った。その結果、2番、3番、7番、9番、13番、14番の学習者は、日本語以外の専門分野の大学院入試の準備をしているか、公務員試験の準備をしているという回答をした。これらの回答から、学習動機やニーズが学習の成績に与える影響が窺える。つまり、進路を考えている学習者は、日本語を生かすような仕事をするつもりはないと決めた場合、日本語を学ぶ必要がないと自ら判断し、日本語に関する訓練も受動的に行っているだけであった。今回は比較対象である統制群を設けていないが、長期休暇中に外国語の学習をしない場合、聴解力や会話力をはじめ、語学力が退化すると一般的に考えられている。よって、受動的に訓練を行っていた2番、3番、7番、9番、13番、14番の学習者は訓練を受けない場合と同じ結果になり、成績が下がったと判断できる。一方、16番、18番と19番の学習者は、日本語に関する専門分野を目指し大学院入試の準備をしているが、今回の訓練方法で期待するような成果に結びつけることができなかった。ディクテーションは聴解力を鍛える訓練方法だとされているが、一部の学生の日中聴訳の成績が下がったことからみると、ディクテーションは必ずしもすべての学習者に適応するとは限らない。今後、個人差を配慮し、学習者個々人のニーズに応えるような指導が必要である。

一方、「今回の訓練は良い学習習慣を身につけることに役立ったのか」という問いに対し、19名のうち17名が「役立った」と回答した。また、「今後もこのような訓練方法で自ら続けていくのか」という問いに対し、19名のうち10名が「続けていく」と回答した。これらの調査結果は学習者の内省報告にすぎないが、ディクテーションを取り入れた翻訳訓練方法に自律学習を促す効果が窺える。

6 今後の課題

今回の訓練用材料の難易度は、あえて制御せず、難易度が少しずつ上がっていくことによって、学習者の日本語能力を伸ばそうと考えていたが、テストの難易度が高かったため、聴訳成績の平均点が低くなり、一部の学習者のモチベーションを妨げる恐れがあった。今後、訓練用とテスト用の材料をさらに厳密に制御する必要がある。

また、今回は学生の語学力を鍛え、新学期から始まる通訳の授業につなげることを前提に、日本語のディクテーションと中国語に翻訳するタスクを組み合わせたが、通訳の訓練方法としては、シャドーイング、リテンション、サマライゼーション、サイト・トランスレーション等がよく用いられている (e.g., 塚本, 2013)。今後、ディクテーションと他の訓練方法を組み合わせる試みを行い、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」、「訳す」といった能力を総合的に高めるような訓練方法を検討していく必要がある。

さらに、今回は学生に長期休暇中でも日本語能力を保持させるために、自律学習を促すような訓練を夏休みに行った。計6回の訓練であったが、結果からみると、訓練の効果がみられた。ただし、ディクテーションの効果を最大限に発揮させるために、長期にわたって練習し続ける必要があると指摘されている (張, 2018)。よって、ディ

クテーションを取り入れた翻訳訓練は夏休み限定の訓練方法としてではなく、普段でも活用する余地があると考えられる。むしろ時間が経つほど、訓練の効果がより明確になる可能性がある。今後、訓練の期間を考慮しつつ、翻訳の基礎知識やテクニックを固めた上で、聴解段階における起点言語の瞬時情報処理能力を鍛えるような訓練方法及び訳出段階における目標言語の表現力を高めるような訓練方法を取り入れ、上級学習者と中級学習者のそれぞれのニーズに応えるような訓練方法を試みる必要がある。

参考文献

- [1] 焦婷婷 (2011). 《标准 NHK 新闻轻松听：听力＋词汇双破解》，中国宇航出版社。
- [2] 罗列・李建梅 (2004). 信息论与英语听力训练——系统的听写策略对提高听力的有效性实证研究 [J]. 《成都理工大学学报（社会科学版）》12 (1), 92-97.
- [3] 長坂水晶 (2010). 「通訳養成に携わる非母語話者日本語教師のための教授法授業—通訳訓練法を扱った実践—」, 『日本語教育紀要』6, 57-72.
- [4] 新本庄悟 (2020). 「リメディアル教育が必要な大学生に対するディクテーション指導と自己効力感に関する研究」, 『リメディアル教育研究』14 (23), 73-77.
- [5] 大岩昌子・赤塚麻里 (2019). 「大学生を対象としたリスニングの内容理解とディクテーションの比較研究 (1)」, 『名古屋外国語大学論集』5, 379-396.
- [6] 邱鸣 (2016). 《日语口译实务三级》，外文出版社。
- [7] 菅井康祐 (2014). 「音声に特化したリスニングテスト作成の基礎研究—ディクテーションとインタビューによる予備調査—」, 『生駒経済論叢』12 (1), 47-56.
- [8] 杉浦正利・竹内彰子・馬場今日子 (2002). 「リスニング能力養成のための自律学習：ディクテーションの効果」, 『言語文化論集』23 (2), 105-121.
- [9] 塚本慶一 (2013). 『新版 中国語通訳への道』, 大修館書店。
- [10] 梅田康子 (2005). 「学習者の自律性を重視した日本語教育コースにおける教師の役割—学部留学生に対する自律学習コース展開の可能性を探る—」, 『愛知大学語学教育研究室紀要（言語と文化）』12, 59-77.
- [11] 王建宜 (2018). 《日语口译综合能力三级》，外文出版社。
- [12] 米崎啓和 (2014). 「ディクテーションは高校生のリスニング力を伸ばすか：リーディング力・文法力の高い集団を対象とした実証研究」, 『中部地区英語教育学会紀要』43, 43-50.
- [13] 张晓蕾 (2018). 听写训练对非英语专业大学生英语听力水平的影响——以应用型本科院校为例 [J]. 《齐鲁师范学院学报》33 (3), 36-42.

（本文系河南省教育厅人文社会科学研究指导性计划项目“汉日双语口译心理机制及错译原因”（2021-ZDJH-0141）的阶段性成果。）

目的论视阈下《你好，李焕英》片名日译策略研究

李欣欣

四川大学、湖北民族大学

0 引言

随着经济全球化的发展，各国间的政治，文化等各个领域的交流合作也日益密切。中国政府更是适时地提出了“中国文化走出去”“讲好中国故事”的文化战略。电影作为大众普遍的艺术形式，蕴含着丰富的民族文化，是价值观与意识形态对外传播的重要载体，在跨文化交际的过程中发挥着重要的桥梁作用。因此，影片名称的外译，在传达影片信息，提升影片海外商业价值方面发挥作用的同时，在当下中国民族文化外宣与推广方面也扮演着重要的角色。

在此背景下，2021年春节期间，实现了“口碑”与“票房”双创佳绩的《你好，李焕英》继登陆欧美之后，近来又被引入日本。官方日译片名为「こんにちは、私のお母さん」。因此，本文拟从“目的论”的角度出发，以不同的翻译目的为标准，对该译名的优劣进行评析。其次，本文主要立足于不同的翻译目的，对《你好，李焕英》片名提出其他多种不同的日译策略，并分别对其进行比照分析。最后，本文将利用实际的问卷数据对研究结果进行佐证与充实。期待通过本文对电影片名日译的探讨，有助于实现此类影片海外商业价值的同时，扩大中国文化的国际影响力，助力中华文化精神内核的有效推广与宣传，更加有效地促进中日之间的文化交流。

1 理论基础与先行研究

20世纪下半叶，凯瑟琳娜·莱斯（Katharina Reiss）提出了功能主义的翻译理论。功能主义的翻译理论主张，在翻译的过程中，译文与原文具有不同的功能，因此，未必要实现两者的完全等价，重要的是优先考虑译文的功能。后来，汉斯·弗莱在此基础上明确提出了翻译的“目的论”，即“Skopos Theory”。“Skopos”原本为希腊语，其意义为“目标，目的”，其主张把翻译定义为“在目标语境中为目标目的和目标受众而创作的文本”[1]，也就是将翻译视为具有目的性的人的行为，其重点在于强调翻译行为达成的目的性，即，为何而翻，为谁而翻等问题。除此之外，“目的论”还包含有三个基本原则，分别为“目的原则”、“忠实原则”和“连贯原则”。这三条原则等级不一，目的原则是最重要的原则，在翻译过程中具有决定作用。理论认为，每一个文本都是为了相应的目的而产生的，为特定的目的服务的。这个目的具有三种解释：译者的目的，译文的交际目的，和使用特殊手段所要达到的目的。但是在通常的情况下，目的是指译文的交际目的，是由翻译过程的发动者来决定的。目的原则就是指翻译要使得译作或者文本能在使用它的人身上发挥应有的功效。连贯原则是指译本在目的语读者看来必须是连贯的，可读的，可以接受的。忠实原则，是指翻译与原语文本之间的语际连贯，即忠实于原文。翻译的目的决定了文本的忠实度，译文和原文所传达的内容和文化可以达到最大限度的忠实，也可是以是最

小限度的忠实（Vermeer 1978:56, 杨柳 2009:20）。因此，在目的论的视野下，同一个文本根据翻译目的的不同可能会产生多个译本，原文和译文不一定是完全对等的。只要达到了翻译的目的，那么它就是充分的，可以接受的。

基于“目的论”在翻译实践过程中所具有的针对性与指导性的作用，因此将其与电影片名翻译相结合进行研究的文献并不鲜见。这其中主要包括，如贺莺（2001）主张电影名称具有信息传达、情感表达、审美情趣以及商业宣传的四项功能 [2]。（杨柳 2009）也从目的论出发，指出影片名的翻译中，译者所要追求的就是在目的语即日语文化语境中达到预期的一种或是几种交际功能或目的。具体而言，第一是总体预期功能，即导视功能，要求译名必须跟影片的主题内容息息相关，并且要具有一定的诱导性；其次，译名还要具有一些具体的功能，比如，渲染影片气氛、点拨影片的主题、或强烈吸引观众等等。（毛飞宇 2019）《对中国电影片名日译的考察》以 2000 到 2018 年间在日本上映的 233 部中国电影的片名为研究对象，从目的论的视角对其日译方法进行了考察等等。纵观前人成果，对目的论所蕴含的内容与意义都进行了较为系统的研究，对片名的翻译功能也做了较为准确的概括与总结。但同时，笔者也注意到，这其中大多是由于以往影片的既有译名所进行的分析与探讨，对于目的论视角下影片片名的翻译方法，也大都采用总括性研究与纵向式梳理的方式，缺乏基于目的论视角下针对同一影片片名全方位从多角度出发进行的深入研究。

基于此，本文将在前人研究的基础上，拟从外译电影名称的信息传达、情感表达、审美情趣、商业宣传以及文化传播等多项功能与目的出发，立足于功能主义目的论的翻译原则（目的原则，连贯原则以及忠实原则）对《你好，李焕英》片名的日译策略展开分析与探讨。

2 具体策略分析

影片的片名通常是一部电影主题内容的高度概括与提炼，从这个角度而言，在电影片名翻译的过程中，片名翻译是否能够准确传达影片的主题信息成为外译电影名称的首要任务与目的。信息传达的准确与否也从根本上决定了译名与影片内容的契合度以及影片导视功能的实现问题。同时，片名信息传达的“目的性”也客观上要求译名需要遵守最大限度的“忠实原则”。因此，本文首先立足“信息传达”的翻译目的，从最能满足“忠实性”的直译翻译策略出发对“你好，李焕英”的日译片名进行探讨。

2.1 直译

直译是指将原文的意义即片名的意义直接翻译为目的语的翻译方式。因此，对于中文片名的意义分析是实现信息传达的“目的原则”与“忠实原则”的第一步。

片名《你好，李焕英》，字数简短，内容简洁，整个题目仅仅五字，由“寒暄语 + 人名”的形式构成。这其中寒暄语“你好”，在日常生活的使用率中其具有显著的高频特征。就其语用范围而言，其适用于从陌生到熟识的各种话语角色，既可以用在初次见面的陌生人之间，也可以在一般关系的人之间使用⁽³⁾。总之，“你好”是中国社会人际交往当

中，表达双方见面时最常用的日常问候语。同时“李焕英”也是一个普通的中国人的姓名。如果仅从题目出发对其进行直译，我们很可能会自然地翻译为「こんにちは、りかんえい」。该片的官方日译名称「こんにちは、私のお母さん」便属于此类。该译名基本实现了与中文名称形式上的对等，但这里的「こんにちは」与“你好”意义是否完全对等，这样的翻译是否能够有效传达影片的信息，首先，我们需要在了解电影的主体思想与故事内容的基础之上，对片名的内涵意义作进一步的剖析。

《你好，李焕英》是中国的新晋女导演贾玲，为了纪念自己去世的母亲而进行创作的温情穿越悲喜剧。“李焕英”就是贾玲母亲的真实姓名。故事讲述了年轻的贾小玲因母亲车祸而穿越时空与20年前年轻的母亲相逢，相处，以及发现年轻的李焕英亦为穿越而回的母亲时，母女相认，又无奈再次分别的故事。影片处处流露出母女间的浓浓亲情，令人动容，催人泪下。因此，结合以上关于影片主题思想内容，特别是影片中穿越时空与20年前年轻的母亲的相遇，以及影片设定的悬念，即女主角原以为年轻的母亲不知情的情况下去邂逅母亲的剧情线索来看，影片中文片名当中的“你好”二字，并非等同于日常交际用语当中的用于“一般关系的人见面”时普通的问候语，其意义更倾向于“陌生人初次见面”的语用意义。因此，表达“陌生人初次见面”的意义成为影片信息传达的“目的性”与“忠实性”的主要任务。从语言的使用对象与意义来讲，「こんにちは」不仅用于基于“上下关系”中的“上方”，也用于基于“内外关系”中初次见面或不认识的“外则”。……⁽⁴⁾ 相形之下，「初めまして」表示的意义范围更为明确与集中，仅仅表示“初次见面”，在日语中，通常用于人们初次见面时的寒暄。因此，在这里我们不妨将片名中“你好”的含义，从“一般”的寒暄限定集中引申为“特定”的“初次见面”，并最终将其对译为「初めまして」。比起「こんにちは」，「はじめまして」更能够突显母女穿越时空的“初次”邂逅，以及女儿对于少女时代的母亲的重新认识。

其次，对于“李焕英”，笔者认为可以直接移用汉字“李焕英”，另外用片假名对其日语读法进行标注，即，整个影片翻译为「初めまして、李焕英(リカンエイ)」。

电影作为特殊艺术形式的创作，其中当然蕴含着编剧与导演的创作思路与创作理念。从目的论的角度而言，了解编剧与导演的创作思路与创作理念，使译名能够对此进行充分的表达与传递，也是影片信息传达的重要一环。

身兼编剧与导演的贾玲曾经在采访中被问道，为什么电影的名称不直接称呼为“你好，妈妈”而是用了母亲的名字“李焕英”？贾玲回答说：“我的记忆里母亲从一开始就是一个中年妇女的形象，但是我们忘了母亲在成为我们母亲之前，其实，首先是她自己，我用母亲的名字“李焕英”是想告诉大家，我们的母亲也曾经是花季少女，也曾拥有过自己的青春时代……⁽⁵⁾”因此，可见对于母亲“李焕英”的“直呼其名”是导演贾玲对于母亲本身个人身份的回溯肯定，同时也是其对于母亲青春时代的致敬。另外，从影片的故事主线来看，穿越后的女主角首先见到的是青年时期的“李焕英”，以后发生的大部分温馨煽情搞笑的故事也都是在“李乐莹”（女儿穿越之后，与母亲相认之前所使用的名字）与“李焕英”这两个“闺蜜”间展开的。因此，从目的论出发，“李焕英”加假名标注“リカンエイ”的方式更容易将电影的创作理念与故事的主线的信息传达给观众。

假名标注的形式则是充分考虑到目的语观众的语言表达习惯，以此可以减少突兀，拉近与异国观众的距离，增加认同感。

同时，对于“李焕英”的翻译，笔者认为，可以将其翻译为“李焕英”原本的身份「お母さん」，而其官方日译名称中的「私のお母さん」中的「私の」则略显冗余。「初めまして、お母さん」的翻译方式可以使影片“母女亲情”的主题思想得以充分的表达和展现。另外，从语义与语用角度出发「初めまして、お母さん」搭配使用，虽然表面破坏了常见的语用规则，即，“初次见面”的语用意义范围与对象为“母亲”身份之间产生了“冲突”，但是，正是这样的语义语用之间的冲突与矛盾恰恰可以激发观众的好奇心，引发观众的观影兴趣，从而，对于实现影片的商业价值起到一定的作用。总之，原译名「こんにちは、私のお母さん」其直译的方式基本对应保留了原标题中的形式，但从传达影片内容与引发观众观影兴趣的角度而言「初めまして、お母さん」的表达方式似乎更为贴切。

2.2 意译

据（毛飞宇 2019）考察，在 2002-2008 年间 233 部日译影片的译名中，采用“意译”的方式进行翻译的电影名称达到了 129 部，占总数的一半以上^⑥。这其中较具有代表性的有，「初恋の来た道」《我的父亲母亲》、「山の郵便配達」《那山，那人，那狗》、「妻への家路」《归来》、「こころの湯」《洗澡》等等。从实际的在地票房成绩，观众接受度以及文化传播的影响力来看，意译的电影名称在中国影片对日推广的过程中发挥了积极的作用。由此可见，“意译”已成为影片名称日译的重要方式。

因此，本文也将考虑对片名进行意译。意译首先是对于影片主题思想的传达。前文中也提到，影片译名信息传达功能的实现，不能仅仅停留在对于电影名称词句本身的思考与揣度上，我们更应对于电影这种特殊的文学形式的主题以及内容进行高度的概括与深度的挖掘。其次，从目的论的连贯原则出发，片名的翻译在目的语观众看来必须是连贯的，可读的，可以接受的。发掘两种文化间的共性如此才能引起目的语观众的共鸣，共情，最终实现电影译名的在两种不同文化中的交际目的。从此意义出发，归化与意译片名意译方式第一要考虑影片主题信息的传达，第二要充分考虑到目的语观众的审美习惯与文化习俗。

回顾《你好，李焕英》，该片的主题关键词是“母子亲情”。“穿越时空”是影片的叙事手法与展开方式，“寻母”是影片的故事主线。因此，我们可以考虑将这三者在意译的片名的中进行集中的体现。

关于“寻母”，宫崎骏较早的动画电影《寻母三千里》「母を訪ねて、三千里」以及后来改编的同名动画剧集已在日本几代观影人心中留下了深刻的印象。因此，我们不妨加以借鉴，从日本观众的观影习惯与文化语境出发，将《你好，李焕英》归化意译为「母を訪ねて、時をかけ」。

如此，首先可以利用「母を訪ねて、三千里」在日本观众中固有的深刻影响，拉近观众距离，制造影片的商业宣传“卖点”，提高影片本身的商业价值。其次，从语言审美的角度而言，“母をたずねて、時をかけ”这种“7”“5”文字排列格式，与日本传统的

和歌，以及俳句的格式相吻合，展现了日本传统诗歌的音韵美，使片名审美功能得以充分的展现，更符合日本观众的语言审美要求。最后，该意译片名直击电影主题，直现叙事主线，对影片的信息进行了有效的传递，进而对于异国观众可以起到良好的导视作用。

2.3 移译（零翻译）

功能翻译的目的论以行为理论为基础，将翻译定义为有目的的人类交际与跨文化交际行动⁽⁷⁾。而电影名称的翻译更能凸显翻译本身的两种文化间沟通与交际功能。《你好，李焕英》在全球上映的同时，是将其作为代表中华民族感人至深的亲情文化，与“子孝亲，时不待”孝道理念推向了全世界。这种具有强大感染力的民族文化精神内核，注定了作为电影这种特殊的艺术形式，在当下“坚持中国文化走出去”，“讲好中国故事”背景下，其所承担的文化外宣，文化传播以及跨文化交际的职责与功能。

如何使《你好，李焕英》的日译名称，体现新时期背景下的中国文化自信，发挥好传播中国文化的职责与功能，是我们在翻译过程不容忽视的重要任务。黑格尔曾说：“只有当一个民族用自己的语言掌握了一门科学的时候，我们才能说这门科学属于这个民族”⁽⁸⁾同理，只有一个民族善于用自己的语言与文字讲解中国故事，传播中华文化，弘扬中华民族的精神时，凝聚中国强大力量时，我们才拥有了属于自己的文化话语体系⁽⁹⁾。可见，在进行翻译活动的过程中，如何巧妙而精确地利用自己的语言与文字，是新时期中华文化对外传播背景下我们需要考虑的首要问题。在此翻译目的的背景下，我们不妨将《你好，李焕英》进行零翻译，也就是音译与移译，即，将源语中的词语“原封不动”地转移至目标语当中，并且进行音译，用假名标注相应的发音。即，「你（二一）好（ハオ），李（リ）焕英（カンエイ）」。

当然，将《你好，李焕英》的片名原原本本的移植并非对中国的语言文字生拉硬拽，照搬照抄，强加于人。首先，中日之间一衣带水的地缘位置以及“同文同种”的文化历史渊源决定了汉字在日本社会与日本文化中所占有的重要地位，将中文汉字词汇“你好”原原本本移植入日语的片名中，并不会引发观众的反感甚至排斥，多少还有几分熟悉与亲切。其次，随着近年来中国综合国力的提高，中国在国际社会中扮演的角色愈发重要，中国文化的影响力也逐渐增强。在此背景下，全球范围内汉语热也持续升温。根据日本文部科学省做的一项关于“日本高等学校国际交流状况”的调查显示“日本全国设有英语以外别的外语的学校共有2027所，开设的语言有16种。其中，设有汉语的学校是最多的，共有831所，学习汉语的人数到现在突破了200万人。另外，由于地理、历史、经济交流等原因，企业对于会说汉语的人才的需求也在增加，今后学习汉语的日本人也会持续增多”⁽¹⁰⁾。基于此，这样就奠定了《你好，李焕英》在日译过程中的零翻译策略实现的可能性与受众基础。最后“你好”作为汉语中常用问候语，其本身词形简短，且使用频率较高。日本民众普遍对其较为熟悉，有较高的接受度。因此，将其进行移植不容易造成理解上的较大的偏差与误解，同时「你（二一）好（ハオ），李（リ）焕英（カンエイ）」原文片名简短也不会因为题目的冗长，而变得索然无味，令人费解。

另外，零翻译的翻译策略，在以往中日电影名称的翻译中已有先例，并不罕见。其中，

最典型的例子，是在日本公映的第一部新中国电影《白毛女》，当时这部影片的日译片名完全采用了零翻译的策略，即「白（はく）毛（もう）女（じょ）」。而这部影片由周恩来总理赠予日本之后，再经复制，在日本各地巡回上映，引起了巨大的反响。截止到1955年6月，累计在日的观影人数达到了200万人^{〔11〕}。除此之外，片名“零翻译策略”日译影片还包括「茶馆」「菊豆」「绿茶」等，总数达到数十部之多。

事实证明，将片名当中的源语词句“你好，李焕英”原原本本地移植至日语目标语中的零翻译，保证了源语片名在目标语转换过程中最完整的原文形式保留，将观众引向片名的源语文化，使其能够进入其中理解片名译名，由此观众可以领略到了浓浓的汉语文化与中国风情，品味到原片名当中的原汁原味。这种“逆向式翻译”实现了不同语言文化之间进行的有效交际^{〔12〕}。电影名称的零翻译日译策略，因异国语言文字风格对观众起到了积极的商业宣传效果，提升了影片本身的商业价值。同时也体现了译者在翻译过程中，坚持“文化自信”“语言自信”以及“文字自信”的翻译原则与宗旨，更是在民族文化外宣过程中积极树立文化话语权意识的表现。

2.4 混合译：移译+意译

福柯曾经说过：“话语就是权力，人通过话语赋予自己权利”^{〔13〕}。由此我们可以推定“文化话语权”就是在文化领域的发言权。它是一个国家软实力，国际竞争力和综合国力的象征。本质上是一个国家的文化主导权，具有战略性意义。而本土语言与文化的输出在文化话语权的确立过程中发挥着重要的作用。具体到“你好，李焕英”的日译方式，在上一节中完全移植的零翻译策略，从目的论的角度而言，实现了中华语言文化的对外传播与推广，对电影信息的接受者（观众）会产生潜移默化的影响，我们不能妄言几部影片名称的汉字原原本本的“移译”会直接促成中华民族文化话语体系的建立，但同时也不能否认，也不能忽视高频率零翻译策略处理的文字和词汇的输出，日积月累必定会使目的语的观众无意识地耳濡目染，接受其宣传效应，从而间接地助力本国文化话语权的确立。另外，在此过程中我们也应该意识到仅依靠单向的语言文化输出，忽略与他国文化的交流与对话，最终的结果很可能只是自说自话。因此，以此为翻译目的背景下，我们需要思考多种翻译方式的优化组合。

具体而言，在“你好，李焕英”零翻译移植的基础上对其进行补充性说明，即，将更符合目的语观众的观影习惯、审美情趣、文化思维惯性以及有效传达影片信息意译名称“母をたずねて時をかけ”作为副标题进行添加。也就是，将片名进行混合译为“你好，李焕英～母をたずねて時をかけ～”。

从目的论的角度而言，将“移译”+“意译”相结合进行“混合译”的翻译方式，首先保留了原中文题目当中简洁的文字形式，影片的创作理念与创作目的以及寓意悠长的文化信息。其次，意译部分则从日本观众的观影习惯与文化心理出发，将影片的主题内容信息进行了较为完整的传达，从而更容易引起日本观众的共鸣，引发他们的观影兴趣，实现影片的商业价值与文化传播功能。最后，这两种翻译方式的结合实现了在片名日译过程中，中日两种文化的有效交流与对话，是通过电影片名日译对中国语言文化话语权

的确立的有效尝试。

因此，“你好，李焕英～母をたずねて時をかけ～”作为片名，从目的论角度而言，其基本实现了信息传递、情感表达、商业宣传以及文化传播与交流的翻译目的。

2.5 英译名称的使用

由于文化全球化的逐步推进与发展，电影在制作之初往往就考虑到推向海外市场的需要，会直接确定英译的片名。《你好，李焕英》的英译名称《hi,Mom》便是如此。因此，在考虑将片名日译的过程中，是否可以在英译名的基础上进行加工处理，或是加以借鉴也是值得我们思考和探讨的问题。参照之前日译片名对于英译片名的处理方式，大致可以分为英译名的直译，移译与加译。即片假名直译：「ハイ、ママ」，移译为“hi,Mom”。但是否合理，仍然需要推敲。首先，片假名直译的方式中的「ハイ」，与日语中表示强烈的肯定语气意义“是的”的「はい」，词形相同，这样容易造成意义上的混淆。从目的论“目的原则”的角度出发，「ハイ、ママ」的日译片名并未对影片名称信息进行准确的传达。因此，原文与译文之间有效交际的目的难以达成。其次，从“忠实原则”出发，忠实原则，「ハイ、ママ」并未忠实于原文，对原文进行曲解甚至是误译。会对观众造成误导。因此，「ハイ、ママ」的翻译方式我们首先进行排除。

另外，关于用移译的方式直接照搬“hi,Mom”。首先，该译名对于影片的大部分主题信息进行了有效的传递。即，突出了“母亲”的同时，通过问候语勾勒出了母女穿越时空再见的真实场景。其次，英语在日本社会当中的接受程度相对较高，加之，英译名称本身相对简洁，因此，英译片名直译的方式，容易引起观众的注意，引发观众的观影兴趣。但这其中，中国式亲情的主线与中国特色的语言文字表达并未进行充分的体现，从实现影片母语文化传播的角度而言，略显缺憾。

3 问卷调查

为了进一步证实笔者的论证，本文使用“问卷星”通过网络随机对日语母语者进行了题为“「你好，李焕英」という映画タイトルの和訳について”的小型的问卷调查。最后，收到有效问卷的数目为 68 份。该问卷所设计的问题主要包括，

1、以下の映画タイトルのうち、タイトルを見るだけでその映画を観てみたいと思うものを選んでください。

①「初めまして、お母さん」
②「こんにちは、私のお母さん」
③「你好，李焕英（ニーハオ，リカンエイ）」
④「母をたずねて時をかけ」
⑤「你好，李焕英（ニーハオ，リカンエイ）～母をたずねて時をかけ～」

2、問1の回答を選んだ理由は何ですか。以下の選択肢の中から当てはまるものを

すべて選んでください。

①タイトルで映画の内容をある程度イメージできるから。
②タイトルに中国語が入っているから。
③タイトルが美しいから。
④日常生活であまり使わない日本語に興味を惹かれたから。
⑤その他（ ）

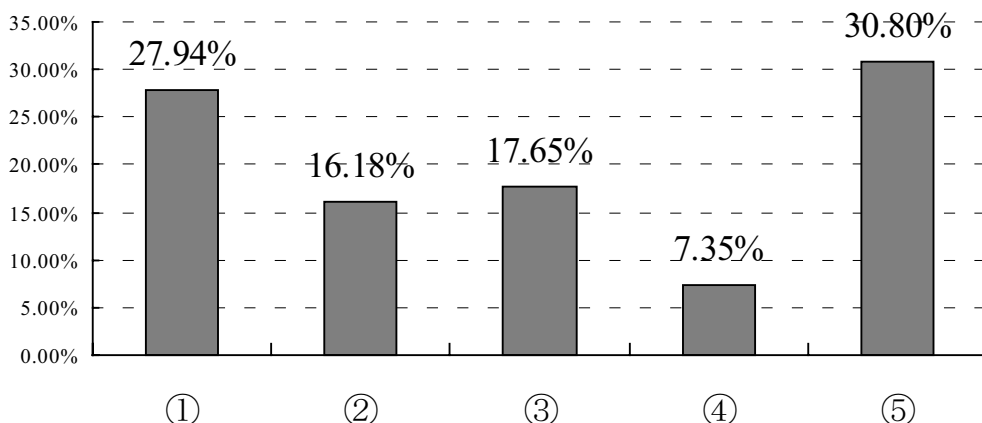
以下，我们将逐个对问卷结果进行分析。

首先，对于第1题，「以下の映画タイトルのうち、タイトルを見るだけでその映画を観てみたいと思うものを選んでください。」（也就是下列电影题目你最想看的是哪一部？）

此题目的设计目的是想针对“日译片名对观众的吸引程度，以及其所具有的商业价值”所进行的调查。

其问卷结果如下：

选项	小计	比例
①「初めまして、お母さん」	19	27.94%
②「こんにちは、私のお母さん」	11	16.18%
③「你好，李焕英（ニーハオ、リカンエイ）」	12	17.65%
④「母をたずねて時をかけ」	5	7.35%
⑤「你好，李焕英（ニーハオ、リカンエイ）～母をたずねて時をかけ～」	21	30.8%
本题有效填写人次	68	



通过调查结果的柱形图我们可以发现，选择⑤「你好，李焕英（ニーハオ、リカンエイ）～母をたずねて時をかけ～」的人数比例最高，为 30.88%。之后依次为①「初め

まして、お母さん」27.94%，③「你好，李煥英（ニーハオ，リカンエイ）」17.65% ②「こんにちは、私のお母さん」16.18% ④「母をたずねて時をかけ」7.35%。这也客观上说明了日语母语的被调查者对于“混合译：移译+意译”这种翻译方式的认可，⑤③比例较高也侧面说明，在片名日译的过程中保留汉语原语中较为简单的表达，不会造成认知障碍，反而会在一定程度上引发观众的观影兴趣。①所占比例位列第二，说明被调查者对于简洁且直击主题式以及“冲突式”日译方式的认可。②的所选比例也相对较低，说明题目本身所具有的商业宣传效果有限。相对而言，④「母をたずねて時をかけ」所占比例最低，这与包含其在内的混合译的高选择率形成了鲜明的对比，这也客观上说明，相形之下，日语母语者更倾向于选择信息更加完整的“混合译”的表达。






其次，是关于“选择理由”进行的调查：

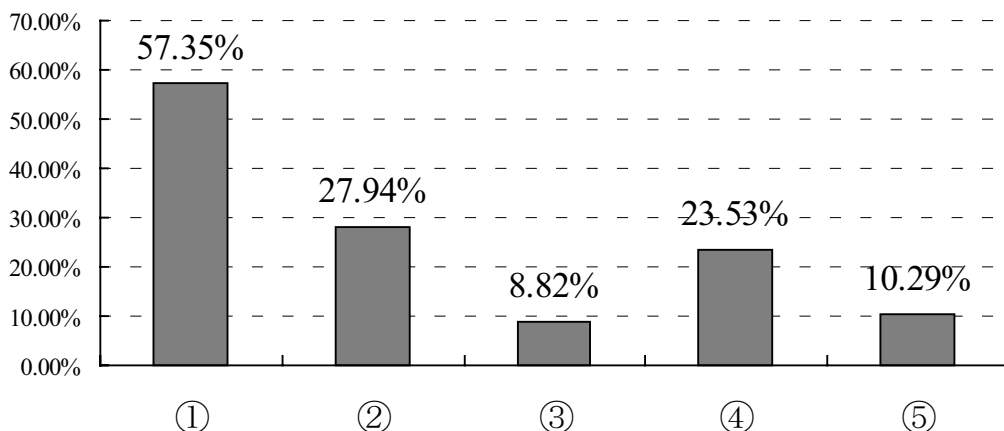
問1の回答を選んだ理由は何ですか。以下の選択肢の中から当てはまるものをすべて選んでください。

①タイトルで映画の内容をある程度イメージできるから。
②タイトルに中国語が入っているから。
③タイトルが美しいから。
④日常生活であまり使わない日本語に興味を惹かれたから。
⑤その他（ ）

问卷的第二题是对于“选择理由”所进行的调查。在具体的选项中，我们分别设定了“从题目可以一定程度把握电影的主题，题目中包含汉语，题目文字表达优美，题目中有日常生活中不太使用的日语表达以及其他”等5个选项。其分别代表了影片主题信息的传达与情感交流、语言文化的传播、审美情趣以及新奇特殊表达所具有的商业宣传效果。

“选择理由”的调查结果如下：

选项	小计	比例
①タイトルで映画の内容をある程度イメージできるから。	39	 57.35%
②タイトルに中国語が入っているから。	19	 27.94%
③タイトルが美しいから。	6	 8.82%
④日常生活であまり使わない日本語に興味を惹かれたから。	16	 23.53%
⑤その他（ ）	7	 10.29%
本题有效填写人次	68	



从整体上来看，有超过半数的被调查者将“依据题目可以对电影主题形成一定的印象”作为他们进行影片选择的理由。这也客观印证了先行研究中所提出的电影名称翻译中，电影主题信息传达的重要性。其次，“题目中包含汉语”的理由排在第二位，这客观上说明了日语目的语观众对于中国电影以及影片题目中出现原语（汉语）有一定程度的接受度。除了中日之间特殊的历史地理因素所造成的语言文化间的影响，这在客观上反映出近年来中国政府积极推行的“文化走出去”的语言文化战略产生了良好的效果，有效地促进中日之间的语言文化交流。最后，“特殊新奇的日语表达所引发的兴趣”的理由排在了第三位，说明特殊新奇的表达方式能够在一定程度上发挥影片商业宣传的效果。

第三，我们将对于各个译名的选择理由进行简单的分析对比。

因为第⑤项「你好，李焕英（ニーハオ、リカンエイ）～母をたずねて時をかけ～」是由第③项「你好，李焕英（ニーハオ、リカンエイ）」与第④项「母をたずねて時をかけ」组合而成，所以，我们先将其三者进行对比分析。其各项“选择理由”问卷结果如下：

第⑤项「你好，李焕英（ニーハオ、リカンエイ）～母をたずねて時をかけ～」选择理由：

选项	小计	比例
①タイトルで映画の内容をある程度イメージできるから。	14	66.67%
②タイトルに中国語が入っているから。	10	47.62%
③タイトルが美しいから。	1	4.76%
④日常生活であまり使わない日本語に興味を惹かれたから。	4	19.05%
⑤その他（ ）	2	9.52%
本题有效填写人次	21	

第③项「你好，李焕英（ニーハオ，リカンエイ）」“选择理由”：

选项	小计	比例
①タイトルで映画の内容をある程度イメージできるから。	2	16.67%
②タイトルに中国語が入っているから。	7	58.33%
③タイトルが美しいから。	1	8.33%
④日常生活であまり使わない日本語に興味を惹かれたから。	3	25%
⑤その他（ ）	2	16.67%
本题有效填写人次	12	

第④项「母をたずねて時をかけ」“选择理由”：

选项	小计	比例
①タイトルで映画の内容をある程度イメージできるから。	1	20%
②タイトルに中国語が入っているから。	0	0%
③タイトルが美しいから。	1	20%
④日常生活であまり使わない日本語に興味を惹かれたから。	4	80%
⑤その他（ ）	0	0%
本题有效填写人次	5	

通过以上结果我们可以发现：66.67%的被调查者认为混合译的题目，“能够从某种程度上对影片的内容进行概括形成一定的印象”。而在采用零翻译的「你好，李焕英（ニーハオ，リカンエイ）」的选择理由中这个比例仅仅达到了16.67%。同时，意译「母をたずねて時をかけ」中基于此理由进行选择的人数也仅占20%。这说明混合译（移译+意译）的翻译策略比起单纯的零翻译策略以及意译的翻译方式更容易使观影者从题目把握理解影片的主题信息，也更容易激发观众对于影片内容的联想。由此，我们可以推断在片名外译的过程中，比起单纯零翻译，混合译（移译+意译）的翻译方式更容易传递影片的主题内容，从而接受度也越高。

其次，在⑤与③两个结果中，“因为该题目当中加入了汉语”的理由均占有很高的比例，分别达到了47.62%与58.33%。侧面说明有接近半数的被调查者可以接受在日译的电影名称中加入汉语，且进一步证明了片名日译过程中适当的汉语保留可以激发观众的兴趣，同时可很好地发挥语言文化传播作用。另外，在三项的选择理由中将“题目中

存在日常生活中不常使用的日语”作为选择理由的比例分别占到了 19.05%、25%、以及 80%，这可以理解以日常生活中不常使用的和歌或是俳句式的语言表达或音译假名对汉语的标注方式在某种程度上可以激发观众的观影兴趣，因此，也可以进一步提升影片的商业价值。

b 第①项「初めまして、お母さん」“选择理由”的问卷中，其结果如下：

选项	小计	比例
①タイトルで映画の内容をある程度イメージできるから。	12	63.16%
②タイトルに中国語が入っているから。	1	5.26%
③タイトルが美しいから。	2	10.53%
④日常生活であまり使わない日本語に興味を惹かれたから。	5	26.32%
⑤その他（ ）	2	10.53%
本题有效填写人次	19	

从上表我们可以发现，“从题目能够对影片的内容形成一定的印象”的理由仍然是以 63.16% 的比例排在了第一，换言之，影片日译名称中的关键词“初次见面”“母亲”的关键词能够将“母子亲情”的电影主题对观众进行有效的传达，而且有效地实现了与目的语观众情感上的交流，进而引发观众对于影片内容的丰富联想。其次，有 26.32% 的被调查者认为“题目的表达有别于日常生活中使用的日语引发了兴趣”这一结果也恰好印证了在前文中笔者对于这一表达所造成的语用上的冲突可以引发观众观影兴趣，从而增加影片商业宣传效果的推论。

C ②「こんにちは、私のお母さん」“选择理由”的问卷中，其结果如下：

选项	小计	比例
①タイトルで映画の内容をある程度イメージできるから。	10	90.91%
②タイトルに中国語が入っているから。	1	9.09%
③タイトルが美しいから。	1	9.09%
④日常生活であまり使わない日本語に興味を惹かれたから。	0	0%
⑤その他（ ）	1	9.09%
本题有效填写人次	11	

上表中，几乎所有的人被调查者都选择了“从题目能够对影片的内容形成一定的印象”的理由选项，这在某种程度上反映出部分调查者对此直译方式的认同，认为其可以从某种程度上反映出被调查者可以通过该题目对影片的内容具有一定的认识，但结合第 1 题结果来看，这个译名被选所占比例仅为 16.18%，位列第 4 位。这说明仅从此译名而言，

对目的语观众的吸引力相对不足,因此,其所能带来的商业价值也随之受限。

最后,调查结果总结。

通过此次关于《<你好,李焕英>影片题目的日译方式》的小型问卷调查,我们发现混合译的翻译策略,即「你好,李焕英(ニーハオ、リカンエイ)〜母をたずねて時をかけ〜」的翻译方式在目的语被调查者中的认可度相对较高。从“目的论”的角度出发,该题目也同时兼具了,影片内容信息传达、文化推广、商业宣传、影片导视以及激发观众观影兴趣等多项功能。因此,我们可以认为混合译的翻译策略在此类型中国影片题目的日译过程中所具有的优势明显。我们在今后的片名外译实践中可以适当地采用或推广。其次,认可度相对较高的还有「初めまして、お母さん」,该题目也基本具备了影片内容信息传达、情感交流、商业宣传、影片导视以及激发观众观影兴趣等多方面的功能,但从文化推广的角度而言似乎稍有欠缺。除此之外,其他三个题目从目的论角度,其实现的功能相对单一,因此,在今后影片的外译策略的选择过程中我们应该慎重选择。

诚然,由于客观条件的限制,本次问卷调查自觉存在样本容量相对较小,且问题设计不够细化等问题,这可能会导致出现些许的偏差,但整体结果相对客观,具有一定的可信度。我们也会在今后的研究工作中对此类型的问题加以改进。

4 结语

目的论视阈下,“翻译目的”不同,决定了翻译策略的差异。不同翻译目的下的翻译策略形式不一,各具特色,但翻译策略是否能够同时兼具实现多种翻译目的与效果是衡量翻译是否得体恰当的标准。本文从“目的论”出发,在《你好,李焕英》的影片名的日译过程中以信息传达、文化推广、商业宣传以及影片导视等为翻译达成的效果为目标,分别从直译,意译,移译(零翻译)以及混合译等多个翻译策略层面进行了探讨。在此基础上结合问卷调查,我们发现在此片名的日译过程中,混合译的方式兼具了多项影片译名应具有的功能。因此,被调查者对其的认可度最高。其次,简洁直译,反映主题,且表达新颖的日译片名也较容易得到观众的青睐。因此,在今后的片名外译的实践过程中,我们可以结合实际情况对以上两种翻译策略进行灵活应用。

在当前中国政府推行“文化走出去”的战略背景下,期待通过本文对电影片名日译的探讨,有助于提升此类型影片海外商业价值的同时,扩大中国文化的国际影响力,助力中华文化精神内核的有效推广与宣传,更加有效地促进中日之间的文化交流。

注:

- (1) Vermeer,Hans J.A Framework for a General of Theory of Translation. [M].Heidelberg: Heidelberg University,1978.:56 / 杨柳.20世纪西方翻译理论在中国的接受史[M].上海:上海外语教育出版社,2009:18
- (2) 贺莺.电影片名的翻译理论和方法[J].外语教学,2001.01:56
- (3) 田然.基于语篇的“你好吗”“你好”对比研究[J].国际汉语教学研究,2018.04:78
- (4) 王海航,缪里英.现代日本年轻人的「こんにちは」意识——日本大学生「こんにちは」的使用变化和意识调查.[J].福建师大福清分校学报.2013.01:75

- (5) 你好视频 贾玲解释《你好，李焕英》寓意
<https://haokan.baidu.com/v?vid=8750441103924512754&pd=bjh&fr=bjhauthor&type=video>
- (6) 毛飞宇. 对中国电影片名日译的考察 [D]. 北京：北京外国语大学硕士论文. 2019:17
- (7) 傅若琪. 目的论视角下特殊用途英语的“零翻译”策略研究. 成都师范学院学报 [J] 2021.01:92
- (8) 黑格尔. 哲学史讲演录，第4卷 [M]. 译者：贺麟，王太庆. 北京：商务印书馆. 1983:187
- (9) 韩美群. 论文化话语体系的多重属性与建构范式，思想理论研究 [J]. 2016.07:46
- (10) 攀达汉语：“汉语热”席卷整个日本. <http://www.prcba.com/news/8725.html>
- (11) 人民画报：日本《白毛女》：见证友好，续写传奇
http://www.rmhb.com.cn/wh/201707/t20170707_800099971.html
/ 毛飞宇. 对中国电影片名日译的考察 [D]. 北京：北京外国语大学硕士论文. 2019:06
- (12) 罗国青 零翻译研究 [M]. 上海：上海交通大学出版社，2011:24
- (13) 迪迪埃·埃里蓬. 权力与反抗——米歇尔·福柯传. 谢强等译 [M]. 北京：北京大学出版社，1997:4.

参考文献

- [1] 杨柳, 20 世纪西方翻译理论在中国的接受史 [M]. 上海：上海外语教育出版社，2009.
- [2] 谭政,《你好，李焕英》：悲伤的喜剧与国民的共情 [J]. 文艺报，2021.2.24
- [3] 张颐武,《你好，李焕英》的忧伤与安慰. 北京观察 [J], 2021 (3)
- [4] 毕馨月,《你好，李焕英》携中国式亲情走向全世界. 长春新闻 [J], 2021.3.19
- [5] 汪兴定 杜勤, 试论功能主义翻译目的论下的含义策略 --- 以 NHK 新闻为例 [J], 语言比较研究 2021.03
- [6] 吴赞, 中国特色对外话语体系译介与传播研究：概念，框架与实践 外语界 [J] 2020 (6)

閻連科小説における譫妄的叙述の翻訳 — 会話文で使われるダッシュ記号を中心に —

魏琬婧
杏林大学

1 はじめに

閻連科（えん・れんか）は中国現代文学を代表する作家の一人である。閻連科の作品は日本語など二十種類に及ぶ言語に翻訳され、2014年にフランツ・カフカ賞を受賞して世界的に注目され、2015年には日本 Twitter 文学賞で第一位を獲得して日本の読者にも注目されている。日本語訳本には『愉楽』、『丁庄の夢』、『年月日』などの代表作がある。

閻連科の小説では、譫妄（せんもう）的叙述（譫妄叙事）が一つの特徴となっている。楊(2017)によると、譫言（妄想などの意識障害）のような会話は譫妄的叙述の一種であり、譫妄者の言語上の一番大きな特徴となっている。筆者はさらに、閻連科の小説の会話文にはダッシュ記号が多用されていることから、会話文における譫妄的叙述の譫妄性を強化したのはダッシュ記号の使用だと考える。

そこで本稿では、閻連科の代表作である『愉楽』（原題：『受活』）の中にある会話文で使われるダッシュ記号を中心に、機能的等価理論を用い、作者がダッシュ記号で高めた譫妄的叙述の効果は訳出されたかどうか、どのように訳出されたのかを解明する。

2 『愉楽』について

『愉楽』（原題：『受活』2004 春風文藝出版社）は閻連科氏によって書かれ、谷川毅氏によって翻訳（2014 河出書房新社）された、想像力と現実が混淆する魔術的物語である。

作者は中国の山奥に存在する障害者たちだけで営まれる架空の「受活村」を作り出した。県長は、体が不自由ながら超絶技能を持つ村人を利用して絶技団を結成し、県を興すためにレーニンの遺体を購入する資金を調達する計画を実行する。一方、村がすさまじい略奪に苛まれてきた歴史を踏まえ、村で最も声望のある老人は県から離脱して完全に自治することを要求する。

『愉楽』は2015年に日本 Twitter 文学賞の第一位を受賞し、発行から半年間で二回増刷された。訳者の谷川毅氏は名古屋経済大学の教授で、中国当代文学雑誌『火鍋子』で主編を務めている。訳書に、閻連科の『愉楽』、『丁庄の夢』、『黒い豚の毛、白い豚の毛』、『年月日』などがある。

3 譫妄的叙述

譫妄は元々医学用語で、意識障害の状態の一つである。外界からの刺激に対する反応は低下しているが、内面における錯覚、妄想があり、興奮、不穏状態を示したり、譫言などを言ったりする⁽¹⁾状態を表す。譫言は熱に浮かされるなどして無意識に口走ることばで、筋道のたたない放言⁽²⁾も意味する。楊(2017)は、譫妄的叙述とは人間のこのような特別な精神状態を中心に執筆する技法であると定義している。それに、楊(2017)は譫言のような会話は譫妄的叙述の一種であり、譫妄者の言語上の一番大きな特徴となっていると認める。

楊(2017)によると、閨連科は、外部環境の特徴を薄めてキャラクターの思考活動に集中し、譫言のような言葉で譫妄者の深層心理を直接的に表し出し、譫妄者が譫妄的な感情を外側の世界に能動的に発信する、或いは外界と対抗するための封鎖的な空間を作る過程を描くことに長じる。このような独特な技法は閨連科が譫妄的なキャラクターを作り上げる主な手段であると楊は考える。

4 会話文における譫妄的叙述とダッシュ記号

羅(2015)によると、ダッシュ記号が果たす機能は記号としての機能(話題の転換や挿入、逆接を提示するなど。本稿では、このような機能を「記号的機能」と呼ぶ)を乗り越えている。ダッシュ記号は文脈に含まれる意味を掲示するだけでなく、言語外の意味も表し、文字で表現しにくい効果を発揮する(語用的機能)。具体的に言えば、ダッシュ記号自体も情報を発信するというもので、強調や婉曲などの効果を持つ。それによって、文脈の記述を強化・補強することができ、キャラクターの言葉の特徴を強調して人物像を構築することに役立つ。

閨氏によって作られた譫妄的な会話では、ダッシュ記号の使用が目立つ。ダッシュ記号、特に多数のダッシュ記号の集まりにより、文字を詳しく読まなくてもざっと目を通せば、読者は譫妄者の強烈な感情を共感することができる。しかも、ダッシュ記号は文字だけで伝わらない情報を発信することができるから、譫妄者の変わった心理状態や強烈な感情を強調し、会話文における譫妄的叙述の譫妄性を強化し、譫妄者の人物像の構築に役立つ。

5 機能的等価理論

「機能的等価」はアメリカ学者のユージン・アルバート・ナイダ⁽³⁾によって提起された理論である。ナイダは1964年に「動的等価」(誤解を避けるため、1986年⁽⁴⁾に名称を「機能的等価」に転換)と「形式的等価」という二つの概念を打ち出した。「機能的等価」とは、翻訳者は原文の形式的な対応を求めるだけでなく、「表現の完全な自然を目ざし、受信者をその人自身の文化環境の内部で、妥当な行動様式に結びつけようとする」⁽⁵⁾。「形式的等価」とは、「翻訳者ができるだけ逐語的に、また意味の通るように、原文の形式と内容を再現しよう企てるものである。」⁽⁶⁾

さらに、「機能的等価」と「形式的等価」に関して、ナイダは次のように述べている。「形

式的等価」は「原文の形式の諸特徴を、そのまま機械的に受容者の言語に再現してしまう翻訳。(中略)したがって受容者は誤解をするか、不当に苦勞をして理解をしなくてはならなくなる。」⁽⁷⁾ それに対して、「機能的等価」は「原文の情報内容が受容言語にうまく移されて、その結果、受容者の反応が原語の受容者の反応と基本的に等しくなるような翻訳。」⁽⁸⁾ したがって、「機能的等価」を実現するために、原文の情報内容を正確に伝えるだけでなく、訳文を読む読者の反応(効果)は原文を読む読者の反応(効果)と基本的に等しくならなければならない。

本研究では、ナイダの「機能的等価」理論に基づき、原文にあるダッシュ記号の記号的機能(話題の転換や逆接を表すなど)と語用的機能(ダッシュ記号の使用によって会話文の譫妄性が強くなる)が適切に訳出されたかどうか、日本の読者が中国の読者と同じように原文の雰囲気を感じ取るかどうかを考察したい。

6 会話文におけるダッシュ記号の翻訳

中国語のダッシュ記号の通常の使い方は次のようにまとめられる⁽⁹⁾。

①注釈又は補足的説明を表す②逆接③話題の転換④添加⑤挿入⑥列举⑦語句を言い止す⑧前文をまとめる⑨後文を引き出す⑩カギカッコで囲むほどでもない語句を地の文と分ける⑪声の延長を示す⑫サブタイトルを表す⑬引用を表す。

ダッシュ記号を含む原文を考察した結果、原作である『受活』に使われているダッシュ記号の使い方は中国語のダッシュ記号の通常の使い方と一致するということが分かった。

それに対して、日本語のダッシュ記号の通常の使い方は次のようにまとめられる⁽¹⁰⁾。

①補助的説明の語句を文中にはさんで、カッコでかこむよりも地の文に近く取り扱いたい場合に用いる②話題の転換③挿入④軽く「すなはち」の意味を表す⑤語句を言い止して余韻をもたせる⑥サブタイトルを表す⑦カギカッコで囲むほどでもない語句を地の文と分ける⑧時間的・空間的な経過を表す⑨時間的・空間的に「乃至」または「より——まで」の意味を表す⑩ニホンナカセン(=)を短いくぎりに用いる⑪引用を表す。

以下では、『愉楽』からダッシュ記号が含まれる譫妄的な会話文の例を挙げながら、ダッシュ記号の翻訳技法と翻訳効果を分析し、訳文の機能が原文と等価するかどうかを明らかにする。

【例1】

原文：双槐县从此就要腾飞起来了——一个绝术团演出二百天能挣一个亿，四百天就是两个亿——当然啦，你不能保证绝术团每天都能演两场(中略)他们一天挣一张，一个月他们就有三千块钱，三千块钱就比我县长多拿两倍了——不过呢，多劳多得嘛——他们每天给我们挣回五十万，每人每月两三千块钱就让他们拿去吧，可账我们得算清楚——一人三千，十人三万，六十七个一个月就是二十万零一千元——这样一算大家就都明白了，其实二百天你是挣不到一个亿。二百天挣不到，

三百天行不行？三百天不行，一年行不行？（『受活』p161）

訳文：双槐県はここから湧き立つんだ。——ひとつの絶技団の二百日の公演で一億、四百日で二億——当然のことだが、絶技団が毎日二回公演するのを保証することはできん。（中略）一日百元稼げば、一か月で三千元、三千元はこの県長であるわしの給料の三倍になる。——しかし苦勞する分はもらわんとな——あいつらが毎日五十万稼いでくれるんだから、一人二、三千元ならくれてやろう。とにかくきちんと計算しておこう。——一人三千元、十人で三万元、六十七人で一月二十万一千元だ。——こうして勘定してみると、諸君にももうおわかりだろう。実際には二百日で一億は無理だ。しかし二百日で無理なら三百日ではどうだ？一年ならいけるか？（『愉楽』p185）

この箇所では、柳県長が県の常務委員を集め、受活村の障害者によって結成される絶技団の公演で一年間一億元が稼げることを推論し、レーニンの遺体を購入する資金が必ず調達できることを常務委員に納得してもらおうとしている。柳県長は自分の計算に物凄く興奮し、自分の推論を一方的に常務委員に押し付けている。他の委員の考えを考慮したり、他の委員と議論したりはしていない。したがって、例1は典型的な譫妄的叙述の例である。多数のダッシュ記号の使用によって、柳県長の興奮と大金を稼げるから生じた熱狂が強調され、独白の譫妄性が一層強くなった。

例1の原文にある六つのダッシュ記号は全て日本語のダッシュ記号で訳されている。ダッシュ記号の使い方から見ると、「当然啦，你不能保证绝术团每天都能演两场」の前に付けられた中国語のダッシュ記号は「話題の転換」を示すものである。日本語のダッシュ記号にも同じ用法があるため、日中両国語に通用する使い方である。訳文ではダッシュ記号がそのまま使われている。しかし、「双槐县从此就要腾飞起来了」の後ろに付けられたダッシュ記号は「後文を引き出す」ものであり、「这样一算大家就都明白了」の前に付けられたダッシュ記号は「前文をまとめる」ものである。この二つの使い方は日本語のダッシュ記号の通常の使い方には属さない。したがって、『愉楽』には通常の日本語のダッシュ記号の使い方と一致しない使い方が存在する。

原文では、六つのダッシュ記号はそれぞれの使い方によって文脈を結び、記号的機能を果たしている。訳文では、一部のダッシュ記号の使い方は日本読者の馴染んでいないものである。このような新たな使い方に対して、読者は前後の文に合わせて分析すれば、ダッシュ記号の記号的機能を理解することができるだろう。しかも、ダッシュ記号の他、前後には文字で表した譫妄者の譫妄的な言葉があるため、記号的機能をわざわざ工夫して分析しなくても、話の内容とロジックを理解することができると思う。

ダッシュ記号の語用的機能の面から見れば、原文では六つのダッシュ記号の集まりによって、柳県長の興奮と不穏状態を分かりやすく表し、読者は柳県長の言葉を詳しく読まなくても目を通せば、彼の変った精神状態が分かる。さらに、ダッシュ記号

の多用で柳県長の自分の発言に対する自信や自分の功績に対する妄想と自惚れ、お金や政治的地位に対する熱狂を強調し、彼の独白の譫妄性を上げ、譫妄者としての人物像の構築に役立つ。訳文では、六つのダッシュ記号は全て保存されたため、原文と同じ程度の譫妄的な効果が表れたと思う。

例1のような、ダッシュ記号が多用され、しかも中国語のダッシュ記号がほとんど日本語のダッシュ記号で訳されるといった長たらしい譫言式の独白は他にもある。(例えば、『受活』の p64-65(『愉楽』 p79-80) と p163-164(『愉楽』 p187-188))

【例2】

原文：这时候，柳老师的媳妇就旋过身子对着旷野骂着唤：

那该死的爹，该死的娘——你们把孩子娃留在我家门前死到了哪？

唤着问，有良心你们就把孩子娃抱回去，我给你们半升高粱行不行？

又骂道，你们真的死掉啦？死掉你们也不得好死哩，死尸也得让恶狗野狼扯去呢。

(『受活』 p19)

訳文：それを見た柳先生は振り返ると荒野に向かって叫んだ。

「このクソツタレのバカ親どもが！子供をうちの前に置き去りにして、殺す気か！」

そして叫んで問いかけた。「良心があるなら、子供を抱いて連れて帰ってくれんか。コーリャン半升でどうじゃ？」

そしてまた罵声を浴びせた。「二人とも、ほんまに死んだんか？死んどったとしても、ええ死に方させたりせんけえの。おまえら二人とも、野良犬と狼に引き裂かせちゃるけえ、覚悟せえよ！」(『愉楽』 p29)

柳県長の養母である柳先生の妻がある冬の日、部屋の外で捨てられている一歳未満の柳県長を見つけたシーンである。真冬の日なのに、自分の赤ちゃんを他人の部屋の外に捨てるのは非常に無責任な行為である。しかも、その時は中国の三年大飢饉の最中で、養母も毎日大変飢餓に苦しんでおり、一人の子供を引き取って育てるのは極めて難しいことである。したがって、その時の養母は幼い柳県長を引き取るつもりはないだけでなく、激怒して理性を失い、一連のひどい言葉で罵っている。

原文ではダッシュ記号で養母の叫び声を伸ばし、養母が激怒して理性を失って口に出した譫妄的な罵りの言葉が表した譫妄性を強めた。それに、ダッシュ記号は「下文を引き出す」という接続の役割も果たしている。

訳者は原文のダッシュ記号を感嘆符で訳している。感嘆符によって激しい怒りは伝わったと思うが、叫び声を伸ばす効果は失われた。さらに、感嘆符には下文を引き出す機能はないので、前後の文の接続性が弱まった。したがって、原文のダッシュ記号の機能(効果)が完全に訳出されたとは言えないと思う。

ちなみに、訳文には原文の意味と合わないところがある。叫んだのは柳先生ではなく、

柳先生の妻である。それに、原文の「死到了哪」は「(バカ親どもが)どこ行きやがったか」という意味だと思うが、訳者は「(子供)を殺す気か」と訳している。

【例3】

原文：离那一片瘫痪瞎盲的目光越来越远后，以为事情已经过去，可突然，就从她身后传来了大声的唤：

茅枝——你別走，入社了我家得用瓦盆烧饭了，我家退社行不行？

茅枝——我家得用砂锅烧饭了，是你把我们弄进了社，你还把我们弄出社去好不好？

喂——我家连瓦盆、砂锅都没有，明儿天就得用石头猪槽烧饭啦。我说茅枝呀——你不把我们弄出社，你家就别想有啥好日子过！（『受活』p130）

訳文：片輪・びっこ・めくら・おしの視線がだんだんと遠くなり、もう何も起こりそうにないと思った瞬間、彼女の背後から大きな叫び声が伝わって来た。

茅枝、待ってくれ。入社してから、うちじゃ瓦で飯炊きじゃ。うちは退社したいんじゃが。

茅枝、うちでは土鍋じゃ。あんたがわしらを入社させたんじゃから、やはりあんたに退社させてもらいたいんじゃが。

なあ、うちには瓦も土鍋もないんじゃ。明日は石できた豚の餌入れで飯の支度じゃ。なあ茅枝、わしらを退社させてくれんと、ろくなことにはならんよ。（『愉快』p151）

中国の大躍進時代に鉄鉱石の供給不足を緩和するため、農村部では各家庭の鉄製の農機具・炊事用具まで供出させた。受活村は元々どの県にも属しない独立の村だった。独立したままであれば、鉄製の農機具・炊事用具を供出しなくて済んだはずだ。しかし、茅枝婆が受活村を県に入らせたせいで、障害者たちはみんな飯炊きの用具まで失ってしまい、生活が非常に厳しい状況に陥った。よって、人々は茅枝婆を甚だしく憎んでおり、叫びながら県から離脱することを強く求めている。

原文ではダッシュ記号を通して人々の絶望的かつ憤激した叫び声を伸ばし、複数のダッシュ記号で人々の感情を強調し、恨みの深さと威嚇の怖さを一層増し、会話の譫妄性を高めた。しかし、訳者は全てのダッシュ記号を読点で訳し、声の延長を示す記号的機能が果たされていないだけでなく、人々は淡々と茅枝婆の名前を呼んでいるような感じがする。したがって、原文がダッシュ記号で描いた感情の激しさが弱まった。

【例4】

原文：就不再问她了，就对着台下的成千上万的人头唤，对这样一个现行反革命和女地主，社员群众，你们说咋办呀？！

台下就举起了林地样胳膊叫着答：

枪毙她——

枪毙她——

那狂乱呼叫的应答就决定了她的命道。(『受活』p291)

訳文：もうそれ以上たずねることはなかった。舞台下の数万の頭に向かって叫んだ。

この現行反革命の女地主を、人民公社の社員諸君、どうしたらいい？

舞台下では一斉に腕を林のように突き上げると叫んで答えた。

銃殺じゃ！

銃殺じゃ！

その狂乱の叫び声が、彼女の命道を決めた。(『愉楽』p331)

作者は「枪毙她」という言葉で人々の残酷を表した。その上、二つのダッシュ記号で人数の多さと人々の興奮を強調し、狂った叫び声を伸ばし、血迷った群衆の様子を描き出し、言葉の譫妄性を強めた。

訳文では、二つの感嘆符で二つのダッシュ記号を訳している。原文のダッシュ記号は叫び声を伸ばすものだと思う。訳文では、感嘆符で猛り狂った人々の精神状態を分かりやすく表現し、声の大きさを強調し、群衆が激昂して叫んでいる場面を描いた。記号としての機能は少し異なるだが、叫び声の長さの代わりに大きさを強調することによって、原文の数万人の狂ったような譫妄的な雰囲気伝えることができたと思われる。

【例5】

原文：白亮里，她倚着墙角呆坐着，听着那哭闹，一下一下用手去自己脸上掴打着，像在掴打着别人的脸，像在掴打一块风干的枯木板，一边打，一边用她老沙的嗓子骂：

“你去死了吧——”

“你去死了吧——”

“你去死了吧——”

“你立马死了吧——”

“你立马死了吧——”(『受活』p330)

訳文：彼女は白々と輝く電灯の中、壁の隅に呆然と座り、その泣き叫ぶ声を聞きながら、一発一発自分の手で自分の顔を殴っていた。他人の顔を張るように、風に晒されて乾いた板を叩くように、殴りながらしゃがれた声で罵っていた。

「くたばれ」

「くたばるんじゃ」

「くたばるんがいい」

「わしゃ、今すぐ死ね」

「今すぐ死ぬんじゃ」(『愉楽』p374)

茅枝婆の鬱憤、絶望と後悔の気持ちをぶちまける言葉である。茅枝婆は以前、どの県にも属しない受活村を双槐県に入らせた。しかしその後、物凄く悲惨な大事件が相次いでいる。茅枝婆は受活村を県から離脱させたかったが、一度も成功していない。現在、惨事がまた目の前に発生している。茅枝婆はそれを止めようとしているが止められない。そのため、彼女は心が強く痛んでおり、自分が死ねばいいと思うほど自分を咎めている。

この例では、作者は「你去死了吧」を三回、「你立马死了吧」を二回繰り返すことで、茅枝婆が自分を強く責めている事実を明らかにした。その上、五つのダッシュ記号を用いて茅枝婆の自分を罵る声を伸ばし、彼女の鬱憤と絶望の気持ちを強化し、言葉の譫妄性をさらに強めた。

訳文では、ダッシュ記号が全て省略されたため、原文の胸が張り裂けそうなほどの悲しさが弱まった。それに、ダッシュ記号以外の部分を考察すると、原文は同じ言葉を何回も重複することで、「これが茅枝婆の無意識に口走る言葉だ」と読者に伝え、茅枝婆の精神状態が混乱している状況を描き出した。しかし、訳者はそれをバラバラにして内容の異なる五つの文にした。そのため、原文では重複によって強化された感情が弱まった。しかも、ダッシュ記号を省略した後、ダッシュ記号の代わりに効果を果たす内容を訳文に入れていない。したがって、原文と同じ程度の悲しさと鬱憤は訳出されていないと考える。

以上の分析から、次のような結論が導かれる。

まず、翻訳技法をまとめよう。閨作の譫妄的な会話文におけるダッシュ記号の日本語への翻訳技法は少なくとも三つあると分かった。①中国語のダッシュ記号を日本語のダッシュ記号を借用して訳す。時には新たなダッシュ記号の使い方を創ることがある。②他の記号（例えば、感嘆符や読点など）で訳す。③ダッシュ記号を省略する。

三つの翻訳技法が果たせる機能（記号的機能と語用的機能）をまとめてみる。①中国語のダッシュ記号を日本語のダッシュ記号を借用して訳す場合、日本語のダッシュ記号の使い方が中国語のダッシュ記号の使い方と対応できれば、記号的機能を果たすことができると思われる。対応できなければ、新たな日本語のダッシュ記号の使い方を創ることによって、中国語のダッシュ記号と同じような記号的機能を果たすことができる。そして、訳文でのダッシュ記号の使用は原文のダッシュ記号の使用と完全に対応するため、同じような語用的機能が果たせると考える。②他の記号で訳す場合、それぞれの記号は異なる記号としての機能を持つため、時には原文のダッシュ記号と同じような記号的機能を果たせないことがある。語用的機能の面から見ると、他の角度から会話の譫妄性を強化できれば、原文と同じような語用的機能を果たすことができる。しかし、強化できなければ、機能的等価が達成できないこともある。③ダッシュ記号を直接省略する場合、他の内容で補強しないのであれば、記号的機能と語用的機能が両方とも果たせない可能性がある。

次に、「機能的等価」の効果を分析しよう。例1と例4の分析によって、ダッシュ記号が果たした会話文の譎妄性を上げる効果が適切に訳出され、原文との等価的な効果が達成できたと認める。しかし、例2、例3と例5の分析によれば、原文のダッシュ記号の記号的機能が訳出されていないところがある。それだけでなく、語用的機能も訳出されていないところがあるため、「機能的等価」が実現したとは言えないだろう(五つの例におけるダッシュ記号の効果と翻訳方法を下記の表1でまとめる)。したがって、原文との「機能的等価」が達成されたところはあるものの、達成されていないところもあるということが分かった。

表1：五つの例におけるダッシュ記号の効果と翻訳方法

	原文でのダッシュ記号の効果	ダッシュ記号の翻訳方法	等価効果
例1	後文を引き出す、前文をまとめる、 話題の転換	ダッシュ記号	あり
例2	激しい罵り	感嘆符	弱い
例3	恨み	読点	弱い
例4	叫び	感嘆符	あり
例5	悲しみと鬱憤	省略	弱い

しかし、日本の読者によるコメント⁽¹⁾をみると、「ナラティブな語りに特有の誇張をもちいて活写する」、「痛みを伴いながらも物語と人の圧倒的なエネルギーとユーモアに気圧され笑い泣かされた」、「狂気じみた本」、「煽って煽って叩き落とす文体の魔術に眩まされてしまった。翻訳の見事さに快哉を叫ぶ」などのコメントが見られる。そこから、作品全体からみると、日本の読者は閻連科の譎妄的叙述の表現力を感じているだろう。したがって、翻訳本には原文のダッシュ記号の効果が十分に訳出されていない箇所は存在しているものの、読者の譎妄的叙述に対する全体的な理解に大きな影響を及ぼしていないようである。

最後に、三つの翻訳方法の選択により、一部の譎妄的な会話文におけるダッシュ記号の効果が十分に訳出されないリスクを推測してみる。

①日本語と同様のダッシュ記号の使い方以外に、新たなダッシュ記号の使い方を創る場合、その使い方に対して日本の読者が馴染んでいないため、多めに使えば文が読みにくくなるというリスクを取らなければならない。②他の記号で翻訳する場合、その記号の記号的機能と語用的機能をよく考察しないと、原文の譎妄性が十分に訳出できないリスクがある。③ダッシュ記号を直接省略する場合、記号的機能だけでなく、言葉の譎妄性を上げる語用的機能も完全に果たせないリスクがある。④以上の三つの翻訳技法以外に、内容を加筆してダッシュ記号と同じような効果を目指すという加訳の技法など、他の翻訳技法もあると思うが、その場合、訳者の翻訳力が問われるというリスクがあるだろう。

したがって、日中のダッシュ記号の機能が完全に対応する場合以外に、譭妄的な会話文におけるダッシュ記号の記号的機能と語用的機能という二種類の機能を同時に訳出するために、訳者はリスクを覚悟して工夫を凝らさなければならないと考える。

7 おわりに

本研究では、閻連科の代表作である『愉楽』（原題：『受活』）の中にある会話文で使われるダッシュ記号を中心に、機能的等価理論を用い、作者がダッシュ記号で高めた譭妄的叙述の効果は訳出されたかどうか、どのように訳出されたのかを解明した。具体的には、原文のダッシュ記号の効果が訳出されたところはあるものの、訳出されていないところもあるという結論を得た。そして、閻作の譭妄的な会話文におけるダッシュ記号の三つの日本語への翻訳技法とそのリスクを明らかにした。

今後、研究範囲を広げ、閻氏の他の小説を取り上げ、譭妄的叙述の翻訳方法を考察したい。さらに、他の視点にも着目し、閻連科小説の翻訳に関する研究を進めたいと考える。

注：

- (1) 『日本国語大辞典 第二版』2001年・小学館
- (2) 『日本国語大辞典 第二版』2001年・小学館
- (3) Eugene Albert Nida(1914-2011). アメリカ合衆国の言語学者
- (4) Jan de Waard. Eugene Albert Nida(1986) 『From One Language to Another : Functional Equivalence in Bible Translation』
- (5) Eugene Albert Nida 著・成瀬武史訳(1972) 『翻訳学序説』・開文社・p.232
- (6) Eugene Albert Nida 著・成瀬武史訳(1972) 『翻訳学序説』・開文社・p.232
- (7) Eugene Albert, Nida Charles R. Taber, Noah S. Brannen 著・沢登春仁・升川潔訳(1973) 『翻訳—理論と実際』・研究社・p.243
- (8) Eugene Albert, Nida Charles R. Taber, Noah S. Brannen 著・沢登春仁・升川潔訳(1973) 『翻訳—理論と実際』・研究社・p.250
- (9) 参考文献：①中国国家标准化管理委员会(2011). 中华人民共和国国家标准 GB/T 15834—2011 标点符号用法・中国标准出版社 ②苏培成(2010). 标点符号实用手册・北京外语教学与研究出版社 ③刘金华(2021). 破折号和引号的主要用法梳理及强化训练・读写月报
- (10) 参考文献：①文部省教科書局調査課国語調査室(1946). くぎり符号の使ひ方〔句読法(案)〕・教育図書株式会社 ②日本エディタースクール(2012). 『日本語表記ルールブック 第2版』・日本エディタースクール出版部 ③島田静雄(2011). 実用文書のまとめ方・科学書刊株式会社
- (11) 日本読者のコメントは「読書メーター」に掲載しているコメントから抽出したものである。
(<https://bookmeter.com/books/8236106>).2021/10/15

参考文献

中国語関連

- [1] 閻連科(2009). 受活. 北京十月文艺出版社
- [2] 中国国家标准化管理委员会(2011). 中华人民共和国国家标准 GB/T 15834—2011 标点符号用法・中国标准出版社
- [3] 罗瑜珍(2015). 符号学视角下《围城》破折号的运用及其翻译技巧・漳州职业技术学院学报

- [4] 杨杨 (2017). 论阎连科小说的谵妄叙事. 福建师范大学
- [5] 苏培成 (2010). 标点符号实用手册. 北京外语教学与研究出版社
- [6] 刘金华 (2021). 破折号和引号的主要用法梳理及强化训练. 读写月报
日本語関連
- [1] 閻連科 (2015). 谷川毅訳. 『愉楽』. 河出書房新社
- [2] 『日本国語大辞典 第2版』 2001. 小学館
- [3] 文部省教科書局調査課国語調査室 (1946). 「くぎり符号の使ひ方〔句読法〕(案)」、教育図書株式会社
- [4] 日本エディタースクール (2012). 『日本語表記ルールブック 第2版』. 日本エディタースクール出版部
- [5] 島田静雄 (2011). 『実用文書のまとめ方』. 科学書刊株式会社
- [6] 羅先倩 (2014). 中国語訳文におけるダッシュの結束性に関する研究. 貴州大学
- [7] 長沼美香子 (2013). 翻訳研究における「等価」言説. 『通訳翻訳研究』13号
- [8] Jan de Waard. Eugene Albert Nida(1986) 『From One Language to Another : Functional Equivalence in Bible Translation』
- [9] Eugene Albert Nida 著. 成瀬武史訳 (1972) 『翻訳学序説』. 開文社
- [10] Eugene Albert. Nida Charles R. Taber, Noah S. Brannen 著. 沢登春仁. 升川潔訳 (1973) 『翻訳—理論と実際』. 研究社

中国の小学校低学年の語文学科教育における絵本教材受容の特徴及びその原因 ——「看图說話」「看图作文」授業法の変遷に注目して——

劉 娟

横浜国立大学、東京学芸大学附属国際中等教育学校

はじめに

本論に入る前に、まず本稿で使われる「国語」と「語文」という言葉について説明しておく。「国語」は、清末から使われ始めた日本由来の単語である。1902年に清政府によって最初の近代教育の学制「欽定学堂章程（壬寅学制）」が公布された。1904年に「欽定学堂章程」を基礎に、日本の教育制度を参照して改訂した「奏定学堂章程（癸卯学制）」が公布・実施されたことによって、近代中国の学校教育制度は正式に成立したとされる。近代学制における日本語でいうところの「国語」という科目名の名称は、当初の「中国文字」（初等小学堂）・「中国文学」（高等小学堂）から「国文」へ、さらに「国文」から「国語」へという変遷をたどった。さらに新中国成立後に「国語」は「語文」に名称変更した。本稿では、新中国成立後の教科としての「国語」を指す場合、「語文学科」という中国語原文を用いる。

2010年代以降、小学校・幼稚園を中心とする教育現場において、絵本を言語・国語教育の教材として盛んに使われるようになった。筆者が別稿⁽¹⁾で論じたように、これは2000年代半ばから外国絵本の翻訳出版が急成長を遂げてきた中国における絵本受容において、最も顕著な特徴である。そのうち、中国の小学校における絵本を用いる教育活動は、低学年の語文学科に集中しており、主に「読解力」「作文力」「口頭での表現力」と言った国語力を高めるために行われる傾向にある。これは中国の語文学科教育における絵本受容の特徴と言えるだろうか。また、なぜこのような特徴が生まれたのであろうか。

本稿では、その問題を明らかにするために、今日までの小学校語文学科教育における絵本の活用に関する研究の状況を、日本の小学校国語科における絵本を「教材」とする教育活動の関連研究と比較することにする。前述のように、2010年代以降、絵本は小学校の語文学科教育に「教材」として一般的に使われるようになった。2017年に中国教育部主催の「国培計劃」（小中学校・幼稚園教員の資質・能力を向上させるため教員に5年に一度の研修機会を確保する国家級育成訓練計画）に合わせ、学科別ではじめて発行された語文学科の教員の育成訓練用の手引きとなる「中小幼兒園教員培訓課程指導標準（義務教育語文学科教学）」（「小中学校及び幼稚園の教員の育成訓練課程用の指導基準（義務教育国語学科教学）」）においては、小学校低学年向けのテキストとして説明文、現代・当代散文、小説、漢文、現代詩、劇本、児童文学作品が取り上げられた。また、児童文学作品の内訳について見てみると、童謡、児童詩、寓話、童話、故事、散文、絵本が含まれている。さらに、最初は小学校の語文学科教育の現場

で副教材等の形で使われるようになった絵本であるが、2019年全国小学校統一の国語教科書（試用版）三年（下）ではじめて教材として採用された⁽²⁾。これにより、絵本は小学校語文学科の「教材」としての地位が正式に認められたと言える。それに対して、日本では小学校の国語教科書で絵本が採用されるようになったのは約50年前の1970年代からである⁽³⁾。このため、小学校の語文教科書に絵本が載録されることが定着している日本と比較し、中国の特徴や重点が置かれるポイントを解明することが重要だと考える。

なお、本稿ではまず、中国における研究のアプローチを日本と比べ、小学校の語文学科教育における絵本の活用に関する研究の特徴を明らかにする。次に、そのような特徴が生まれた理由や、語文学科教育において絵本がなぜ、どのように使われているのかを明らかにする。このような考察を通じて中国の小学校語文学科教育における絵本活用の経緯と特徴を理解することは、日中両国の児童教育観の理解を深める一助となる。

1 中国の小学校語文学科における絵本を「教材」として活用することに関する研究の現状について ― 日本と比較して

1.1 絵本が小学校語文学科の「教材」として注目される傾向について ― 中国知識資料総庫 CNKI⁽⁴⁾の関連文献数の推移に注目して

2010年代以降、中国の小学校教育活動において絵本を「教材」として使うことがブームとなり、教育現場に定着し普及していった。中国の小学校教育における絵本を「教材」とする教育活動及びその研究がどのように発展していったのかについて、それをテーマとする文献数の推移を通して普及や定着の状況を考察する。

本稿では中国知識資料総庫 CNKIにおいて、「小学、絵本、教学⁽⁵⁾」を「主題」として検索した結果、「小学校で絵本を教材とする」内容の関連文献は約4800編（表1）執筆されたという結果が出た⁽⁶⁾。

表1 CNKIにおける「小学校で絵本を教材とする」内容の関連文献数の内訳（単位：編）

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
0	2	6	15	28	56	87	129	128	383	546	883	1279	1257

そのうち、中国の小学校における絵本を用いる教育活動は、語文、数学、道徳、生命教育、美術、心理健康教育の科目及び幼小連携の教育活動に見られる。続いて、CNKIにおいて、「小学、語文、絵本、教学」を「主題」として検索した結果、「小学校語文学科で絵本を教材とする」内容の関連文献は約2900編（表2）執筆されたという結果が出た⁽⁷⁾。さらに、うち約1780編は低学年（第1、2学年）向けのものであることもわかった。

表2 CNKIにおける「小学校語文学科で絵本を教材とする」内容の関連文献数の内訳
(単位: 編)

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
0	0	1	6	16	20	37	47	105	217	293	567	792	841

このように、中国の小学校における絵本を用いる教育活動は、低学年の語文学科に集中している傾向が明らかである。収録されたデータの中で、約920編が中国各地域にある師範大学の小学校教員を育成する「初等教育専攻」、小学校教育理論を研究する「教育理論専攻」及び「中国（児童）文学専攻」の修士・博士論文で、その他は小学校の教員及び小学校教育研究者によるものである。また、そのうち、最も早く掲載された修士論文は2009年『小学体験式作文教学研究』⁽⁸⁾であるが、この論文は、小学校における作文授業法研究に絵本を用いる授業法を取り上げたもので、絵本の授業法をテーマとするものではない。最も早く掲載された学術誌論文は2010年5月の「絵本閱讀教学価値走偏的審視及矯正策略（絵本閱讀の教育価値の偏りに対する考察及び矯正策略）」⁽⁹⁾、と2010年7月の「穿越絵本、轻松写話——小学低年級作文啓蒙教学（絵本を通して、気楽に作文する——小学校低学年における作文啓蒙教学）」⁽¹⁰⁾である。これらの論文によって、小学校低学年における絵本の読書指導研究及び授業法研究がはじめて現れたのである。

このように、中国の小学校語文学科における絵本を「教材」として活用することに関する研究は2010年代に入ってから徐々に発展し、次第に定着し普及していったことが明らかである。

1.2 絵本を小学校語文学科の「教材」とする教育活動の目的の傾向について——日本と比較して

さらに、CNKIで検索した関連文献の内容に基づくと、小学校における絵本を小学校語文学科の「教材」とする教育活動の目的は、語文学科に集中しており、主に「読解力」「作文力」「口頭での表現力」と言った国語力を高めるために行われる傾向にある。これは中国の小学校語文学科教育における絵本受容の特徴と言えるだろうか。

そのことを考察するために、日本の小学校国語科における絵本を「教材」とする教育活動の関連研究と比較してみる。本稿では日本の学術情報データベースCiNiiを利用し、「小学校、絵本、国語」を「フリーワード検索」⁽¹¹⁾として検索した結果、「小学校国語科で絵本を教材とする」内容の関連文献は約110編（表3）執筆されているという結果が出た⁽¹²⁾。

表3 CiNiiにおける「小学校国語科で絵本を教材とする」内容の関連文献数の内訳
(単位: 編)

1994	1997	1998	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
1	1	1	2	2	1	3	1	6	6	5	2	4
2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	
11	9	7	6	6	2	4	8	3	6	11	1	

なお、その国語科における絵本について述べた文献や研究には、様々なアプローチがあるが、前述の中国の研究状況と比較するために、絵本を「教材」とする教育活動の目的という角度から、以下の6カテゴリーに分類した（表4、網掛けは筆者による）。

表4 日本の小学校国語科における絵本を「教材」とする教育活動の目的の分類

1) 国語力の育成 ①語彙力：品詞、分かち書きと文節表示、オノマトペ ②読解力：論理的・構造的に理解する ③作文力：文字なし絵本の作話課題 ④言語力：他者の言葉とのかかわり合いを通して言葉の世界をひらく ⑤読書力：群読、評論指導、主体的に読む能力を育む、どのように子ども対して読書を奨励するか ⑥「深い学び」（『【国語編】小学校学習指導要領』に出ている）を促す
2) 文学教育 ①絵本作りで文学的創作の指導 ②「文学的要素」を教える ③小学校低学年に読む楽しさを体感してもらう国語教育としての文学教育
3) 他の資質・能力の育成 ①情報処理能力の育成 ②ヴィジュアル・リテラシーと審美的理解 ③絵とことばを読む ④生きる力を育む ⑤理解するための力：登場人物について検討する
4) 「国語科」と他の科目の連携 ①「特別教科道徳」との連携：他者との相互理解について考える「教材」としての絵本 ②「図画工作科（鑑賞）」との関連を図る
5) 幼小連携 ①保幼小の円滑な接続 ②異年齢交流学習：国語科学習における保幼小連携の試み ③小学校国語科教育との連携
6) 特別支援学級における活用実践：場面の様子を読み取り、登場人物の気持ちを想像する

表 3、4 に示したように、小学校国語科における絵本を「教材」とする関連研究文献数については、中国が日本をはるかに上回ることがわかる。また、中国における研究のアプローチは日本と比べると、「文学教育」等より、低学年の「国語力の育成」に重きを置いていることは明らかである。さらに、「国語力の育成」のなかでも、「読解力」、「作文力」、「口頭での表現力」、「想像力」の育成を目的とするものが主流である。これらが中国の小学校語文学科における絵本を「教材」とする関連研究の重点であると言えるであろう。

2 小学校低学年の語文学科教育における絵本授業法の特徴 —— 「看图說話」「看图作文」授業法

前節では、日本と比較して、中国の小学校低学年の語文学科教育における絵本を「教材」としての活用に関する研究現状の特徴は、絵本を用いて、「国語力の育成」という目的に集中していることだと論じた。本節では、このような絵本を用いる教育活動を展開する中国の小学校低学年の語文学科教育において、絵本がどのように「国語力の育成」に使われているのかについて考察する。

2.1 小学校語文学科教育における絵本の「教材」としての発展 —— 師範教育における教材開発を中心に

前述のように、2010 年代以降、絵本が小学校語文学科の「教材」として非常に注目されている。このような状況下、中国では教員育成と授業法・教育理論研究を担う各地の師範大学において、絵本の授業法を開発する研究所が相次いで設立された（2011 年に南京師範大学教育科学学院児童図画書研究中心、2012 年に首都師範大学初等教育学院児童文学教育研究中心、2015 年に北京師範大学文学院中国図画書創作研究中心等）。

なかでも特に児童文学の理論・指導法研究を最も早くから展開している歴史のある北京師範大学においては、2010 年代初め頃という早い段階から絵本を児童文学教育に取り組みうとしてきた。北京師範大学文学院中国図画書創作研究中心の主任である陳暉は、中国国内で絵本の授業法について早い段階から取り組んでいる児童文学研究者の一人である。2010 年に出版された『図画書の講読芸術』（二十一世紀出版社）は中国の各師範大学における絵本授業法について初めて系統的に研究した著作と言える。同書に続いて、2012 年に陳暉が主編した絵本を「教材」とする授業実践例『二十一世紀絵本課堂（二十一世紀絵本授業）』シリーズ（6 冊）（二十一世紀出版社）が出版された。師範教育における絵本授業法の系統的な研究書は、陳暉の著書を嚆矢として、その後、類似した師範大学・専門学校の教員による絵本授業法についての研究書が少なくとも 75 冊⁽¹³⁾ 刊行され、絵本授業法の開発が盛んになった。各師範大学及び師範専門学校において、絵本を用いた教育活動指導も広く展開されるようになった。なか

には重点教科に位置づけるところ⁽¹⁴⁾もある。このような絵本授業法専門の研究書は、小学校の語文学科教育に連動する師範教育における教員育成にも影響を与えるようになったと考えられる。「教材」としての絵本に対して、日に日に関心が高まっていることは、上述の「小学校で絵本を教材とする」内容の関連文献数の増加とも一致している。

本稿では、師範教育における絵本授業法開発の嚆矢としての、上述の『二十一世紀絵本課堂』シリーズの低学年（第1、2学年）向けの2冊を通して、小学校低学年の語文学科教育において、絵本がどのように「国語力の育成」に使われているのかを明らかにする。

2.2 『二十一世紀絵本課堂』シリーズにみられる絵本授業法の特徴

2012年に出版された『二十一世紀絵本課堂』シリーズ（6冊）は、小学校1-6年まで学年ごとに1冊ずつ作られ計6冊となっている。シリーズの開発には、主な共同編集者として北京市内の有名な小学校7校の語文学科教員17人が携わった。これらの語文学科教員によって各学校で1年間文学（絵本）閲読授業の実践が行われた。その結果、約200冊の絵本から、1学年に15前後（表5）の絵本を使った実際の授業実践例が掲載されている。

表5 『二十一世紀絵本課堂』シリーズの学年ごとの内容構成

第1学年	15冊、うち翻訳絵本（外国絵本の中国語訳本、以下翻訳絵本と称す）14冊（日本1冊『くもくん』）
第2学年	16冊、うち翻訳絵本15冊（日本2冊『ありとすいか』『てぶくろをかいに』）
第3学年	15冊、全て翻訳絵本（日本3冊『はるにあえたよ』『おおきなテーブル』『おまえうまそうだな』）
第4学年	15冊、うち翻訳絵本14冊（日本4冊『なぞなぞアルファベット』『ぼくはカメレオン』『まほうのマフラー』『わにのバンポ』）
第5学年	14冊、うち翻訳絵本12冊（日本4冊『きつねの窓』『小さな青い馬』『おかあさん、げんきですか。』『せかいいちうつくしいぼくの村』）
第6学年	13冊、全て翻訳絵本（日本3冊『ねこたププピピ海のなか』『えほん北緯36度線』『ルリユールおじさん』）

また、授業実践例ごとに「出版情報」、「内容提要」、「作品鑑賞分析」、「作者プロフィール」、「授業アドバイス」、「閲読活動」、「学生の反応と活動（提出した課題）」、「教員手記」、「広げる読書」等のコラムからなる。このうち、「閲読活動」は「閲読理解」と「総合実践」の二部からなる。「閲読理解」は絵本の内容がどれだけ理解されたかを調べる質問が作成され、理解を定着させることが目的である。「総合実践」は絵本を用いて、発展的な読みへとつなげていくために構成されたと考えられる。本稿では、紙数に限りがあるため、低学年の第1、2学年の2冊に収録された日本の翻訳絵本に関す

る「総合実践」を通して考察する。ここで日本の翻訳絵本を考察対象とした理由は、①『二十一世紀絵本課堂』シリーズに選ばれた絵本はほとんどが翻訳絵本であり、国別では日本はアメリカ（26冊）に続き、17冊の翻訳絵本が選ばれ（日本の次はドイツ12冊）、さらに筆者の集計結果⁽¹⁵⁾によれば、日本の翻訳絵本が最初に確認できた2003から2018年までの間に、日本の絵本は1766点翻訳出版されている。このことから、中国の絵本市場に大きな影響を及ぼしている。②後述のように、低学年の第1、2学年の2冊の授業案は基本的に同じようなパターンに沿って作成されていること。以上の2点である。なお、第1、2学年に収録された日本の翻訳絵本は3冊である。具体的な内容を表6にまとめる（下線は筆者による）。

表6 『二十一世紀絵本課堂』第1、2学年に収録された日本の翻訳絵本

	第1学年	第2学年	
出版情報	『くもくん』 いとうひろし ポプラ社 1998 中国語訳名『雲娃娃』 蒲蒲蘭訳 二十一世紀出版社 2010	『ありとすいか』 たむらしげる リブポート 1984 ポプラ社 2002 中国語訳名『螞蟻与西瓜』 蒲蒲蘭訳 二十一世紀出版社 2005	『てぶくろをかいに』 絵／若山憲 文／新美南吉 ポプラ社 1970 中国語訳名『小狐狸買手套』 崔維燕訳 二十一世紀出版社 2009
あらすじ	いつも空を旅している、くもくん。いろんなかたちになってみるけれど、本当の自分のかたちは・・・？	ある夏の午後、すいかを見つけたありたちは、巣に運ぼうとしてみんなで力を合わせて押しますが、びくともしない。仲間を呼んで、みんなで押してもびくともしない。そこでありさんたちは、シャベルを使って果肉の部分運び出すことに。最後、皮だけになったスイカをありさんたちが滑り台にした。	こぎつねに手袋を買いたい母さん。こぎつねは、人間が怖くて町へ行けない。そこで、こぎつねの手を人間の手に変えて、人間の方の手を出して「手袋をください」と言うように、と教えたが、こぎつねは間違ってきつねの手を差し出してしまった。帽子屋さんのおじさんは、きつねが手袋を買いに来たと気づきながらも、何事もなかったかのように手袋を売ってくれた。
総合実践	◎絵を読む。提示された絵によると、くもくんは何のまねをしたのか？ ◎連想と想像。もしあなたがくもくんなら、空で旅をする時、どんな景色が見られるだろうか、どんな形になりたいのか、どんなことをして人を驚かしたいのか、について描いたり、書いたりしよう。 ◎口頭と書面の表現。雲の形がいつも変っている。比喩の言い方で言ってみよう。 ◎朗読と暗唱（雲に関する童謡と詩歌）。	◎ありさんはすいかの皮を滑り台にした。すいかの皮を他にどんなものにできるのかについて考えてみよう。 ◎ありとすいかのお話はおもしろくて絵もきれいなうえ、小さいありさんは「団結は力である」ことも見せてくれた。この絵本を読んで、どんな感想と心得があるのか？書いてからみんなで話し合おう。 ◎ありに関する謎解きをした、童謡を歌ったりする。	◎絵本にある景色に関する描写の文をメモしておく。 ◎【看图說話】絵本にきれいな絵がたくさんある。お気に入りの一枚或いは数枚について話してみよう。絵に関する内容以外、絵に対する理解と考えも述べよう。 ◎こぎつねがはじめて遠くへ出かけたように、私たちにも新鮮で緊張しながら面白いと思うはじめての経験がいろいろあるはず。自分の経験に基づき、数文で簡単に話してみよう。 ◎きつねが主人公である文学作品と絵本は他にもある。読んだことのある作品について話し、薦め合おう。また、読後感について話し合おう。

前述のように、中国の小学校低学年の語文学科教育において、絵本を用いて育成しようとする「国語力」は主に「読解力」、「作文力」、「口頭での表現力」、「想像力」の4項目に分けられている。「読解力」の育成は文字、語彙を通して行われることであるが、他の3項目の「作文力」、「口頭での表現力」、「想像力」の育成は、表6の授業実践例に示されたように行われていることがわかる。具体的に以下の三つのパターンに分類できる。

1) 絵本の絵から連想したり、絵本の内容から発展し、文章を書くことは「作文力」の育成に対応している。例えば、自分がくもくんなら、見られる景色、なりたい形、人を驚かすためにやりたいことについて、絵本の絵から連想し、さらにその想像を描いたり、書いたりすること（『くもくん』）、読後感を書くこと（『ありとすいか』）、絵本自体だけではなく、きつねが主人公である他の文学作品と絵本の読後感を書くこと（『てぶくろをかいに』）が求められている。

2) 絵本の絵に基づく質問を答えることと、感想や読後感を語るとは「口頭での表現力」の育成に対応している。例えば、提示された絵をもとに、くもくんは何のまねをしたのかについて答え、雲の形を比喩的に表現すること（『くもくん』）、読後感を書いてから話し合うこと（『ありとすいか』）、お気に入りの絵について内容や自分の考えを述べ、絵本の内容に関連する自分の経験を話すこと（『てぶくろをかいに』）が求められている。

3) 絵本の絵・内容に基づきながら、さらに連想・想像し、お話・文章を作成することは「想像力」の育成にも対応している。例えば、他の雲の形（『くもくん』）、滑り台以外のすいかの皮でできるもの（『ありとすいか』）に関する想像が求められている。

また、『二十一世紀絵本課堂』第1、2学年の2冊に収録された絵本授業指導案の「総合実践」の部分は基本的にこのようなパターンに沿って作成されていることから、上記のような授業法が絵本を用いる小学校低学年の語文学科教育活動のモデルとなっていることがわかる。

このような授業づくり及び授業法は一見絵本という新たな教材が用いられ、新たな授業法が開発されたように見えるが、実際に中国における近代的語文学科教育が確立されて以来、小学校語文学科の課程標準にずっと取り入れられている、ある「伝統」に基づき、再構成したものである。

この「伝統」とは、「看图說話」と「看图作文」のことである。「看图說話」とは、絵を見て、お話を作る方法で、「看图作文」とは、文字通り絵を見て作文を書く方法で、中国の小学校低学年の語文学科授業で現在でもよく行われている授業法である。続いて、中国のその伝統と特徴をより理解するため、小学校語文学科の課程標準における「看图說話」「看图作文」授業法のあり方の変遷について考察する。

3 小学校語文学科の課程標準における「看图說話」「看图作文」授業法のあり方の変遷

日本と比較する場合、「看图說話」「看图作文」授業法を用いた授業モデルは、中国における絵本を「教材」とする小学校低学年語文学科の授業づくりの特徴とも言える。これが中国の特徴と言えるのは、日本では近年まで、国語科教育においてこのような授業指導法が重要視されていなかったからである。2000年代以降、元福岡女学院大学教授の鹿内信善が中心となって、「全国看图アプローチ研究会」を立ち上げ、元々は中国の語文学科教育で盛んに行われていた授業法に改良を加え、日本の教育現場に導入できるようにした。「看图アプローチ」は「みること」を重視した授業づくりの方法だと定義されている。「読むこと・書くこと・話すこと・聞くこと」のほかに「見ること」も大切だとされ、それに基づく教材づくりや授業づくりに取り組んでいる。近年、幼稚園教員養成、小学部低学年での作文実践、法学教育、聴覚特別支援学校の言語環境整備等様々な科目・分野の教育に取り入れられている⁽¹⁶⁾。

では、「看图說話」「看图作文」は課程標準においてどのように定められているのか、どのように変遷してきたのかについて、小学校語文学科の課程標準を通して考察する。日本では小学校の教育内容や教科書作成は、「小学校学習指導要領」に基づいているが、中国では教育部から発布された「課程綱要」「教学大綱」「課程標準」（日本の「学習指導要領」がそれに相当する）に基づいている。

1902年に清政府が公布した「欽定学堂章程（壬寅学制）」によって、中国の近代教育の学制がはじめて確立した。1922年中華民国政府はアメリカを模倣した六・三・三制の学制改革案「壬戌学制」（正式名は「学校系統改革案」）を公布した。これによってその後の教育の根幹が作られた。近代中国において、最も安定していた学制であった。この新学制に合わせ、1923年6月、「新学制課程標準綱要小学国語課程綱要」⁽¹⁷⁾が全国教育聯合会新学制課程標準起草委員会によって発表された。内容は「言語」（会話、発表）、「読文」（文章を鑑賞すること）、「作文」（文章を書くこと）、「文字」（字を繰り返し練習すること）の4項目からなる。同綱要では、「看图說話」「看图作文」について触れていないが、「高級小学校（10-12歳）の学生が辞書を利用したうえで、『児童世界』及び『小朋友』に相当するものを自力で読めること」が定められている。ここで取り上げられた『児童世界』は、1922年創刊された児童文学週刊誌（商務印書館発行）で、そこに掲載された「滑稽画」（後「図画故事」に改名）は、中国のオリジナル絵本の始まりとされている⁽¹⁸⁾。

続いて、1929年に公布された「小学課程暫行標準小学国語」⁽¹⁹⁾では、内容は「說話」（日常的——聞いて話す練習、臨時的——語り・演説・弁論大会）、「読書」、「作文」、「写字」（字を書くこと）の4項目からなり、第1、2学年に対する段階的な目標は、「說話」では童話の「看图聽講」（童話の絵を見て、お話を聞くこと）、「読書」では物語の絵に基づく語りと鑑賞、「作文」では「図画故事」に関する口述或いは筆述の説明が定められている。これによって、絵を見て、お話を語り、作文をする授業法が確立され

た。さらに、中国のオリジナル絵本「図画故事」も「作文」に導入されるようになったことがわかる。その後、新中国成立までに、国語科の課程標準は1936、1941、1948年の3回改定されたが、絵を見る授業法は次第に「作文」に集中し、第1学年は「絵、実物に基づく口述の説明」で、第2学年は「絵、実物に基づく口述或いは筆述の説明」が定着していった⁽²⁰⁾。このように、新中国成立までは、小学校低学年の国語科授業では、絵を見て、さらにそれに基づいてお話を作り、徐々に文章として書くことが作文授業法の一環として定着していった。

新中国成立後、こうした授業法はさらに具体的に定められるようになった。1955年に公布された「小学語文教学大綱草案（初稿）」⁽²¹⁾において、「作文」について、第1学年は「見たことのある絵と、観察したことのある実物について述べる。内容は簡単で単純で、数文ではっきり説明できるようにする」、「一セット4、5枚の連環画（連続した絵で物語る形を取り、20世紀に誕生した中国のマングだとも言われている）を見て、一枚の絵について一つ完全な文で内容を述べ、最後にすべての文をつなげて述べる」、第2学年は「見たことのある絵と、観察したことのある実物について述べる」、「連環画を見て、それぞれの絵の内容を述べ、最後につなげて述べる」、「絵（一枚或いは一セット）に基づき、教員の作った要点をもとに、簡単な話を書く」、第3学年は「第2学年の口述と筆述の練習を継続させ、内容はより豊富で、連続性に対する要求も高める」、「絵（一枚或いは一セット）に基づき、教員がリードして作った要点をもとに、簡単な話を書く」と、学年ごとの具体的な要求が定められているうえ、教員の主導性も強調されている。

その後、1978年に公表された「全日制十年制学校小学語文教学大綱（試行草案）」⁽²²⁾において、内容は「識字・写字」、「閲読」、「作文」の3項目に変わり、「作文指導は学生の言葉遣い、文章の構成の能力を育成する一方、物事を観察し分析する能力も育成しなければならない。この二つの能力は第1学年から身につけさせることを念頭に置く必要がある。『看图説話』『看图写話（作文）』こそ、作文の最も初歩的な訓練である」として、「看图説話」「看图写話」の際の観察力の育成も強調されるようになった。後に1980、1986、1988、1992年の4回改定され、「看图」は「作文」だけではなく、「聴話・説話」にも取り入れられ、「絵及び簡単な物事を綿密に観察する方法を勉強する」ことも定められている⁽²³⁾。

そして、1990年代末から「科学技術と教育による国家振興戦略を実行に移し、教育の改革と発展を全面的に推進し、全民族の資質と創造能力を高める」⁽²⁴⁾ものとする教育改革政策の「素質教育」が推し進められていった。その政策の実施に当たり、2000年には、現代化の基礎教育課程の枠組み及び基準の素案の作成、教育の内容・方法の改革、さらに新しい成績評価制度の導入、教員研修の実施、新課程の実験的な開始が提起された。また、10年前後の実験期間を経て、21世紀基礎教育課程の教科書体系を全国に普及させる予定とした。このような状況下、2001年から大規模な教育課程改革を行った。従来のように受験のための知識と技能を重視するのではなく、学習の過程、

方法、感情及び価値観に重点を置くようになったのである。また、それまでの重点は教員主導型の教育方法をいかに改善し、水準の向上を図るかということにあったが、教育課程改革後は児童主体の学習の過程を重視することになり、創造精神、実践能力等の様々な資質を全面的に伸ばそうという方向性が示された。

2001年に公布された「全日制義務教育語文課程標準（実験稿）」⁽²⁵⁾では、2000年に公布された「九年義務教育全日制小学 語文教学大綱（試用修訂版）」⁽²⁶⁾の「識字・写字」、「閲読」、「写作」（低学年は「写話」、中・高学年は「習作」）、「口語交際」（会話コミュニケーション）の4項目以外に、「総合性学習」（語文課程と他の課程の連携、生活との連携、聞く、話す、読む、書くなどの国語力の全体的な推進と協調的發展を推し進める）という項目が追加された。低学年（第1、2学年）の「写話」では、学生が「写話」に興味を持ち、話したいこと、想像したことを書くことが定められている。ここでは、「写話」の素材として、絵が取り上げられなくなったが、「作文指導において、観察力、思考力、表現力の育成を重視し、学生が想像したものを書くことを奨励し、学生の想像と空想の展開を広げる」ことで、作文授業の際の、学生の想像力の育成が重要視されるようになった。さらに、低学年の「閲読」において、「読み物の中の絵をたよりに読書する」ことと、「総合性学習」において、「語文学科教育とあわせ、自然を観察し、口頭または絵や文などの方法で自分が観察したことを表現する」こと、「学校、コミュニティの活動に積極的に参加し、活動にあわせ、口頭または絵や文などで見聞きしたことや考え方を表現する」ことも新たに定められている。

以上のように、課程標準における「看图說話」「看图作文」のあり方の変遷について以下の2点がわかった。1) 絵を見て、お話・作文をする「看图說話」「看图作文」授業法は、近代教育の学制が確立し、初の課程標準が発表されて以来、基本的に低学年の第1、2学年に対する関連内容にしか言及されていないことである。2) 1990年代末から実施された「素質教育」に沿う形で、語文学科課程における重要な内容の一つの「作文」は、これまでの文章を書く力を身につけさせるという要求より、さらに低学年から学生の主導性を重んじ、学生の想像力、創造性を引き出すことが求められるようになった。また、語文学科課程におけるもう一つの重要な内容である「閲読」でも、低学年の読書における読み物の中の絵は、内容の理解に役立つことが強調されるようになった。「閲読」においては、1930年代以降絵の機能はほとんど取り上げられなくなったが、再び重要視されるようになった。さらに、2001年の「全日制義務教育語文課程標準（実験稿）」公布以前は、絵は主に「作文」において、アウトプットさせるための素材として使われていたが、それ以降絵や文の形で表現するという、アウトプットの手段にもなっていることがわかる。これらの変化が起きた理由は、絵と文が融合した読書は、小学校低学年にふさわしい視覚体験でもあることが考えられる。

また、「全日制義務教育語文課程標準（実験稿）」では、「語文学科の教員は課程資料の開発と利用を重要視し、各種の活動を創造的に展開し、学生の国語を学習・使用する意識を強化し、多方面から学生の国語力を高める」と定められ、それまでの教材重

視の方針から教員の副教材を選択する自由度が高まった。

このような「素質教育」への変革という背景のもとで、絵本は変わりつつある語文学科の課程標準の要求を満たす材料として、副教材として語文学科教育に取り入れられるようになった。実際に『二十一世紀絵本課堂』シリーズの編集目的について「基礎教育改革が行われ、児童の素質教育政策が国家によって推し進められているなか、児童文学（絵本）の優れた教育資源としての性質、地位及び役割がさらに認識されるようになった。児童文学（絵本）は特に児童の心身発達に必要なこと及び趣味に対して、文学、芸術、科学、審美等多方面にわたる豊かな要素を内包しており、児童の精神成長の促進、感情及び価値観の養成、多元的知能の強化等にも非常に重要な意義及び役割を有している。（中略）この本の出版によって、中国児童文学は出版資源が教育資源へと転換する時期において、新たなモデルが作られたと言える」⁽²⁷⁾と記されている。絵本は「素質教育」にふさわしい素材であることと、絵本は語文学科教育における新たな授業モデルを構築することが見てとれる。

おわりに

以上、中国の小学校語文学科の課程標準における「看图說話」「看图作文」授業法のあり方の変遷をたどりながら、以下のような手順で中国の小学校低学年の語文学科教育における絵本教材受容の特徴及びその原因を明らかにした。

まず、中国における研究のアプローチを日本と比べながら、小学校の語文学科教育における絵本の活用に関する研究の特徴は、「国語力の育成」に重きを置いていることと、「国語力の育成」のなかでも、「読解力」、「作文力」、「口頭での表現力」、「想像力」の育成を目的とするものが主流であることを明らかにした。そして、師範教育における絵本の教材開発を中心に、絵本の授業実践例を分析し、絵本授業法の特徴は中国の語文学科教育における伝統的な授業法である「看图說話」「看图作文」に基づいて授業が行われていることを浮き彫りにした。語文学科教育において、絵本が主に「作文力」、「口頭での表現力」、「想像力」の育成に使われているという特徴が生まれた理由は、小学校低学年の語文学科教育にもともと取り入れられている「看图說話」「看图作文」授業法との親和性にあることを指摘した。最後に、語文学科の課程標準における「看图說話」「看图作文」授業法のあり方の変遷を通して、語文学科教育において絵本が教材として取り入れられるようになった理由は、学生の主体の学習の過程や創造精神を重要視するようになった「素質教育」への変革に沿って、絵本は「看图說話」「看图作文」授業法を通じて、学生の想像力、創造性を引き出せること、読書における理解の助けのほか、絵は文と同じくアウトプットの手段にもなるなど、新たな要求にも対応できている好材料であるためだと明らかにした。

このように、中国の児童教育において、日本と異なるのは、絵本に求められる教育的価値が明確であるという点である。伝統の授業法のもとで、育成すべき資質・能力という目標の達成が重要視される。また、本稿では、紙数に限りがあるため、日本の

翻訳絵本は、同じ作品が日本と中国で異なる捉え方をしている点について論じることができなかった。この問題については、別稿で改めて論じることとする。

注：

- (1) 劉娟「中国における翻訳絵本受容の新たな傾向について－小学校教育における「想像力の養成」と「まあちゃんのながいかみ」の国語教材化の関連から－」『常盤台人間文化論叢』7巻1号（2021.3）、pp29-56；「中国の幼稚園言語教育における絵本の受容——幼児教育関連政策の変容に注目して」『日中翻訳文化教育研究』6号（2021.3）、pp101-116。
- (2) 中国の国語教科書に掲載された初めての絵本作品が日本の高樓方子著の『まあちゃんのながいかみ』である。中国では季穎訳によって2010年に南海出版社から『小真的長頭髮』として出版された。2018年12月発行の試用版教科書『「国語」三年（下）』の第16課に載録された『小真的長頭髮』は同作品を基本としている。
- (3) 富永星「小学校国語科目書における児童文学の研究－絵本の教材化を中心に－」<https://klis.tsukuba.ac.jp/archives/2019/201611527.pdf> 2021年9月22日アクセス。
- (4) 中国の学術情報を調べるには、中国知識資料総庫CNKIが最も権威があるとされている。
- (5) 「教学」は中国語原文。日本語の意味は「（知識や技能を）教える、教授する」こと。
- (6) 2021年11月10日現在の検索結果である。ヒットしたが、関連性がないと筆者が判断した文献は除く。
- (7) 2021年11月10日現在の検索結果である。
- (8) 明晶『小学体験式作文教学研究』（東北師範大学課程与教学論専攻修士論文、2009）。
- (9) 張曉玲、李林山「絵本閱讀教学価値走偏的審視及矯正策略」『小学教学（語文）』2010年第5期（2010.5）、pp4-6。
- (10) 蔣麗鈺「穿越絵本、輕松写話——小学低年級作文啓蒙教学」『小学教学（語文）』2010年第S1期（2010.7）、pp252-253。
- (11) 「フリーワード検索」「全文検索」「タイトル名検索」と三つの検索条件しかないため、そのうち筆者が検索結果の関連性から判断し、「フリーワード検索」を検索条件にした。
- (12) 2021年11月20日現在の検索結果である。ヒットしたが、関連性がないと筆者が判断した文献は除いた。CiNiiでは文献の収録期間が様々であるため、本稿では文献数の多い1990年代以降の検索結果を反映する。また、ほかに小学校国語科における絵本活用事例は戦争をテーマにした戦争絵本の授業実践（吉田浩一「読書活動で戦争児童文学の読みを深める－『ちいちゃんのかげおくり』」『実践国語研究6～7』267、pp41-44）があるが、キーワードに絵本が入っていないため、除外されたと考えられる。本稿では具体的な研究内容についてではなく、研究の主な方向性を考察するため、検索キーワードに「児童文学」を追加しないこととした。
- (13) 筆者が中国国家図書館、中国知網（CNKI）、全国図書館参考諮詢聯盟の三つのサイトで、「絵本、教学」及び「図画書、教学」というキーワードで検索し、選別した結果、少なくとも75冊が確認できた。2021年11月13日現在の検索結果である。
- (14) 広西幼兒師範高等專科學校では、「幼兒絵本賞析与教学活動」を当校の特徴のある教科として宣伝している。<http://ptce.gx12333.net/Information/Details?id=119514860986830848>（2019年1月23日現在）、2021年10月17日アクセス。
- (15) 筆者が中国国家図書館、書籍のオンライン販売サイトの検索機能を使い、出版年別でまとめた統計による。
- (16) 鹿内信善『「看ること」から始める授業づくり 看図アプローチとは何か』『看護教育』56巻8号（2015.8）、pp774-779；「全国看図アプローチ研究会」オフィシャルサイト<https://kazu-approach.com/> 2021年11月12日アクセス。
- (17) 課程教材研究所編『20世紀中国中小学課程標準・教学大綱編 語文卷』（人民教育出版社、2001）、pp13-15。

- (18) 方衛平、王昆建『児童文学教程』（高等教育出版社、2004）、p269; 韓進「以图画為本位的文学」『出版科学』2016年第5期（2016.5）、pp5-12; 馬璐瑶「中国早期児童図画書の演進歷程」『昆明学院学報』（2019.2）、pp11-17。
- (19) 課程教材研究所編『20世紀中国中小学課程標準・教学大綱編 語文卷』、pp16-21。
- (20) 課程教材研究所編『20世紀中国中小学課程標準・教学大綱編 語文卷』、pp30-61。
- (21) 課程教材研究所編『20世紀中国中小学課程標準・教学大綱編 語文卷』、pp81-116。
- (22) 課程教材研究所編『20世紀中国中小学課程標準・教学大綱編 語文卷』、pp176-184。
- (23) 課程教材研究所編『20世紀中国中小学課程標準・教学大綱編 語文卷』、pp185-251。
- (24) 「面向21世紀教育振興行動計劃（21世紀に向けた教育振興行動計画）」何東昌主編『中華人民共和国重要教育文献1998-2002』（海南出版社、2003）、pp217-218。
- (25) 秦訓剛、晏渝生主編『全日制義務教育語文課程標準教師誦本』（華中師範大学出版社、2003）、pp161-197。
- (26) 課程教材研究所編『20世紀中国中小学課程標準・教学大綱編 語文卷』、pp255-266。
- (27) 陳暉主編『二十一世紀絵本課堂』（一年級）（二十一世紀出版社、2012）、pp3-4。

（本研究は2021年度松下幸之助記念志財団研究助成を受けたものである。）

論文執筆者一覧

宮 偉	城西国際大学 教授
侯仁鋒	県立広島大学 名誉教授
鄧凌志	山東大学外国語学院博士後期、浙大寧波理工学院外国語学院
楊潔冰	河南理工大学外国語学院日本語学科講師
李欣欣	四川大学文学与新聞学院博士課程、湖北民族大学外国語学院
魏琬婧	杏林大学大学院 国際協力研究科
劉 娟	横浜国立大学博士課程、東京学芸大学附属国際中等教育学校講師

『日中翻訳文化教育研究』論文執筆要領

1. 投稿は日中翻訳文化教育協会の正会員に限り、原稿は未公開のものに限る。
2. 原稿は横書きとし、使用言語は日本語または中国語とする（英語も可）。
3. 原稿は原則として、日本語については常用漢字を使用し、中国語については簡体字を使用するものとする。ただし、必要があればその限りではない。
4. 日本語の原稿は 43 字× 35 行× 10 ページ以内、中国語の原稿は 20 字× 35 行× 20 ページ以内とし、手書きの原稿は不可とする。
5. 原稿の上限は、文字数ではなく、原稿のページ数による。引用文等の字下げおよび改行等による空白も文字数に換算されるので注意すること。また、図版を必要とする場合も、相応の文字数分を含めるものとする。なお、図版のデータは本文のデータとは別に提出すること。
6. 注は各章・節ごとに付けず、文末にまとめて付すこととする。また、注番号はすべて通し番号とし、本文中に（ ）付き数字により示すこと。ソフトウェアの注機能等は使用不可とする。
7. 引用箇所等のインデントは、行頭にて（2 字下げ）（3 字下げ）等と明示すること。
8. 応募時に、原稿とは別に 2000 字以内の論文要旨を添付すること。
9. 原稿は電子メールによる投稿とする。郵送および持参は認めない。
10. 投稿時の事故に備え、提出前にあらかじめ論文原稿のデータを複製しておくことが望ましい。
11. 執筆者校正は再校までとする。校正時の加筆・訂正は必要最小限のものについてのみ認める。
12. 論文抜刷は作成しない。
13. 掲載論文については、その著作権は日中翻訳文化教育協会に帰属するものとし、ホームページ等に公開することがある。ただし、当該論文が第三者の著作権その他の権利の侵害問題を生じさせた場合、一切の責任は執筆者が負うものとする。なお、掲載された論文の執筆者は、無許諾かつ無償で当該著作物の再利用をすることができる。



【活動報告】2021年3月～2022年2月

- (1) 2021年度第一回臨時理事会(オンライン) 2021年4月10日
- (2) 第三回“立思杯”2021年度中国全国大学院生中日翻訳コンテスト並びに林四郎教授百寿記念(オンライン) 2021年12月5日

北京師範大学外文学院日本語教育教學研究所、立思外国語学院の共催、在中国日本大使館、国際交流基金北京日本文化センター、外文出版社、外語教學与研究出版社、両風堂出版社などの協賛で実施。当協会の松岡榮志会長を審査委員長に、杜勤(上海理工大学)、林洪(北京師範大学)、丁国旗(広東外語外貿大学)、潘鈞(北京大学)、李国棟(西安交通大学)、津田量(国際関係学院)、薛豹(外語教學与研究出版社)、賈秋雅(外文出版社)の9名が審査を担当。北京大学、北京外国語大学、西安交通大学、釜山外国語大学など79の大学から500名以上が参加し、于曉嬌(西安交通大学)ほか21名が入賞。12月5日にオンラインで授賞式及び訳文講評の公開講座を実施。

【今後の活動予定】

- (1) 『日中翻訳文化教育研究』第7号刊行 2022年3月

※ 詳細レポートは協会ホームページ (<http://www.setacs.org/>) にてご覧ください。

一般社団法人日中翻訳文化教育協会会員規約（2015年4月1日施行）

第1条（代議員制の採用）

当協会には次の会員を置く。

- (1) 正会員：当協会の目的に賛同して、次条の規定により入会した大学の教員、もしくはそれに準ずる者。
- (2) 準会員：当協会の目的に賛同して、次条の規定により入会した大学院生、もしくはそれに準ずる者。
- (3) 団体会員：当協会の目的に賛同して、次条の規定により入会した研究所、研究・教育団体、その他民間団体。

第2条（入会手続き）

当協会への入会を希望する者は、所定の入会申請書類に必要事項を記入し、事務局を通じて理事長に提出し、理事の多数決による承認を受けなければならない。

前項の入会申請をするためには、正会員及び法人会員の場合は理事1名の推薦を要し、準会員は正会員1名の推薦を要するものとする。

入会后、申請内容に変更が生じた場合、会員は速やかに事務局へ届け出なければならない。

第3条（入会金及び会費）

当協会の事業活動運営費用に充てるため、会員は別途定める会費を納めなければならない。

既納会費は、いかなる事由があっても返還しない。

第4条（会員の資格取得）

会員の資格は、第2条の手続きの後、前条の会費を納入することにより取得するものとする。

第5条（会員の権利）

会員は、その種別に応じて次の権利を有する。

(1) 正会員は、当協会が発行する学術研究誌に投稿する資格を持つ。

(2) 準会員は、当協会が発行する季刊誌に投稿する資格を持つ。

(3) 正会員は、当協会が主催するセミナー等の講師を務めることができる。

(4) 正会員及び準会員は、当協会が主催するセミナー等に優先的に参加することができる。

(5) 団体会員は、当協会の主催する事業に優先的にパートナーとして参与することができる。

第6条（任意退会）

会員は、理事長宛に退会届を提出することにより、任意に退会することができる。

第7条（除名）

会員が次のいずれかに該当するときは、理事会の議決によって除名することができる。その際、当該会員に対して、理事会の1週間前までに理由を付して除名する旨を通知し、かつ理事会の場において弁明の機会を与えなければならない。

(1) 当協会の名誉を傷つける、又は当協会の目的に違反する行為があったとき。

(2) 当協会の定款または規則に違反したとき。

(3) その他除名すべき正当な事由があるとき。
前項により除名が決議されたときは、除名された会員に対して、理事長はその旨を通知しなければならない。

第8条（会員資格の喪失）

前二条のほか、会員が次のいずれかに該当する場合は、その資格を喪失する。

(1) 当該年度末において会費が未納であるとき。

(2) 全ての理事の同意があったとき。

(3) 会員が死亡したとき。

(4) 団体である会員が解散したとき。

2022 年度役員

2022年4月1日予定

会 長	松岡榮志	副 会 長	侯仁鋒、徐一平	顧 問	章健、張中毅
常務理事	林洪、薛豹、高寧、杜勤、宮偉、関旭、周来友、李国棟、馮口珍、関久美子、坂口憲聡（事務局長）				
理 事	劉曉芳、范建明、李俄憲、施小煒、宮首弘子、林璋、陳多友、丁国旗、高仁德、陳慧玲、徐文智、祁福鼎、錢曉波、陳紅、楊鉄錚、山口千佳、周洋、范文、陳亞運				
東京事務局	坂口憲聡、郡司祐弥	大連事務所	周洋	金華事務所	陳亞運

編集後記

『日中翻訳文化教育研究』第7号をお届けします。本号は7篇の論文を掲載することができました。応募してくださった皆様ありがとうございます。また次回もお待ちしております。

編集部では、日中翻訳文化教育叢書として范文先生の著書も出版予定です。こちらもぜひご覧下さいませ。

(郡司祐弥)

日中翻訳文化教育研究

No.7

2022年3月31日 印刷

2022年3月31日 発行

編集 一般社団法人 日中翻訳文化教育協会 (略称: SETACS)
(The Society of Education for Translation And Cultural Studies
in Japanese and Chinese)
〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-1-6 リブ九段 502
電話: 03-6380-9639 FAX:03-6380-9649
メールアドレス: office@setacs.org
URL: <http://www.setacs.org/>

発行 両風堂
URL: <http://www.ryofudo.jp/>

印刷 株式会社ゼンリンプリンテックス
〒800-0064 北九州市門司区松原 3 丁目 5 番 8 号
URL: <http://www.zpx.co.jp/>

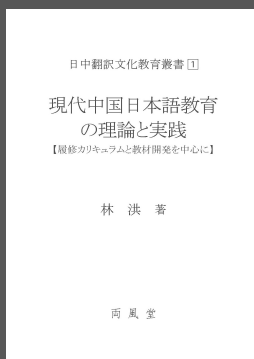
©SETACS 2022

日中翻訳文化教育叢書

日中翻訳文化教育協会 編集
両風堂 発行

①

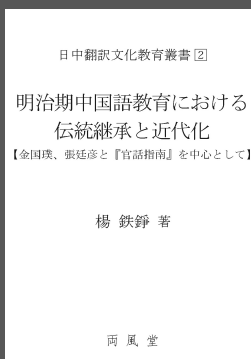
『現代中国日本語教育の理論と実践』(林洪著)



定価 6,800 円 + 税 ISBN:9784907953072
2018 年 4 月 23 日発売

②

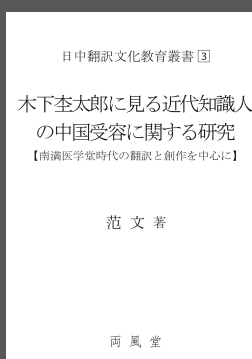
『明治期中国語教育における伝統継承と近代化』(楊鉄錚著)



定価 5,800 円 + 税 ISBN:978490795309
2018 年 11 月 3 日発売

③

『木下圭太郎に見る近代知識人の中国受容に関する研究(仮題)』(范文著)



※近刊 2022 年春刊行予定

『日中翻訳文化教育叢書』として、優れた博士論文などを著書として日本で刊行します。

- ◎体裁：A5 版 上製(精裝版) 300 ページ前後 図版(白黒)有り
- ◎原稿：25 万字前後 完全原稿(校正 1 回) MS-WORD データによる入稿
- ◎費用：内容に応じて異なりますのでご相談ください
- ◎製作期間：およそ 6 ヶ月
- ◎販売：正規の出版物として、ISBN と定価をつけ、日本の書店などで販売します。
- ◎連絡先：両風堂 坂口憲聡 Mail-ADDRESS: inq@ryofudo.jp
- ◎申込書フォーム：協会 HP (URL: www.setacs.org) または WeChat より DL 可能

両風堂



日中翻訳文化教育協会
Tokyo Beijing-Dalian-Jinhua

〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-1-6 リブ九段 502
TEL:03-6380-9639 FAX:03-6380-9649 <http://www.ryofudo.jp/>

